茂菅農場記念誌

信大茂菅ふるさと農場

―“人づくり”への挑戦―

2014年（平成26年）2月

信州大学教育学部

信州大学 教育学部 図書館

心から、感謝申し上げます

信州大学教育学部
学部長 平野 吉直

平成 12 年に始まった「信大茂菅ふるさと農場」が、平成 25 年をもって閉場いたしました。その貴重な足跡を、このたび『信大茂菅ふるさと農場－“人づくり”への挑戦－』としてまとめることとなりましたことを、たいへん嬉しく思います。

関係各位のご協力のもと、当時の学生たちの開墾作業から始まった「信大茂菅ふるさと農場」は、これまで多くの学生、そして地域の子どもたちの心を耕し、地域の教育力の重要性と可能性、体験活動の意義を学ばせていただきました。14 年間という長きにわたり、学生への指導、農場の維持・管理などに際して、林部信造様、JA ながの関係者の皆様をはじめ、数多くの皆様のご支援、ご協力をいただきました。
この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

農場は閉じられましたが、農場で貴重な学びをさせていただいた本学部の卒業生たちは、自然と地域の力に感謝する心を持ち続け、全国各地で土を耕し、作物を育て、豊かな学びを提供できる教育者になっていると確信しております。

本冊子を刊行するにあたり、ながの農業協同組合代表理事組合長 豊田実様と林部信造様から多額のご芳志を賜りました。
ここに記して深く感謝申し上げます。

地域に根ざした茂菅農場の意義

ながの農業協同組合
代表理事組合長 豊田　実

「信大茂菅ふるさと農場」の活動が始まり、14年の長きにわたり継続されてきたことはとても意義のあることであります。20年前に土井進教授と学生の皆さんが子どもたちと接するための方法として、平成6年に「信大YOU遊サタデー」を始められました。その延長線上にあった“人づくり”のための“土づくり”の思いが、この茂菅農場となって実現したのだと思います。

当初、茂菅農場をスタートさせるためには多く課題が立ちはだかりました。まずは農地の確保です。信州大学から通える近くの農地であること、参加者用の駐車場があること、農場の管理をどうするか、そして農業指導者の確保などの課題です。この課題を解決するために、土井教授は何度も当JAを訪れ、当時の役職員と協議のうえ茂菅の地に農場を設けることができました。これは学生の熱意に押され、土井教授が幾度も交渉を続けた成果でしょう。当JAは栽培指導等を担い、地元農家の林部信造氏に様々な面でご協力をいただき、ここに茂菅農場が誕生しました。

農場を管理運営するには、地域の人々と接する機会も多々あったことでしょう。農場周辺の農家をはじめ水田用水の当番等では、普段の学生生活では関わることのない世代や職業の方々の中に入り、自分たちの活動を理解してもらうための対応はどうすればよいか、学生の皆さんは悩む機会が多かったのではないでしょうか。そんな時にも林部氏の助言や土井教授からの指導を受け、自らが実際に対応し経験することで事業は前に進み、自分たちの求める活動を作り上げることができたのではないでしょうか。こうしてスタートした茂菅農場では、様々な活動が行われてきました。毎年、信大の3年生が正副農場長を務め、その年に栽培する農作物や活動の内容について企画し、特色ある取り組みを行ってきました。参加した子どもたちにとってはとても楽しいものであったと思います。

また茂菅農場にはもう一つの側面、国際協力田としての位置付けがあります。この国際協力田運動は飢餓に苦しむ国へ米を送る活動であり、JAグループでは平成10年より取り組んでおります。現在、世界には9億人以上もの食料に苦しむ人々がおり、世界の人口に占める割合は15%とその状況は深刻で、6秒に一人の子どもが餓死しています。茂菅農場では当初からこの運動に参加し、収穫したお米は県内各地の取り組み組織と合わせ、ＮＧＯマザーランド・アカデミー・インターナショナルを通じて、世界でも最貧国の一つであるマリ共和国に送っています。

マリ共和国は西アフリカ内陸の国で、国の北部にはサハラ砂漠の一部があり高温乾燥の地域です。綿花や落花生の生産など農業が中心の国で、干ばつや内戦などにより、大変な飢餓に苦しんでいます。5歳までの幼児死亡率が世界ワースト8位（1988年当時は1位）で、食料・医療・医薬品の不足が深刻化している国でもあります。2012年3月に起こった紛争で6万7千人の人々が難民になるなど、社会的にも政治的にもさらに厳しい状況が続いています。同じ地球上であっても住んでいる国が違うだけで、一日の飲み水や食事がままならない地域があることを国際協力田運動を通して知ることができ、食料の重要性また、地域社会、人と人とのつながりについて、新たな視点に立ち、自らの目で見て、感じ、考える事ができたのではないでしょうか。

茂菅農場の取り組みは平成25年度で終わりますが、その根底に流れる“思い”は信大教育学部の学生諸君に受け継がれて然るべきものであると思います。「信州教育」の礎の一つとして、次世代への教育指導者の資質として、茂菅での体験が心の1ページにしっかりと記され、受け継がれていくことを信じ、願っています。そして、何よりも茂菅農場に参加した子どもたちにとって、少年少女時代の茂菅農場における様々な自然体験・社会体験が人格形成に有益に寄与しているものと確信します。

当JAとしましても茂菅農場の活動を通じ、地域農業への理解や食の大切さ、食料自給率の重要性など農業の果たす役割について知っていただくうえで重要な意義がありました。農業は人間生命の根幹を成す食料を作り出す産業です。工場では米も野菜も肉も作り出すことはできません。農業は自然と対話し共存する中で、人間にとって効率的で安定的な食料の供給を行うことを可能にしています。しかしながら日本は、1960年には79%あった食料自給率が年々低下し、現在は食料の61%を外国からの輸入品に依存している状況です。食卓は全国各地、世界各国の農産物により彩られています。

これからの日本の食料生産の変化、輸入農産物の増加を始めとして、農業を取り巻く環境の変化が、国民生活にどのような影響をもたらすのか、今後の日本のあるべき姿について、次の時代を担う子どもたちのためにも考えて行く必要があるのではないでしょうか。

最後に、この農場の取り組みの意義として、社会教育のうえに少なからぬ寄与を実現することができましたことに対し、心から感謝申し上げ御礼の言葉とさせていただきます。

農場の開墾と学生主体の運営

信州大学教育学部
教授 土 井 進

「農場」は、2000年度（平成12年度）にJAながのと長野市茂菅地区農家林部信造・幸子夫妻のご協力を得て開設された。学生たちが鍬と鎌、鋸、鉈を用いて、6年間放置された荒廃地を教育用の水田4a、畑8aとして開墾した。この「農場」は教育学部から国道406号を徒歩で20分の裾花川沿いに位置しているので、学生が自転車で参加できる。また、農作業体験を地域社会の子どもたちと一緒に行うためには、保護者用の駐車場を確保することが必須条件である。幸いなことに国道に架かる茂菅大橋の下は、25台を止めることのできる絶好の駐車場であった

教員養成を本務とする教育学部が「農場」に着目したのは一体なぜであったか。休業土曜日に地域社会の子どもたちを大学に招いて、様々な体験活動を行う「信大YOU遊サタデー」という授業外活動が開始されたのが1994年（平成6年）であった。この活動には1回に200名ほどの子どもと70名～100名の学生が参加する。この学生集団は教育篤志者であると言ってよい。子どもたちの笑顔に出会うために学生たちは寸暇を割いて教材開発に取り組む。当日の朝を迎えると1時間前には、正門でのお迎え係、駐車場係、受付係、そして警備係などの任務に就く。子どもたちを「迎え3分に送り7分」の精神で、一人ひとりの子どもたちを正門まで出て迎え、閉会式が終わると正門まで出て見送る。その後、会場の片付け、掃除を済ませると活動のリフレクションが行われる。ひと時も身体の休まる間のない中で、生協での昼食が子どもたちであふれていたために、食べ損なう学生リーダーが出てしまった。体力に自信のある学生たちではあったが、後片付けの時間になると流石にへたり込んでしまう学生が出てしまった。この必死な姿に筆者は学生に無理をさせてしまったと猛省した。それで次回からは、クッキング隊という係を配置して昼食を摂る間もない学生リーダーに「おむすび」を用意することにした。無償で子どもたちのために奮闘努力している学生リーダーに「おむすび」を差し入れることは、「信大YOU遊サタデー」の活動を無事故で推進する上で何よりの原動力となった。こうして「YOU遊」の実践を継続していくために、学生のエネルギー源となるお米を自前で確保する必要性が出てきた。

もう一つの「農場」開拓の理由は、大学キャンパスで年3回、6年間にわたって実施され地域社会から好評を得てきた「信大YOU遊サタデー」であったが、そのイベント的性格のために、学生にとって労多くして1日だけであっという間に終わってしまうということが問題であった。この課題を打破して通年にわたる継続的な活動へと脱皮するために、子どもを大学に集めるのではなく、学生の方が地域社会に出ていこうと発想を転換した。そして、地域社会のなかで荒廃地を借り受けて学生が子どもたちと一緒に、「土づくり」に取り組むことを通して、教員養成の本務である「人づくり」を実現したいと志したのである。

「農場」は、立候補によって選ばれた学生3役（農場長、副農場長）とJAながの営農指導員、林部信造・幸子夫妻、そして筆者の合議によって運営されている授業外活動である。学生は、主体的・自主的な判断によって「農場」に参加しており、単位にもならないし、アルバイトにもならない。にもかかわらず正副農場長を志願する学生が毎年現れ、14年間継続されてきた。「農場」は授業科目としても活用されてきた。「生活科指導法基礎」A・B（前期、各70名）、「生活科指導法基礎」C・D（後期、各70名）、「総合演習」（20名）である。「農場」で学び卒業した学生は今や3,000名を超え、全国各地のそれぞれの勤務校において地域と連携した独創的な生活科や総合的な学習を実践している。これは「農場」がまさに「土づくり」を通して「人づくり」を実現してきた実像であると言ってよい。これは一重にJAながの営農指導部の皆様、そして林部ご夫妻の絶大なるご理解とご協力の賜物である。ここに深く感謝の意を表したい。本当にありがとうございました。

「信大茂菅ふるさと農場」の閉場

平成25年10月13日（日）に、「信大茂菅ふるさと農場」において閉場式が行われました。閉場式には、教育学部の永松裕希副学部長、JA ながのの小池宏明営農指導部長、地主、用水組合、マスコミ関係者、茂菅農場で活動したOB・OG、子どもたち・保護者など、合計159名の方々がご出席くださいました。

当日は絶好の小春日和となり、和やかな雰囲気のもと、閉場式が執り行われました。「信大茂菅ふるさと農場」と書かれた大看板が取り外された際は、皆が農場の最期を惜しむかのように、看板をじっと見つめていました。式典が終わった後は、農場で収穫した古代米ともち米で作った赤飯のおにぎりと、同じく農場で収穫したサツマイモを用いた焼きいも、そして林部農園で育てられたりんごをいただきながら、農場での思い出話に華を咲かせていました。そして、後片付けの時間になっても、多くの皆さんが14年間を懐かしみ、いつまでも農場の光景を眺めていました。

「信大茂菅ふるさと農場」閉場奉告式　祝詞

茂菅　飯縄神社　宮司　齋藤英之

御薦刈る信濃の国は高き山の緑いや濃く、山脈は錦なし、　裾花川の清き流れを望む　この茂菅の里の　佳き処のうまし処を祓い清めて、神籬逆し立てて招き奉り坐せ奉る　掛けまくも畏き　田の神・畑の神・食物の神と称え奉る　産土の飯縄神社の大神の大前に恐み恐みも白さく。

去し日に、信州大学教育学部教授土井の進い、諸人らと相計り相語らいて、若き健児・友垣の学生・児童らの為に農業を通して人格の形成を遂げむと志を建て、言挙げする事と成りぬ。

而して、この茂菅の里に住む林部の信造夫妻が便利き農場を貸し分かち、営農指導として小池の宏明伊を始め農業に秀でたるJAながのの諸人らが力を合わせて、互いに勤しみ励みつつ作業をすることと成りぬ。

斯くして十四年の月日は流れぬ。この間、学生らは樫の実の一つ心に、子どもらとともに額に汗を流し、天を仰ぎ地を見つめ、我が国ぶりと誠の心ただ一筋に、農の技を通して人の教育を進めるが故に、十四年の年月には数々のことはあれども、林部夫妻は、ある時は翁媼となりて若き学生を見守り、若き学生は父母の慈愛と慕うこととなりぬ。

この度、今日の平成二十五年神無月十三日の生日の足日に、ゆくりなくも「信大茂菅ふるさと農場」の閉場を執り行う事と成りぬ。大神の大前にこの由を告げ奉る様を平けく安らけく聞し食して、今ゆ行く先、この農場に集える各も各もが、清き明るき真心持ちて、誠の道に違うことなく、世の為人の為に力を尽くし、生業をいや興しに興し、いや進めに進む世の真人と成さしめ給い。

また、参来る若人らがいや繁く、十四年の年月に三千人もの多きに至ることになりぬる事は、大神の高き尊き御恵みに事依さし給えることと謝び奉り辱なみ奉りて、今日の御祭に仕え奉る諸人らを愛で給い嘉み給い、守り恵み幸わえ給えと、恐み恐み　も白す。

「信大茂菅ふるさと農場」閉場式次第

一、開会の辞
一、信州大学教育学部長挨拶
　副教育学部長　永松裕希
一、感謝状の贈呈
一、ながの農業協同組合長挨拶
　営農指導部長　小池宏明
一、神事
一、記念撮影
一、看板の取り外し式
一、閉会の辞

【14年間農場を見守ってきた看板の取り外し】

＜閉場式での永松裕希副教育学部長の挨拶から（一部抜粋）＞

学生たちが茂菅において、子どもと関わりながら作物を育てる活動から得た喜びは、とても大きな収穫であったと思います。ただそれに加えまして卒業生たちの声でありますとか関係されました方のお言葉を聞きますと、閉場式にありがちな寂しさではなく、何かみんながこういうものを学んできたのだという喜びが伝わってきます。人と一緒に何かを作り上げていくという楽しさ、醍醐味を感じていることがわかります。また、ユニークなアイデアを出すことも難しいですが、それを実現していくことはもっと困難で、余程のチャレンジ精神がなければ実現しません。学生の皆さんには一人ひとりにそのチャレンジ精神が溢れています。茂菅の活動とともに人と自然に交わる醍醐味を味わい、チャレンジ精神を身につけた皆さんは、茂菅がこれで終わってしまうのではなく、きっと第二、第三の茂菅として展開していくのだろうと私は思います。毎年ユニークな活動を実現してきた陰には、どれだけ地域の皆様のご尽力があったことかはかりしれません。関係された皆様に心から感謝申し上げます。

＜農場閉場を告げる、報道記事＞

＜「信大茂菅ふるさと農場」最後の集合写真＞

土井先生とゆかいな学生たち

YOU-YOUキャンプの企画書を持ち、話をさせてもらいに行った日のことは、一生忘れません！手を取ってくださり、本当にありがとうございました！！
土屋克明

私たちを信じて、見守ってくださった先生のお陰で活動ができました。先生の自転車のスピードにはびっくりです。
遠山芽衣

YOU遊の活動でたくさんの子どもの笑顔を見ることができました。このような活動をもっと広げていければいいと思っています。
北村準一

「絶えない笑顔」「優しい言葉」がトレードマークの土井先生！今でも尊敬しています。
原卓也

「学生の思い」という芽を大切に育て、実らせてくださった先生こそが"大地"でした。
宮川はるな

このYOU遊で学んだことは、教師として、一人の人間として私の財産です。ありがとうございました。
手塚亮介

時々長野へ出張するとき、土井先生の車を良く見かけます。その度に茂菅のことや牟礼で経験してきたことを思い出します。ありがとうございました。
高橋和之

YOU遊世間でいろいろな経験ができたのは、土井先生がいてくださったからです。ありがとうございました。
藤田裕介

学生のアイデアを寛容に認めて、最大限応援して下さる土井先生に、助けられました。
永原正裕

最後まで学生を信じて任せてもらえたことが、本当に幸せです。土井先生みたいな大きな人間になれるように頑張ります。
那須絢太郎

「農業」という一人ではなかなかできないことをやる機会を与えていただき、本当にありがとうございました。
矢竹喜美子

礼に始まり礼に終わる先生のお背中から多くのことを教えていただき感謝しております。一生の宝物をありがとうございました。
花村尚美

茂菅の活動では土井先生の行動力に驚かされたことがとても印象的です。このことが、教師の立場でもとても大切であることを実感しています。
松井泉樹

私たちのやりたいことを最優先して支えてくださった土井先生！本当にありがとうございました。
菊池智香

自転車をこいでいる土井先生を見るたびに、私も押さないでこがなくてはと気持ちを正されます。
高坂泉

実学を重んじる教育がいかに重要か、土井先生と出会わなければ一生考えることはなかったと思います。感謝します。
飯島香純

官業では感謝し切れないくらいお世話になりました。先生からの教えを忘れず、今後も励んでいきます。
原山美樹

茂菅という素敵な場所を与えて下さったことに心から感謝しています。土井先生のように挑戦し続ける人になりたいです。
鈴木祐香

1年時のあおぞら空間に始まり、先生には本当に大切なことをたくさん教えていただきました。多くのすばらしい出会いの機会を与えてくださり本当にありがとうございました。
平林照世

ＹＯＵ遊のおかげで、多くの経験ができました。その経験をこれからも活かしていきます！
川端智子

「土づくりによる人づくり」。茂菅での活動を通してたくさんのことを教えていただき、私自身育てていただきました。本当にありがとうございました。
北川伸尚

充実した大学生活があったからこそ今がんばれます。子どもたちのために…がんばります！
飯島理沙

学生が思い思いに活動できたのは、土井先生が責任をおってくださったおかげだったのだと社会人になって初めて分かりました。ありがとうございました。
神林彩井

土井先生と田のヒエを取ったことが今でも忘れられません。調子を崩した時も温かい言葉で励まして下さって感謝しています。
宇良知子

先生のお陰で貴重な経験ができ、今の私がいます。これからも玄米パワーでお元気で！
中川茜

長野のお父さんお母さん ☆ありがとう☆

長い間支えて下さり本当にありがとうございました。いつまでもお元気で長生きして下さい。　原山英樹

いつも明るく私たちと接し、農作業を教えてくれるお父さんを尊敬してます。これからもかわらない笑顔なお父さんでいて下さいね。　北村華一

お父さんと時間が経つのを忘れて語り合った日々。一生忘れません。いつまでもお元気で！　郡須鈞太郎

私も、いつもあたたかく笑顔を絶やさないお二人のようになりたいです。いつまでもお元気で！　飯島理沙

おいしいりんごやご馳走、お父さんとお母さんの温かい雰囲気、一緒に過ごした時間…ぜーんぶ大好きです！　菊池智香

いつでも温かく見守ってくださる林部ご夫妻の笑顔が大好きです。大地の優しさに包まれているようでした。　花村尚美

茂菅の活動など本当にお世話になりました。美味しいご飯をいつもありがとうございました。また遊びに来ていいですか。　手塚亮介

どれだけ感謝してもしきれません。お父さん、お母さんあっての農場であり、学生や子どもたちの笑顔です。いつまでもお元気でいてくださいね。　北川伸尚

行くといつもあたたかく迎えて下さる林部夫妻。会うと元気になるのはなぜ？感謝の気持ちでいっぱいです！　高坂泉

いつも温かく迎えてくれてありがとうございます。これから先も長野のお父さんお母さんへ恩返しをしていきたいです。　宇良知子

お父さんのあたたかな笑顔が大好きです。お父さんの歯の話には驚きました。ずっとずっとお元気で！　遠山芽衣

林部さん家でいただいたお茶はとてもおいしかったです。とてもいい思い出になっています。ありがとうございました。　高橋和之

茂菅農場で林部お父さんお母さんに出会えたことは、私の人生にとって宝物です。これからも末永くよろしくお願いいたします。　神林彩井

いつでも温かく迎えてくれ、頼れるお父さん、料理上手なお母さん、出会えたことが幸せです！　原卓也

「お父さんお母さん」と呼ぶ子どもたちは数えきれないほどいるにも関わらず、いつもどんな時でも温かく迎えて下さる林部ご夫妻。娘の一人になれて幸せです。　鈴木祐香

あっぷるずで本当に楽しく過ごさせていただきました。お父さんからの教え、お母さんの温かさとお料理は一生忘れません！本当にありがとうございました！　土屋克明

野菜、りんご、田んぼ・・・農業経験が楽しかったです。食事をしながら語らう時間も大好きでした。　川端智子

永遠に茂菅のおとうさんとおかあさんが私たちみんなのふるさとです。お疲れさまでした！　中川茜

お父さんとお母さんに出会えて私の毎日は輝き、かけがえのないものになりました。心から感謝しています。　飯島香純

いつも温かく、そっと応援して下さる林部ご夫妻に、何度も励まされました。　永原正裕

りんご畑でのお花見、歌って踊って笑って身も心も満腹でした。茂菅は長野のふるさとです。感謝の気持ちでいっぱいです。　松井泉樹

本当にお世話になりました。りんごの向きを変えるお手伝いがすごく思い出に残っています。おいしい料理や楽しい旅行、ありがとうございました。　矢竹喜美子

いつ伺っても、あたたかいお心と、楽しいお話、おいしい手料理で迎えていただき本当に感謝しています。教採前夜に事故ってお世話になってしまったこともありました（汗）お父さんお母さん、これからもこんな娘をどうぞよろしくお願いします。　平林照世

茂菅でがんばれたのは、いつも笑顔で協力してくださるお二人がいたからです。ありがとうございました。　藤田裕介

おとうさん、おかあさんの「娘」になれてよかった♡「助手」になれてよかった♡　宮川はるな

目　　次

● 心から、感謝申し上げます …… 1
● 地域に根ざした茂菅農場の意義 …… 2
● 農場の開墾と学生主体の運営 …… 3
● 「信大茂菅ふるさと農場」の閉場 …… 4
● 土井先生とゆかいな学生たち …… 6
● 長野の お父さん お母さん ありがとう …… 7
● 目　次・記念誌の編集方針 …… 8
● 大茂菅地図 …… 9
● 「信大茂菅ふるさと農場」の活動歴史 …… 10
● 地主さん、ありがとう …… 13
● 茂菅農場学生スタッフ一覧 …… 15
● 年度別の活動紹介 …… 17
● 林部ご夫妻への贈り物 …… 73
● 茂菅学生スタッフの樹 …… 75
● 茂菅農場に参加された子どもたち、保護者さん、ありがとう …… 81
● 「信大 YOU 遊興譲館」 農場の活動に参加した中学生の声 …… 84
● 「ＪＡながの」の皆様、ありがとう …… 91
● 土井先生が語る「信大茂菅ふるさと農場」の歩み …… 95
創設秘話・今だから明かせる？存続の危機!!・今までを振り返って・
土井先生ってどんな人?!・教員養成に及ぼした効果
● 林部信造翁の「茂菅農場」観 …… 100
● 編集後記 …… 112

記念誌 の 編集方針

『茂菅農場記念誌』を編集するにあたり、編集委員会では、記念誌のテーマを次のように設定した。また、掲載した原稿・写真等の内容等については、土井進教授と林部信造様に目を通していただきました。

〈記念誌のテーマ〉 学生と地域の方々が協力して実践してきたみんなの“ふるさと”、茂菅の活動歴史を懐かしんでもらい、さまざまな恵みに感謝し、これからの生活につなげていく。

このテーマには、次の３つの意味が含まれている。

① 活動に携わった人すべてが“ふるさと”と呼ぶ茂菅農場への感謝の念と、活動を支えてくださったすべての皆様への感謝の気持ちを表現する。

② 学生が主体（発信源）となって地域の方々に様々なご協力をお願いし、地域の子どもたちのために行ってきた茂菅の 14 年間の活動歴史を振り返る。

③ 本誌の内容が、これから地域に根ざした“人づくり”のための“土づくり”を志す人々の参考事例となるように編集を工夫する。

【表　紙】	絵	加藤大貴 君
	看板文字	市澤静山先生
【裏表紙】	書	林部幸子先生

大茂菅地図

行きは天国、帰りは地獄の坂道。運動不足のスタッフには辛い…。

「信大茂菅ふるさと農場」に到着！！

信大茂菅ふるさと農場

もすげの橋手前のガソリンスタンド。もうすぐ坂が終わる、頑張れ―！

田んぼの水でお世話になった裾花川。川遊びをした年もありました。川沿いのグラウンドでは野球部がよく練習しています。

長野商業高校野球部のグラウンド

もすげスタッフが買い食いしがちなスーパー。コロッケとメンチカツがおススメです。

もすげスタッフ御用達自転車屋さん。パンクしても安心です。

西部中学校

加茂小学校

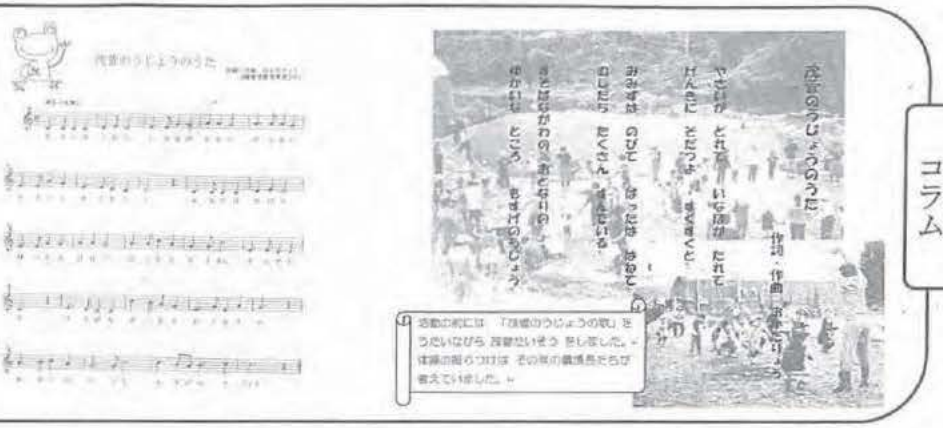
YOU 遊の物品庫。活動で使うテントなどを林部さんが軽トラで運び出してくださいます。

いざ「信大茂菅ふるさと農場」へ出発―!!

信州大学

信大もよりのコンビニ。活動日の朝ごはんや飲み物はここで買う人が多いようです。

コラム



「信大茂菅ふるさと農場」の活動歴史

「信大茂菅ふるさと農場」のあゆみ

長野市茂菅地区に位置する「農場」は、教育学部キャンパスから西へ約２キロメートル、鬼無里方面に向かう茂菅大橋の下に位置します。教育学部から徒歩で約 20 分、自転車で 10 分の距離にあり、多くの学生は自転車で農場まで通っています。旭山の麓、裾花川沿いにあり、緑に囲まれた静寂な場所にあります。澄んだ空気と北アルプスから流れてくる清流に接していると自ずと癒されるのを感じることができます。

この長野市茂菅地区は、かつて 1917 年（大正６年）の４月、長野県師範学校附属小学校訓導であった淀川茂重が、同校主事であった杉崎瑢（1877～1943）の指導のもと「研究学級」を開設し、児童とともによく散歩に出かけ、地域観察をしたところであります。この「研究学級」というのは、「教師たちが自分たちの給料の一部を出し合い、校長や主事が学校予算を内部的にやりくりして、教育研究のために一学級を増設した」（中野光『教育空間としての学校』、EXP、2001 年、p.147）ものでありました。このような生活科や総合学習と深いつながりのある地域に、教員養成カリキュラムとして 83 年ぶりに「農場」を開設することになりました。

「農場」は 2006 年（平成 18 年）に畑３アールを拡張し、2008 年（平成 20 年）10 月には、３年間放棄されていた隣接地の畑２アールも借り受けて開墾しました。こうして、７アールの広さから始まった「農場」は、その後の９年間で 12 アールにまで広げることができました。

「信大茂菅ふるさと農場」は「生活科指導法基礎」や「総合演習」の教材として活用されたばかりでなく、「信大 YOU 遊」のフィールドとして活用されてきました。これまでの 14 年間の農場長・副農場長は、みな自発的な立候補によって選ばれてきました。そして、毎年必ず何か新しいことに挑戦し、その年の特色としてきました。

それらを表にしてまとめると、次のようになります。

年　度	農場長・副農場長	特色ある活動
平成 12 年 （1 年目）	杉山　雅幸(野外) 千野加世子(生活)	荒廃地の開墾。畑作業のグループ制とオーナー制の比較を行った。
平成 13 年 （2 年目）	西澤　俊輔(理数) 原山　美樹(生活) 花村　尚美(理数)	秋の田起こしが終わった水田に蓮華の種をまいた。春にきれいな花を咲かせた田んぼで、子ども達と草花遊びをした。他大学からも活動に参加してもらった。
平成 14 年 （3 年目）	那須　紋子(生活) 高橋　和之(理数)	田植えの終わった水田に、佐久で購入したフナの稚魚 4,500 匹を放流し飼育。泥遊びの活動も行った。
平成 15 年 （4 年目）	北川　伸尚(特支) 宇良　知子(生活)	茂菅米で餅つき、茂菅で収穫した完全無農薬の新米でお寿司パーティー。
平成 16 年 （5 年目）	神林　彩井(生活) 吉澤あすか(言語)	冬におはぎ作り。水田の畦に植えた大豆を収穫し、きな粉にすりつぶした。
平成 17 年 （6 年目）	松井　泉樹(生活) 川端　智子(実践) 矢竹喜美子(理数)	ジャンボかぼちゃが２個大きく実った。第 4 回 YOU 遊フェスティバルの会場入り口に入場門として置いた。

平成18年 （7年目）	平林　照世(言語) 川辺　裕作(実践) [redacted]	五穀豊穣といわれるが、五穀を実際に栽培したいと考え、米・麦・豆・粟・黍を栽培した。また、落花生も栽培した。
平成19年 （8年目）	洞出　直美(実践) 上田　雄介(理数)	背中に「八代目茂菅組」と書かれた橙色のつなぎを着て作業した。
平成20年 （9年目）	宮川はるな(言語) 中川　　茜(生活) 原　　卓也(理数)	田植えの終わった水田にザリガニを20匹放流し、子どもたちがザリガニ釣りをできるようにした。
平成21年 （10年目）	飯島　理沙(理数) 鈴木　祐香(理数) 藤田　裕介(社会)	裾花川での川遊び、魚つかみ・スイカを栽培してスイカ割り。小豆・大豆・ゴマを栽培しておはぎ作り。
平成22年 （11年目）	三石　梨沙(理数) 土屋　克明(理数) 松井　　遥(実践)	川遊び。小さいひょうたんを栽培し、ひょうたんペイントを行い、オリジナルのひょうたんを作った。
平成23年 （12年目）	井出　愛香(実践) 潤口　歩美(理数) 菊池　智香(理数)	そばの栽培、夕方の活動の実施。 例年12月に終わっていた活動を1月と2月にも活動を追加することで年度末まで行った。
平成24年 （13年目）	手塚　亮介(理数) 井上　甲斐(芸術) 遠山　芽衣(生活)	英語教育のダルトン先生のご協力のもと、農作業に英語活動を取り入れた。
平成25年 （14年目）	永原　正裕(特支) 飯島　香純(実践) 那須絢太郎(理数)	古代米を用いて、田に「モスゲ」の文字を描いた。茂菅農場で収穫したさつまいもを、まほろば祭で子どもたちが主体となって焼き芋として販売した。

国際協力田運動への参加

長野県農業協同組合中央会では、平成9年4月に「食と農と環境を育むネットワーク」を発足させました。

これは生産者・消費者・協同組合等の地域組織が連携して農業・農村を国民の共通の財産として育んでいく運動を展開している組織です。

その活動の一環として、休耕田を活用してお米を作り、飢餓に苦しむ国に送る「国際協力田運動」を提起し、平成10年度から取り組んでいます。収穫したお米は全国から寄せられたお米とともにアフリカのマリ共和国へ発送しています。茂菅の田んぼは国際協力田となっています。

「信大茂菅ふるさと農場」で育てたお米は、農場の発足した平成12年度から飢餓に苦しむ人々を助けるために利用されています。毎年60 kg の玄米を届けています。送ったお米1 kg で新生児1人が1か月生きることができます。

茂菅地区の用水組合によるご協力

「信大茂菅ふるさと農場」にある水田に水を供給のために、茂菅地区の用水組合の方々には多大なご協力をいただいています。茂菅地区では、そばに流れる裾花川からポンプで水を吸い上げ、それぞれの田に水を供給しています。ポンプの電源の管理は、茂菅地区の農家によって当番で行っています。

午前6時に電源を入れ、午後6時に電源を切ります。学生もこの当番の中に入れていただき、学生にとって地域の人々の活動に参加する貴重な機会となっています。当番の割り振りでは、学生の教育実習の期間を避けていただくなど、ご配慮をいただいています。

＜裾花川の水を吸い上げるポンプ小屋＞

用水組合の廣田和之さんにインタビュー

好きな野菜：どの野菜も好き
嫌いな野菜：みょうが
大切にしている言葉：「和」を大事にしています。
主な農業歴：家族は養蚕業を営んでおり、小学校の頃からその仕事を手伝っていました。25才まで養蚕を続け、それ以降はりんご農家として今に至ります。

Q. 学生との関わりで思い出に残っていることはありますか？

A. 学生の皆さんと関わりがあったのは、ポンプの扱い方を指導する時です。毎年水当番の日割りを決め、その日程に応じて学生の皆さんに現場に来ていただいて、指導を行いました。電源を入れても水を吸い上げなかったり、早朝にくみ上げたはずの水が、午後には止まっている等のハプニングもありました。その度に、学生の皆さんから私に質問の連絡が来て、ハプニングの原因を探しました。学生の皆さんの表情は困惑した様子でしたが、その度に責任をもって仕事をしてもらっているのだなと感心していました。ハプニングが起きて私がアドバイスを与えるのも、学生の皆さんと交流を深める良い時間ですし、学生の皆さんにとっても、ハプニングを乗り越える良い勉強になったのではないかと思います。学生の皆さんは、本当に素晴らしい活動をしてきたのだなと、心から思います。

地主さん、ありがとう

若松和子さんプロフィール

好きな野菜：ねぎ
嫌いな野菜：にんにく、セロリ：臭いがきついから苦手(^^;)
好きな言葉：努力する
野菜作りを通して、最初はできなくても、目標をもち、努力すれば、一歩でも目標に近づけることができることを学びました。これは、野菜作り以外でも同じことです！

Q. 茂菅の活動が始まってから14年が経ちましたが、今の率直なご感想を教えて下さい。

継続して素晴らしいと思います。毎年学生が入れ替わる中でも、茂菅の意図が継続されて活動が続いたことは、本当にすごいことです。

Q. 茂菅の活動がこれだけ長く続くと思いましたか？また、続けられたと思いますか？

参加する子どもたちが継続して現れるのか、最初は心配ではありました。でも、小学校1年生から6年生までずっと参加し続けたお子さんもいたということをお聞きして、本当に感動しました。保護者さんとお子さんのどちらかが参加をためらえば続かないことですから、とてもすごいことだと思います。今の学生さんは、農業に携わりながら生きてきた方が少ないと思います。なので、農業がもつ大切さを学びたいという気持ちを、皆さんが共通して抱いていたのではないでしょうか。また、農業の平らな関係でできるという特徴も、学生さんが仲間意識をもちながら活動をする手助けになったと私は思います。

Q. 茂菅農場の活動で思い出に残っているエピソードを教えて下さい。

茂菅で収穫した野菜を、土井先生や学生さんがよく持ってきて下さいました。私が育てた野菜よりも大きく育っていて、とても感心しました。また、落花生やコンニャク芋など、新しい野菜を育てるというお話を聞いた時は、学生さんはとても意欲的だなあと思いました。

Q. 若松さんにとって、農業とは何ですか？

私は元々農業をやっている人間ではないので、農業で生計をたてている人の前では言えませんが、健康にはとてもいいですね（笑）。毎日体を動かして、自分で育てたものを自分で食べて。

Q. 学生や子どもたちに、農業を通して何を学んでほしいと思いますか？

子どもたちにとって、土いじりはとても大切なことだと思います。アスファルトでは感じることができない土の柔らかさに触れ、土にはまり込んだ自分の足を、自分の力で抜く感覚は、大人になってから人生の中で生きると私は思います。

Q. 今、一番楽しいことは何ですか？　また、これからの夢や目標はありますか？

たとえ苦しいことだとしても、体を使って何かすることがあるということに対して、私は楽しいと感じます。私はじっとしていられない性格なので・・(笑)。
目標は、健康でい続けることですかね。今は特に夢というものはないですが、健康でい続けられれば、これから夢を考えられるかもしれませんね。

Q. 最後に、土井先生、林部さん、学生へメッセージをお願いします！

一言なんて、おこがましいです。ですが、あえて学生や子どもたちへメッセージを贈るとしましたら、このような経験（茂菅での農業体験）は、将来絶対に役にたつと思います。ご近所の方から、茂菅での活動が子どもにとっていい経験になったというお話をよく耳にしました。その度に、少しでも学生さんや子どもたちの将来のためにお役にたっているのであれば、とてもありがたいなと感じました。私は特に何をしているわけではありませんので、心苦しい部分もありますが、何かのお役にたてるということは、とてもうれしいことですので、土地を貸して良かったと心から思います。また、土井先生や林部さんは、ずっと健康で活動をされていて、とても尊敬しております。私は特にお役には立てませんでしたが、お二人にはとても感謝しております。

小林展茂さんプロフィール

好きな野菜：野菜はほとんど好き
嫌いな野菜：トマト
ぐちゃっとした触感が苦手・・
育ててはいるのですが(^^;)
好きな言葉：日々勉強・日々精進
分からないことがたくさんあります。
学校を卒業して社会に出た後でも、
毎日勉強することが大切だと思います。

Q. 10年以上続いた茂菅農場の活動がいよいよ終わりますが、今の率直なお気持ちを教えて下さい。

もっと続けてほしかったというのが正直な気持ちです。学生が毎年一生懸命活動されていた活動ですから、そのような活動はもっと続けてほしいと思っています。

Q. 学生のために土地を貸すというお話があった時、どのようなお気持ちでしたか？

とてもありがたいという気持ちでした。その当時、その土地にあった畑は草刈をしていたぐらいでしたから。でも、最初は「本当に学生に農業活動ができるのか」と疑問を抱いたのが正直でした。たまに来て、水やりをする程度の活動しかしないだろうと思っていたのですが、学生が真剣に農作業に打ち込んでいるとのお話を、後に林部さんからお聞きして、中途半端な気持ちは学生には全然ないのだなあと感銘を受けました。そして、自分が貸した土地で学生が勉強をしていただけるのであれば、とてもありがたいという気持ちが大きくなりました。

Q. 茂菅農場の活動で思い出に残っているエピソードを教えて下さい。

林部さんと学生さんとの交流のお話を色々とお聞きする度に、とてもすごいなあと感じておりました。とても年齢差があるのに、学生さんが林部ご夫妻を「お父さん、お母さん」と呼びながら交流しているのを見ると、本当にすごいことをしているのだなあと感心します。

Q. 小林さんにとって、農業とは何ですか？

土にまみれて、汗をかいて、育てた作物を収穫する喜びが農業だと感じております。

Q. 学生や子どもたちに、農業を通して何を学んでもらいたいと思いますか？

私も農業は素人から始めましたから、たくさんのことを先輩から教えていただきました。そのおかげで、自分で育てた作物を収穫するという喜びを味わうことができました。苦労しながら自分で育てた作物ですから、口に入れたときに、とてもありがたみを感じます。また、たとえ不格好な作物であっても、新鮮でおいしいと思える楽しみを、私は経験してきました。ですので、子どもさんや学生さんにも、同じような感覚を分かってもらえたらうれしいという気持ちが、一番あります。

Q. 今一番楽しいことは何ですか？また、これからの目標・夢はありますか？

今はまだまだ小さい孫と遊ぶことと、最近シルバーで働かせていただいていることが何よりの楽しみです。あと、夏にはまた畑をやりたいなあと考えておりますので、それも楽しみですね。夢といえば、世界一周ぐらいしてみたいですねえ！！まあ、気持ちだけではありますが（笑）。各土地の様子を見てみたいですし、たくさんの人との交流もしてみたいです。

Q. 最後に、土井先生、林部さん、学生へメッセージをお願いします！

土井先生＞　この度ご退官されるということですが、ご退官された後も、これまで先生がされてこられた活動に、何かしらのかたちで関わり続けていただきたいと願っております。

林部さん＞　たくさんのお話をお聞きして、本当に素晴らしいの一言です。普通なら楽をしようと思うのですが、これだけ活発に活動されて、本当にすごいです！

学生＞　林部さんや土井先生への気配りや、活動の細かい企画を考えたり、本当にすごいの一言です。自分本意ではなく、きちんと周りのことを考えて活動をされていた学生さんのお話を聞くと、こちらが勉強させていただいた気持ちになります。

茂菅農場学生スタッフ一覧

（教育学部生のみ、OB・OGを含む）

代	年度	農場へ参加した学生スタッフ名
1	平成12(2000)	杉山雅幸　中澤典子　千野加世子　高橋　歩　森下房枝　相磯素子　中谷弥哲　林　一真 宮坂有紀　宮崎恭恵　中田理絵　白井克典　加藤豊司　高尾明子　高橋和之　笛木　悟 古澤万喜美　宮下真弓　栄　美穂　松澤昌樹　日立麻由美　井上真裕子　小池悠介 宮原　新　塚田武好　小松　慎　藪下保子　平賀倫子　高橋由夏里　森田美保　押澤由起 佐藤正志　伊藤 慶　尾川正峰　中村祐介　那須良寛　野田耕次郎　山田理恵　渡辺勝由 大木美那子　大場浩幸　榊原研太　笹崎典子　小黒あかり　鹿子木愛　清水美香 林美智子　角　直子　海沼正典
2	平成13(2001)	西澤俊輔　原山美樹　花村尚美　清水美香　町田竜太　林　一真　志村昌之　千野加世子 中澤典子　相磯素子　富山裕子　小黒あかり　那須良寛　白井克典　塩原孝茂　林美智子 小島真知子　小林則雄　梅田亜紀子　西 絢平　山本真望　鹿子木愛　山本公三　原 耕平 岩脇悟子　関谷亜希子　笹崎典子　岡部桂子　梶田将孝　志方涼子　泊　宗之　平賀倫子 松本佳須美　土田みどり　花村江里子　野口陽子　安田みゆき　塩川順子　坪野さやか 島田綾香　桐山恵美子　出沢綾子　森田美保　鈴木めぐみ　須長　優　多部田雄輔 篠原真美
3	平成14(2002)	那須紋子　高橋和之　山本公三　町田竜太　西澤俊輔　清水美香　中野考之　岩堀耕平 宇良知子　那須良寛　小黒あかり　鹿子木愛　林美智子　清水美香　野口亮一　堀内育恵 小島真知子　富山裕子　山本真望　山本恵里子　花村尚美　原山美樹　佐藤隆恵 横井秀太郎　藤本晃子　森田美保　増田美和　割田節行　米田尚代　松瀬裕昭　進士綾乃 佐々木美緒　割田里子　吉田理史
4	平成15(2003)	北川伸尚　宇良知子　松山博一　前崎伸周　笠原千絵　中河亜実　松戸智美　丸山大輔 神林彩井　仲埜皓介　那須紋子　山本公三　五味渕嘉　熊田賢人　松田朝子　中嶋婦美子 佐々木美緒　増田美和　島田綾香　坪野さやか　武井 恒　村岡久美　原山美樹　渡邊 彩 花村尚美　藤岡恵美　松澤栄美　　原　絵里　石関千絵
5	平成16(2004)	神林彩井　吉澤あすか　渡邊　彩　原　絵里　川端智子　末松辰規　原　千恵　大塚一哉 矢竹喜美子　松井泉樹　岩羽純一　中河亜実　遠藤宇寛　仲埜皓介　別府紀佳　松澤栄美 石関千絵　長野幸恵　藤田優子　丸山大輔　前枝真嘉
6	平成17(2005)	松井泉樹　川端智子　矢竹喜美子　熊田義人　神林彩井　中河亜実　松澤栄美　仲埜皓介 西澤　庸　小林由紀　塚本麻衣子　柳原桃子　岸上隆文　大塚一哉　末松辰規　前崎全洋 完山千枝　兼平梨香　佐藤由佳　關麻依子　森由希恵　前枝真嘉　土肥直也　小林紗耶香 佐藤真由実　小林加奈　平林照世　[redacted]　足立千明　永塚達也　別府紀佳
7	平成18(2006)	平林照世　川辺裕作　[redacted]　小林由紀　川端智子　鈴木春菜　柳原桃子　松井泉樹 矢竹喜美子　大塚一哉　末松辰規　吉村恒祐　臼田秋奈　丸山晃男　松橋彰行　堀端優也 名無恵美子　永塚達也　小平奈央　丸山 悟　小林亜友美　大澤美香　杉原優華　國重 彩 仲吉咲香　藤岡泰裕　常盤千明　洞出直美　三村圭子　魏　江謖　神林彩井　宇良知子
8	平成19(2007)	洞出直美　上田雄介　平林照世　永塚達也　丸山　悟　青木智博　五味紗織　春原圭佑　常盤千明 藤岡泰裕　田村弘樹　斉藤有希　布山奈津美　落合静香　土田恵久　野口洋憲　大家恵梨子 石山裕貴　鈴木寛之　肥留間淳也・船元輝人　岩田智之　西野太一　村松佑樹　鈴木亮子　小西 舞 細田有希　山崎友美　内山拓哉　赤羽雄仁　金井万理子　北野剛史　伊藤香澄　永谷嘉浩　原 耕平 宮川はるな　笠井裕太　大本有紀　福永友実　高池亮輔　高橋真依　神林彩井　末松辰規
9	平成20(2008)	宮川はるな　中川　茜　原　卓也　五味紗織　藤岡泰裕　洞出直美　落合静香　土田恵久 野口洋憲　石山裕貴　上田雄介　肥留間淳也　細田有希　市原美里　北野剛史　梅澤美夏 市原哲也　岡田克志　小松智恵　笠井悠太　坂本英幸　重田直幸　中出智章　中村光希 高池亮輔　古野友理　小口七海　須郷　遥　土崎朋美　飯島理沙　鈴木祐香　藤田裕介 室岡聡也　阿部由季　島崎涼子　中村恵理　東野千尋　岩本芙美　永塚達也　平林照世

10	平成 21 (2009)	飯島理沙　鈴木祐香　藤田裕介　宮川はるな　原　卓也　中川　茜　高池亮輔　市川香織 渋谷美奈子　田畑隆太郎　布山朋和　宮尾　亘　小出明日美　中村幸恵　井出優貴 降旗みなみ　片桐清史　小林　愛　島田英一郎　鈴木　梢　滝澤雄太郎　西尾聡美 阿部由季　島崎涼子　田中聖人　中村恵里　東野千尋　井上知洋　小松　静　肥野沙也加 廣田杏奈　柴田　計　登内恭平　太田香子　山越　俊　宇賀地由里　加瀬智晴　片原範子 田澤岳哉　土屋克明　服部直幸　三石梨沙　峯村和裕　中村静香　志村友紀　平澤里恵 井出愛香　町田香帆　上田雄介　洞出直美
11	平成 22 (2010)	三石梨沙　土屋克明　松井　遥　飯島理沙　鈴木佑香　藤田裕介　市川香織　布山朋和 宮尾　亘　西尾聡美　安部由希　島崎涼子　小松　静　肥野沙也加　太谷春花　熊市真也 登内恭平　太田香子　山越　俊　井上岳人　大井このみ　片原範子　金箱仁志　腰原綾佳 小賀坂佳子　高見澤誠　田澤岳哉　服部直幸　峯村和裕　大井香里　平澤理恵　中島一樹 井出愛香　内川舜也　関谷将司　丹羽由佳　町田香帆　近藤由弥　菊池智香　北沢瑞樹 鈴木喜多朗　高橋涼介　澗口歩美　守屋有菜　佐塚大悟　宮川はるな　中川　茜　小池陽愛
12	平成 23 (2011)	井出愛香　菊池智香　澗口歩美　三石梨沙　土屋克明　高見澤誠　田澤岳哉　金箱仁志 大井このみ　峯村和裕　服部直幸　山本敦司　駒村瑞穂　町田香帆　中村一樹　久保田直 美　守屋有菜　北村瑞樹　高坂　泉　村松春美　若杉佳世子　岩瀬由依　加々美理沙 田口詩織　北見　聖　手塚亮介　小松一成　久保恵里子　榊原典子　内田万結　安藤優衣 林志桜里　遠山芽衣　斎藤　瞳　荒井麻耶　百瀬あきほ　三井夕衣　北村隼一　松川奉央 那須絢太郎　石田真人　長田夏奈　津瀬直彦　永原正裕
13	平成 24 (2012)	手塚亮介　井上甲斐　遠山芽衣　長田侑里子　井出愛香　町田香帆　丹羽由佳　澗口歩美 菊池智香　内川舜也　北沢瑞樹　高坂　泉　赤羽成美　佐塚大悟　田中沙結美　橋爪志織 勝海公平　山内秋乃　山田裕利　錦織啓佑　松島宏俊　山田高弘　井口　哲　羽田　鋭 小松一成　樋渡瑞幹　織田裕二　榊原典子　長谷川ゆかり　内田万結　安藤優衣　戸狩幹太 芦田麻伊　加納寛子　林志桜里　田口詩織　加々美理沙　岩瀬由衣　斉藤　恵　後藤莉奈 山崎花奈子　八木英理子　池田　愛　福島　恵　鷹野ふゆみ　峰岸季子　宮田巴都樹 月岡優介　藤井優里　秋元雄喜　藤本千穂　宮澤　舞　土屋香織　飯島香純　那須絢太郎 北村隼一　石井真人　立野真紀　酒井裕輔　新井雅菜　渡辺真美　苅田桃子　上野なつみ 三井夕衣　太田　咲　青木紅瑠美　片山莉沙　永原正裕　上野　暁　塩崎健介　小林茉里奈 太田宏平　佐賀千紘　畔上達也　川村尚子　田中　優　北澤美嘉　中村　泉　姜　天水 服部直幸　三石梨沙　田澤岳哉　峯村和裕
14	平成 25 (2013)	永原正裕　飯島香純　那須絢太郎　手塚亮介　遠山芽衣　榊原典子　織田裕二　小松一成 田口詩織　羽田　鋭　後藤莉奈　月岡優介　佐野　遥　岩瀬由依　八木英理子　井上甲斐 松島宏俊　宮田巴都樹　加々美理沙　山本健登　北村隼一　桜木桃子　池田隼人 太田　咲　酒井友輔　中村速人　北野雄大　藤澤和敏　上野なつみ　横田克巳　木田達也 畠山智晴　津瀬直彦　三井夕衣　熊崎草太　西澤敏光　堀本泰寛　花岡慶介　山本智子 竹内　栞　渡邉宏海　宇治　貢　石川真人　西村拓矢　新井雅菜　松川奉央　土屋祥太 日高啓吾　黒岩裕未　山﨑　圭　土屋孝将　上野　暁　田中　優　舘林洸一　小林凛太郎 村松知美　井上陽介　山崎真歩　小宮山翔平　上原　瑛　金沢優花　小林大輝　山内藍雅 太田宏平　塩崎健介　関口美桜　土屋ひかり　水本侍樹　高田敏生　畔上達也　森下結衣 鷲澤栞里　松元可南子　相沢英真　桜井一誓　尾崎貴久　工藤千尋　黒岩知也　王　俊 Vo ngoc han　小島淳平

年度別の活動紹介

平成 12 (2000) 年度　活動紹介

農場長　榊原研太・杉山雅幸
副農場長　中澤典子・千野加世子

1．テーマ・目標

自然体験活動「土づくりによる人づくり」プロジェクト　始動！！
「機械は使わず、人の力で」　～YOU 遊サタデー・農業体験分野からのスタート～

2．１年間の活動

3 月：田の開拓作業

初心不可忘。世紀を拓く一鍬が、裾花川の見える茂菅の土地にふりおろされた。

何年も休耕してあった水田のため、蓬やアシなどがひどく、田に直すことは非常に困難だった。草を取り、根を掘り出し、何日もかけて田起しや水を入れての代かきを人力を主としてくり返し行い、ついに水田が完成した。

開拓は簡単ではなかったが、そこには「自分たちで開拓を行った」という実感と、大きな希望に満ち溢れていた。

6 月 10 日：いよいよ田植え

子どもを集め、学生や関係者で協力をし、コシヒカリ（うるち米）とながもち（もち米）を植えた。完成したばかりの田の中に皆が裸足になって入り、泥だらけになりながら田植えを楽しんだ。皆の苦労が、子どもたちの笑顔と結びついた記念すべき日。

田植え後は、学生が力を合わせて水当番をし、地区のポンプ作業を早朝と夕方に行い、病害虫や草対策も人力で行った。

9 月 30 日：初代茂菅米の収穫

子ども、学生、青年会、JA 長野中央会、JA ながのの協力のもと、稲刈りを行った。

10 月 19 日：脱穀作業

林部さんの機械をお借りして初めての脱穀作業。その後、はぜ足やわらのかたづけをした。

はじめてストーリー

わたしたちの挑戦が始まった。
すべてが初めてのことだった。
新しい軍手、新しい長靴、新しい鍬･･･そして茂菅の土地。
すべてが新しく、すべてが輝いていた。
しかし、初めてのことなのに不思議と不安はなかった。
そこにあったのは、「熱意」「希望」「信念」「努力」「笑顔」そして「仲間たち」。
それらは先輩たちから代々受け継がれてゆくのである。

◆五左衛門先生　誕生◆

土井進先生は、平成11年12月「私はこれから10年、･･･畑をやります。」声高らかに宣言。
学生たち皆は「え～っ！！」と、目を丸くした。

◆茂菅の地に田畑を甦らせる（休耕田の開墾）◆

〈マメ自慢大会〉田畑を耕すのに、慣れない私たちは必死に鍬を力いっぱい振り下ろし、地面に突き刺した。時折鍬が石に当たり、手がジーンとしびれた。しばらくすると、手はマメだらけ。「マメができた～。」「いや、俺も俺も･･･」手を見せ合いながら、自慢しあっていたなあ。

◆「茂菅ふるさと農場」の看板◆

看板の材料は、技術科4年の高橋歩くんが「しょ～がね～なぁ、マーボや土井先生のためだぜぇ。」と言いつつ、とっておきの材木を提供、加工をしてくれた。文字は当時、信大教育学部の教官で書の大家、市澤静山先生に書いていただいた。田畑のど真ん中に存在感のある立派な看板ができあがった。

看板にする前の材木

◆茂菅で活動を開始！◆

開墾の時から望んでいた瞬間だった。茂菅に甲高い子どもたちの声が広がった。当時学部長の藤沢謙一郎先生もお越しいただき、開場式が行われた。

そして、ＪＡながのの関係者・参加者の保護者の方々、マスコミ関係者など大勢集まり、賑わいを見せた。田植えと枝豆・サツマイモの苗を植えた。子どもの参加者は3歳～小学校6年生の19人、学生スタッフ24人だった。

正副農場長から一言!!

開園当初は「ＹＯＵサタ農業体験」と「自然体験研究特講」の２つの入り口があり、しっかりした１つの組織として統率されていなかった。作物の世話を通じて、茂菅に関わっていくスタッフが次第にはっきりしてきた。それ故にそれぞれが責任を持ち、互いにサポートする気持ちがあってこそ活動が成立していた。

畑が決まり、休耕田だったところをもう一度作物を育てる畑にしていく作業は大変と誰しもが思ったことだった。作業の手を休めて見上げると、雄大な自然の景色が広がっていました。

かつてこの場所で作物を育てていた人も、同じ景色を眺めていたのだろうかと思うと、**この畑が代々受け継がれてきたものであ**ることに気がつきました。今、当たり前のようにあるものは、先人（先輩）の積み重ねがあってこそ、ここにある。茂菅での活動も「YOU遊サタデー」の積み重ねから始まった活動でした。そうした先人（先輩）への感謝の気持ちをかみしめました。

しかし、受け継がれてきたものを新しいものに変えていくことも大切であることも学びました。今でも何かを革新していく姿勢は変わりません。また受け継ぐ人あってこそ、続いているんですね。後輩たちにも感謝!!

杉山　雅幸
（マーボ）
ＹＯＵ遊サタデー
農業体験分野
担当責任者

榊原　研太
（けんちゃん）
茂菅ふるさと農場
田んぼ部門責任者

茂菅農場に関わっていた中で一番心に残っているのは北村さんとの出会いです。茂菅の田んぼでどのように米作りをすすめていくか。アドバイザーとしてＪＡながのの北村さんにお世話になりました。土井先生はとにかくクワで学生と子どもたちの手で耕していくという信念をお持ちになっていた。当時副農場長だった私に北村さんが話された言葉が今でも心にあります。

「米作りを人の手で行う大変さを少しでも楽にするために、様々な道具を工夫してきた歴史がある。農業は大変ということだけではなくて、人がどれだけ考えて今に至っているのか。道具を使ってこそ、農業ができると言うことも知ってほしい。」

現在、諏訪市の豊田小で５年生の担任をしています。教員になって３度目の米作りが終わりました。人の手で一束ずつ脱穀する大変さを体験したあとで、ハーベスターという機械を使い、一瞬で脱穀が完了する様子を子どもたちは目を丸くして見ていました。米作りで活躍する機械を見るたびに北村さんの言葉の意味をかみしめています。

お米の収穫の喜びは、自分たちがやり遂げた達成感と今までいろいろな人との関わり、そして先人の工夫がなくては味わえないことを今年も子どもたちと振り返ることができました。

学生時代の農作業の記憶は断片的なのに、それぞれの作業のときの気持ちだけはとても良く覚えています。

十年前、草だらけの休耕田を下見して、ここが本当に田んぼになるとは全く思えなかったこと、午後の授業を終えた夕方、自転車で田んぼに向かうまでのわくわくした気持ち、草取りなどの単純作業でさえ楽しくて夢中だったこと…思い出せばきりがありません。

中でも忘れられないのは早朝の田んぼのポンプ当番に私の母を連れて行ったことです。さわやかな朝の空気を感じながら私が今やっていることを母に紹介できた喜びと、田んぼに着いた母が

「ずっと長野に住んでいてもこんな場所知らなかった」と言ったので、**茂菅ふるさと農場の“ふるさと”ってどういう意味だろう**という思いにふけっていました。

農作業を通して家族や仲間はもちろん多くの人と関わった思い出、それが私の宝物です。今後も教員を続けて宝物を増やしていきたいです。

中澤　典子
（のりちゃん）
茂菅ふるさと農場
田んぼ部門責任者

千野　加世子
（ちのちゃん）
ＹＯＵ遊サタデー
農業体験分野
スタッフ

茂菅の田んぼに関わってからもう10年以上たっていて、当時の記憶は薄れつつあります。稲作りといえば、田植えや稲刈り、収穫祭など、思い出に残ることは山ほどあるはずなのに、石がごろごろしていた土地を苦労しながらみんなで少しずつ耕していったことが、一番の思い出であり、深く心に残っています。

あの時、なぜ毎日のように耕しに行ったのか、それは、あの活動を通して私は、土にさわることの楽しさ、使われていなかった休耕田が変わっていく喜び、苦労を共にする仲間の頼もしさ、農業という仕事の大変さ・厳しさなど、たくさんのことを肌で感じ、夢中になっていたのだと思います。

そして、**苦労を共にした人とは「仲間」という絆で結ばれる**のだということも、この活動から得られた大切な成果です。

現在、子どもたちと関わっているとき、「苦労を共にする」ということを大切にしています。それは茂菅の田んぼで苦労だけど楽しかったあの時の想いがそうさせているのだと思います。この活動に参加できて本当によかった。本当にありがとうございました。

THE “感”

現在は茂菅の頭上に高架橋がかかっているが、当時は空が広がっていた。（当時は橋脚だけ）

●〈「粗起こし」の一年〉　初め、学生たちは農作業の一年の流れもわかりませんでした。その分、土井先生をはじめ内地留学されていた海沼正典先生、ＪＡながのの北村典子さん、林部さん、柄沢さん他多くの方々に大いに頼って、お力を借りていたことは言うまでもありません。振り返ってみれば、イベント的な「ＹＯＵ遊サタデー」から継続的な活動へ脱却することがねらいでしたが、子どもたちとのかかわり（田植え→収穫→脱穀のみの活動）はイベント的なもので、それが私たちには精一杯の活動でした。そうして茂菅の１～３期の学生が共に活動を積み重ねていき、いろいろな発想や理想、夢を育んでいきました。今の茂菅での活動が大きな大木ならば、我等が活動したこの一年は、地面に根をはった年でした。

青々と実った茂菅の畑

●〈野菜部門（責任者：伊藤慶）〉　前期には豆・トウモロコシ班、ジャガ班、さつまいも班、その他野菜班（夏野菜、かぼちゃ等）に分かれて活動した。後期には個人で畑をもらいそれぞれ作物を育てていた。しかし、自分は二十日大根を育てていたが、ぜんぜん世話ができず、やりっぱなしになってしまった。作物を育てるのも人を育てるのも、続けて面倒を見ていく大変なことだと感じた。

７／22おやき作りを開催。（Ｗ館の調理実習室）当時大学２年だった小黒あかりと鹿子木愛がキャプテンとなり、実現させた。

●〈実り〉　初めての脱穀のとき、わらに残った粒を、籾殻を焼いている火にかざすと、パッと開いて「米はざし」ができたのには、驚いた。やはりお米の中には、たくさんのパワーが詰まっていることを実感した。

台風後の茂菅の田畑。収穫前に稲が倒れ、心配していた。

●〈感謝〉　茂菅での活動も「ＹＯＵ遊サタデー」の積み重ねから始まった活動でした。先輩たちへの感謝の気持ちは今でも忘れません。しかし、受け継がれてきたものを新しいものに変えていくことも大切であることを学びました。今でも何かを革新していく姿勢は変わりません。そしてまた受け継ぐ人あってこそ、続いているんですね。後輩たちにも感謝!!

平成13(2001)年度　活動紹介

農場長　西澤俊輔
副農場長　花村尚美　原山美樹

1．テーマ・目標

1年間を通しての農作業体験で、自分の手で農作物を作ることや収穫することの楽しさを知り、身近な大地に感謝し、様々な年代や立場の人との関わりをもち、人格形成を図る。

2．1年間の活動

【4月21日：じゃがいも植え】
【5月12日：れんげ畑で遊ぼう】
花摘み、草笛、鬼ごっこなどをして遊ぶ。
【5月21日：※苗植え】
トマト
【5月28日：※苗植え】
きゅうり、なす、ピーマン、カボチャ
【5月29日：※種蒔き】
大豆、小豆
【6月8日：田植え】
上越教育大学、横浜国立大学、鳴門教育大学から2名ずつ参加
【7月24日：じゃがいも掘り、野菜収穫】
おやつに蒸した芋を出す
【8月20日：※カボチャ、スイカの収穫】
【9月5日：※大根種蒔き】
【9月13日：※種蒔き、間引き】
レンゲ、野沢菜、ほうれん草、たまねぎ、ねずみ大根
【9月29日：稲刈り】
【10月20日：田：脱穀、畑：さつまいも、こんにゃく芋掘り】
足ふみ脱穀機と自動脱穀機を使い比べる
【11月1日：※豆類収穫】
【1月20日：もちつき】
とれた野菜を使った豚汁を出した

私たちのオリジナル

・今年度の活動は、ほとんど初めてづくし。茂菅農場に子どもの声が初めて響いた。
・田植えに全国の大学から学生が参加
①思いつきにより、上越教育大学のみんなに声をかけたら、そこから横浜国立大学、鳴門教育大学に勝手に話が広がる。困ったもんだ。
②参加の皆さんは、学生がたくさんいることに単純にびっくり。それぞれの大学でちょっとした出し物をお願いしておいたので、それはすごく好評だった。
③全国フレンドシップの輪が更に広がり、学生間の絆が深まった。参加者の皆さんは全国の学生とふれあい、その土地の話を聞きながら思いを巡らせた。

正副農場長から一言!!

まず、何物にも代え難いたくさんの仲間との絆ができました。支え合うこと、励まし合うことが、大切なことを教えていただきました。そして、何事にも「づく」を出すこと。手を抜いては良い土はできません。良い作物はできません。良い人間は育ちません。みんな、「づく」出していこう！

田植えが思った以上に大ごとになった時、緊張であたふたしていた俺をキャッチボールで励ましてくれた竜太、今でも覚えているよ。あの時はほんとにありがとう!!

西澤俊輔

この活動で、子どもたちが、体験を通してできる・わかることの大切さを感じました。お陰で、小学校に赴任しても、生活・総合の授業を楽しみながら考えることができました。

原山美樹

茂菅の活動を通して、子ども第一、子ども目線で考えることの大切さを学び、林部さん、ＪＡ大内さんをはじめ地域の方から農業の知恵を教わり、体験して分かることがあると実感しました。いま、体を動かしての学びを大切に日々児童と向き合っています。

花村尚美

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

えっ、副農場長？？だれ？？？いた？？？？？
ハナとミキ？！マジで？！？！？！？！

そうなんですよ、私たちも忘れていました。そもそも、そんな肩書き、気にして活動していませんでしたよね。

あの１年は、ＹＯＵ遊サタデーの終わりでガビ～ンってなってからの新しい活動の立ち上げで、なんだか分からないまま活動していたもんな。

へ～、そうなんですね。その割には、いろんな活動があって新鮮でしたよ。

特に足踏み脱穀機はびっくりでしたよ。

んじゃ、千歯こきは知っていたんだ。俺は、小学校の時に使ったことがあったから知っていたけどね。

普通は知りません！（怒）だから、千歯こきも衝撃でした。さすが、伊那小ですね。

伊那小、関係ないから。そう言えば、伊那小の時にやっていたことのつながりで、こんにゃく芋も植えたな。あれは収穫まで３年かかるんだよね。

こんにゃく芋の芽

こんにゃくが芋からできるということを知らない人が多く、試しに作ってみようということになったんですよね。

梅の部屋で作ったよね。ガスボンベと大鍋を用意して作ったな。
そういえば、こんにゃく作る時も上教大のみんなが来ていたな。

私は知りませんけどね（ミキ）。あのときミキサーを使わずに、手ですり下ろしたから失敗したんじゃないですか？（ハナ）

ん？それ言う？？
見事に大失敗だったよね。全く固まらずに液体こんにゃくという、新しい食べ物を作って終わったよね。味は・・・ヒミツ♪

コメントコーナー

The　田植え!!
JA ながのの大内さんが、稲の苗を見せてくれています。横にいる子どもたちは、足のぬるぬるさに慣れない様子！！

The　稲刈り!!
実りの秋。いっぱい詰まった稲穂にみんな興奮！
かと思いきや、カエルやミズカマキリに夢中。

足ふみ脱穀機で脱穀しているところ。初めて見る子も多く、自動脱穀機では見られない歯に見入っていたり、稲が引っ張られる力に驚いたりしていた。

茂菅の田んぼでとれたもち米と野菜を使って初めての収穫祭。そう、この年は、今では毎年恒例となっている茂菅の“第一回もちつき”に当たる年!!もちつきでは、一人ひとり順番につき、丸め、最後は農場長と大内さんがつきあげた。野菜はお家の方が切ってくださった。茂菅修了証をみんなに手渡したあとにパシャリ！すてきな笑顔とおいしいおもちをありがとう!!

平成14（2002）年度　活動紹介

農場長　那須紋子
副農場長　高橋和之

1．テーマ・目標

米作りを通して、人と人とがふれあい、協力したり楽しんだりする体験活動を行う。

また、米作りの良いところどりではなく、草取りなどの地味な作業も子どもたちと行ったり、どろんこ遊びやフナ放流など今までやったことのない活動にチャレンジしたい。

2．1年間の活動

【第1回　5月18日（土）】
田おこし（雨天のため中止）
【第2回　5月20日（月）】
※　ヘチマ・ウリの種蒔き
【第3回　5月22日（水）】
※　トマト・ナス・かぼちゃ
スイカ・メロンの苗植え
【第4回　6月2日（日）】
田植えとどろんこ遊び
【第5回　6月19日（水）】
※　ヘチマ・ウリの苗植え
【第6回　6月24日（月）】
※　ケナフ植え
【第7回　7月7日（日）】
田んぼの草取り
【第8回　8月3日（土）】
※　鳥よけネットはり
【第9回　8月7日（水）】
案山子（かかし）づくり
【第10回　9月22日（日）】
稲刈り
【第11回　10月13日（日）】
午前・・・鳥よけネット外し
午後・・・脱穀
【第12回　12月7日（日）】
精米

（※　は、農家の方、学生スタッフのみで行った活動）

私たちのオリジナル

着がえ用のテントと、どろ洗い用のプール

◆　どろんこ遊び

しろかきのときに、どろをよくかきまぜるためにも、どろんこ遊びをしようということで行った活動です。なかなかおもいきりどろんこになって遊ぶことはないので、子どもたちも学生も生き生きと楽しんでいました。

◆　田んぼの草取り

米づくりの良いとこどりの活動ではなく、地味な作業も子どもたちに体験させたいということで、行った活動です。草で目を突かないように網をかぶってやりました。

◆　案山子作り

おやつにフルーツポンチを出しました。畑で作った全く甘くない失敗作スイカを切って、砂糖水に入れたものです。みんなおいしいと言ってくれてありがたいやら申し訳ないやら。

正副農場長から一言!!

学生時代の「茂菅ふるさと農場」での学びは、まさに「究極の問題解決型学習」だったなあと思います。とにかく、「できるかできないか」を考えるのではなく、常に「どうしたらできるか」ということを考えていました。お金や権力がない学生でも、やる気さえあれば工夫次第で大きな企画も実現できるという経験をさせていただいたことは、教師としての生き方に大きな影響を与えたと思っています。たくさんの方々に深く感謝しています。（那須紋子）

1つ目は多くの人の力によって支えられていることを学んだことです。このことを学ぶことができたことで、今の教育現場の様々なことに対して，「自分自身ができること」を見つめ直すことができていると思います。2つ目は「土から学んだ」ことです。今は中学校に勤務していますが、「いつでも土のことはやれる」といった漠然とした自信を持つことができています。（高橋和之）

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

農場長【那須】のエピソード

畑が茂菅にあると遠いからプレイパーク（大学敷地内）に畑を作ろうとチャレンジ。しかし、耕しても耕しても砂利ばかり出てくるわ、スタッフは一人も来ないわで。ある日、畑を一人で耕した後、土井先生に会って声をかけられた瞬間、涙がポロリ・・・なんてことも。それも今では良い思い出です。

あと、どろんこ遊びは最初、土井先生からＮＯと言われていた活動ですが、ねばって「スタッフを 30 人以上集めて安全性を確保する」という条件でＯＫが出て、林部さんたちの多大なるご協力のもと奇跡的に実現したものです。その時の土井先生、参加スタッフ、林部さんたちの心意気に感謝!!

副農場長【高橋】のエピソード

【苦労した話・思い出深いエピソード】

苦労したことはあまり記憶にありませんが、講義が終わった後に、自転車で茂菅の田んぼまで様子を見に行ったことが思い出深いです。そのとき、自転車の鍵を落として、仲間と一緒にあぜ道を探してもらったのが忘れられません。

ＹＯＵ遊フェスで毎年もちをつきましたが、中学校の現場でも役に立っていて今までに３回ほど中学生たちともちをついています。いつか自分たちの手でもち米を作り、そのお米でもちをつきたいと思います。

☆Comment Corner☆

みんなでどろんこ遊び!!
田んぼの中で大運動会♪

今、人生で一番
どろだらけです・・

みんな～もりあがってる～(^O^)

学生のみんなでしろかき。
ありがと～!!

千歯こきを使って脱穀♪♪

平成 15（2003)年度　活動紹介

農場長　北川伸尚
副農場長　宇良知子

1．テーマ・目標

異学年や地域の方々と、手作業でのお米作りを通して、お米について学んだり、お米や他の農作物ができるまでの大変さを学び、普段の食事への感謝の思いや、世界の食べ物で苦しんでいる人へ手助けする気持ちをもつことができる。

2．１年間の活動

【第１回　６月７日（土）～８日（日)】
「田植えしたよ！」
７日→特別支援学校の子どもたちと田植え
８日→茂菅など地区の子どもたちを中心とした田植え

★７月 11 日
『茂菅ふるさと農場通信 No.1』発行

【第２回　８月２日（日)】
「すずめ、あっちいけ！」
案山子を作って立て，鳥よけネットを張る

【第３回　10 月４日（土)】
「稲刈り、いイネ～！」
カマを使い、手作業での稲刈り

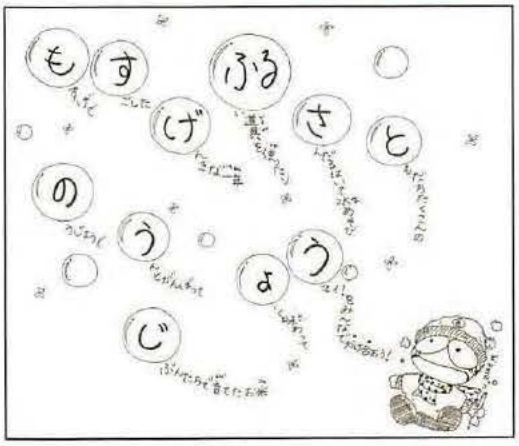
【第４回　10 月 26 日（日)】
「だっこく」
千歯こき、唐箕（とうみ)、ハーベスターなどを活用した脱穀作業

★『茂菅ふるさと農場通信 No.2』発行

【YOU 遊フェスティバル　12 月６日（土)】
「わ～い！ぺったんおもちつき～茂菅でとれたお米だよ～」おもちつき講座

【第５回　12 月 13 日（土)】
「うマイっ！思いのコメったもすげヨネ～」
新米を使ったお寿司パーティー

★『茂菅ふるさと農場通信 No.3』発行



私たちのオリジナル

モスゲマン

○茂菅のキャラクター“モスゲマン”
○特別支援学校の子どもたちを呼んでの活動
　活動に向けての事前学習会を学生同士で行いました！
○茂菅ふるさと農場通信の発行
○『茂菅体操』
　田植えの活動の時、準備体操としてオリジナル曲に合わせて体を動かしました！
○【田植えしたよ！】の活動でどろんこ手形・足形をぺったんこ！
○毎回の活動の中で、みんなでお米についての学習をしました。

茂菅体操の様子

農場通信

正副農場長から一言！

一年間でいろいろな活動をしたのだということを改めて実感します。それとともに、本当にたくさんの人たちが活動に関わり、汗を流し、苦労し、笑って、喜んだなぁと。。。「一生懸命に頑張る」からこそ分かったことがあり、お米を作りながら自分自身も育ててもらえたように思います。（北川）

茂菅での様子やお米のことをくわしく伝える茂菅農場通信を作ったことがいい思い出になっています。茂菅での活動に打ち込んだ時間はかけがえのない私の宝物です。みんなの協力があって活動ができました。これから先も協力すること、周りの人への感謝の気持ちを忘れずにいることを心がけていきたいです。（宇良）

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

宇良

そういえば、モスゲマンの頭からはえている稲にみんな気づいていたかなぁ？

北川

実は、農場の稲の生長と同時進行で、モスゲマンの頭の稲も育っていたよね！モスゲマンはいろいろなところで大活躍。林部さんにモスゲマンのステッカーをプレゼントしたら、林部さんは機械に貼ってくれてたの！しかも、何年も！うれしいなぁ。

宇良

茂菅ふるさと農場通信に載っていた林部さん夫婦、土井先生、大内さんなんかの似顔絵、とってもよく似ていたね。

北川

他にも、参加してくれた宇良ちゃん、丸ちゃん、山本さんや那須さんの似顔絵もとっても好評で、びっくり！

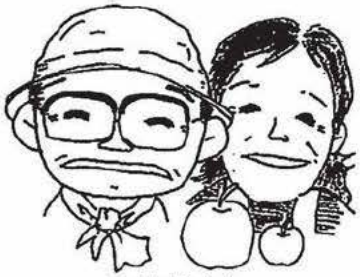
宇良

林部のお父さん、茂菅体操を気にいってくれてたよね。私嬉しかった。

北川

もともとは「アブラハムの子」の歌があって、その歌詞を「茂菅の子」みたいに、茂菅農場バージョンにアレンジしたんだよ。

土井先生

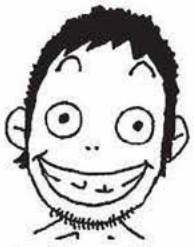


林部さん

丸ちゃん

ビーナス

JA 大内さん



じょーじ

ココに注目!!

救援米についての説明の時に、指示棒の先にはモスゲマン!!

みんなのどろんこ手形／足型を押した横断幕！

田んぼについての学習中。耕耘機で耕すと、鍬よりどのくらい早く耕せるのかな？

みんな一列に並んで、やさしく田植えしています！

今年の豊作を祝って、みんなでいただきまーす！（お寿司パーティー）

平成 16(2004)年度　活動紹介

農場長　神林彩井
副農場長　吉澤あすか

1．テーマ・目標

自分たちの手で作物を育て、普段何気なく口にしている食べ物の大切さを実感したり、年齢の異なる多くの人と触れ合い、協力することの楽しさを感じる。

2．1年間の活動

【第1回　4月10日（日）】
じゃがいも植え
「春だ！なかよしじゃがいもうえ♪」

【第2回　5月16日（日）】（雨天中止）
さつまいも植え
「いもいもパラダイス
レッツさつまいもうえ！」

【第3回　6月6日（日）】
田植え
「うえよう！みんなのモスゲ米♪」

【第4回　7月31日（土）】
じゃがいも収穫
「みんなでたからさがし！
じゃがいもころころ」

【第5回　10月2日（土）】
稲刈り
「みんなでかろう！モスゲ米」

【第6回　10月24日（日）】
脱穀、焼きいも
「ほくほくさつまいもと脱穀！モスゲ米」

【第7回　1月8日（土）】
「Let's cooking!!　茂菅を味わおう♪」

※1月19日（水）
国際協力田のお米の発送式

東西に分かれて後ろへ進みます。

大内さん「今掘ってみたら、こんな感じで出てきました。」

たくさん刈ったよ！かかしも作ったよ！

私たちのオリジナル

2005年1月8日（土）

１年間の活動の集大成として、収穫したお米を使って、大学内でおはぎを作りました。

また、子どもたち一人ひとりに、賞状と、毎回の活動で書いた絵日記を冊子にして渡しました。

１年間一緒に活動してきた子どもたちはとてもいい笑顔で、他の子どもたちと触れ合い、おいしいモスゲ米を一緒にほおばりました。自分たちで育てたお米の味は格別！

１年間の達成感を感じながら、一緒にがんばった仲間と思い出を共有できたいい時間でした。

いい笑顔！

１年間がんばりました！ありがとう！

のーじょーちょーから一言

５代目農場長　神林彩井

茂菅ふるさと農場に出会ったことで、私の大学生活は一変しました。（実は、それまでの大学生活は味気なく、あまり面白いと思えなかったのです・・・）

「農業」という活動を通して出会った、たくさんの仲間（総勢100名以上でしょう！）、五感フル活動で吸収した貴重な体験は、私にとってかけがえのない財産となりました。

学生同士でアツイ話し合いもたくさんしましたね。現在、私は教職からは退いていますが、農場で教わった、人と人とのつながり・支えあう心、他人を尊重する気持ちなど、今も大切にしています。

赤裸々Talk ～今だから言える裏話～

農場長のｴﾋﾟｿｰﾄﾞ【雨の日に感じた友情】

2004年5月16日
記念すべき第2回目の活動。
その名も
「いもいもパラダイス　レッツさつまいもうえ！」
なんとも楽しそうなネーミングである。

しかし、当日、雨が降ってしまった。
子どもたちとの活動は中止にせざるを得なかった。

それでも、スタッフは全員集まってくれた。

雨の中、カッパを着て、どろんこになりながら
みんなで楽しく苗を植えた。
おかげで、無事、大事な苗を植え終えることができた。

カッパを着てさつまいも植え

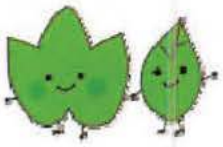
子どもたちが大好きなスタッフたち。
それゆえに、学生だけの活動になってしまったことを、私はとても申し訳なく思っていた。

しかし、活動後の反省会で、「雨は貴重な体験だった。見えないところでいろんな準備があることは、教員を目指す自分にとっていい勉強になった。」　「今日の経験をもとに、子どもたちには、収穫の喜びだけでなく、農業の大変さも伝えていきたい」と言ってくれた。
なんてすばらしい仲間と出会えたんだと、本当に感謝しきりだった。

この後も、私は幾度となく、林部さん、大内さんはじめ JA ながのの方々、土井先生、保護者の方々、学生スタッフに助けられた。人の温かさを教えてくれた茂菅ふるさと農場。
ここで過ごした3年間は本当に幸せでした。

コメントコーナー

第１回目の活動。
高学年の子どもたちが、ジャガイモを植えるためのうねを作ってくれました。



田植え後のネット張りです。OB の白井さん、ゆうこさんが駆けつけてくださいました。いい笑顔♪

第６回目の活動。
千歯こきや、足踏式脱穀機を体験♪
写真は、林部さんとお孫さん、智子ちゃんです。

平成17(2005)年度　活動紹介

農場長　松井　泉樹
副農場長　矢竹　喜美子　川端　智子

1．テーマ・目標

『感謝』～ありがとうの気持ちをこめて～

この目標には、「子どもたちに、作物を育てる大変さ、食べ物の大切さを、実体験から学んでほしい！自然と人とのふれ合いをとおして、人と自然とのつながりの大切さに気づいてほしい！世代を超えた人と一緒になって作物を育てることで、素直で優しい心をもてるようになってほしい！」という思いが込められています。

2．1年間の活動

【第1回　4月10日（日）】
じゃがいも植え
「春だ！るんるん♪ころころじゃがいも植え」

【第2回　5月14日（土）】
とうもろこし、さつまいも植え
「おいしい☆もろこし&あま～い♪さつまいも植え」

【第3回　6月4日（土）】
田植え
「どろんこ田植え☆すくすく育て！モスゲ米♪」

【第4回　8月7日（土）】
じゃがいも、とうもろこし収穫
「元気に育ったかな？☆じゃがいも&もろこし☆」

【第5回　10月1日（土）】
稲刈り
「すくすく育ったモスゲ米☆」

【第6回　10月16日（日）】
脱穀、さつまいも掘り
「☆ほりほり！いもほり&ぽろぽろ！脱穀♪」

※12月10日（土）YOU遊フェスティバルにて餅つき

※1月18日（水）茂菅米のマリ共和国への発送

私たちのオリジナル

お化けかぼちゃに挑戦！

お化けかぼちゃ、ハロウィンの可愛いサイズを想像していたら茂菅の大地の豊富な栄養を見事に吸収し、巨大に成長！

３人で、かぼちゃをデコレーションしようとして、まずはミニサイズで･･･と始めたら、見た目と違ってかたいし、臭いもすごい･･･２個で精一杯でした。しかし、収穫の時におばけかぼちゃを見た子どもたちは大喜び！叩いてみたり、乗ってみたり、持とうとしてみたり！

その日収穫したさつまいもも、見事に栄養を吸収し、かぼちゃに負けないくらい大きく成長していてこれまた子どもたちもスタッフも大喜び！

正副農場長から一言!!

松井泉樹

１つの活動を行うためには、活動を計画し、子どもたちの募集をし、道具の準備をし、天気を心配し･･･そして何より本当に多くの人の協力が必要であることを実感しました。当日は緊張しながら話したり、子どもたちと一緒に土まみれになって活動し、たくさん笑って、お腹ぺこぺこになって、もりもり食べて･･･お腹も心も満腹とともに、達成感が何にもかえられないものでした。頑張った分、大変だった分、達成感として自分の肥やしになること、教員になった今の気持ちと同じだなと実感しています。私は、四季折々の表情をみせてくれる茂菅の中で、特に春の新緑いっぱいの茂菅に向かう坂道を自転車で下っていくのがとっても大好きでした。子どもたち、スタッフ、みんな元気にしてるかな･･･？

茂菅の活動をして、第一に、“子どもってかわいい！”と思うようになりました。ニコニコしながら収穫をしている子やパンツをびしょびしょにしながら田植えをしている子、カエルを必死に追いかけている子、…いろんな子どもがいて、みんなかわいかったです。大学入学当初は、あまり“教師になろう！”という気持ちがなかった私ですが、子どもたちが一生懸命そして楽しみながら活動する姿を見て、“教師になろう”という気持ちが生まれ、強まっていきました。そして、自然も好きになりました。茂菅でお世話になった方々、そして田んぼや畑、川などの大自然に、本当に感謝しています。ありがとうございました。

矢竹喜美子

川端智子

副農場長という立場で、１年間を見通した計画や１回の活動の流れを決めることに携わることができたおかげで、毎回の活動前に「子どもたちのために何ができるか」を考え続けることができました。学生の時から「子どもたちのために何ができるか」という視点をもつ機会ができたことに、とても感謝しています。

教員になった今もこの視点が、活動の計画や学級を運営していくうえでの土台になっています。

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

農場長【松井】のエピソード

【ＹＯＵフェスおもちつきの準備時】

「てるちゃん、もち米蒸し終わるまで、ゲームとかよろしくね♪」

「いいですよ～☆任せてください」（二人とも後日あんなことになるとは夢にも思わず･･･）

【ＹＯＵフェス当日】

「どうしよう･･･予定よりも時間がかかってるー!!」（真冬なのに冷や汗ダラダラ）

「み、みずきさん･･･まだですかぁ･･･？」（このやりとり数回･･･）

アドリブの引き出しを使い果たしたてるちゃんの、あの青ざめた顔は今でも忘れません。本当にあのときはごめんね。でもきっと教員になった今、あの時鍛えられた力は役立っているはず･･･そう願いたい！

副農場長【矢竹】のエピソード

『子ども以上に楽しみにしていた収穫！』

私が茂菅の活動で楽しみにしていたこと・・・、仲間と計画を立てたり準備したりすることも、かわいい子どもたちとの田植えや草取りなどの活動も、もちろん楽しみだったけど・・・・・、実は『さつまいも』と『とうもろこし』の収穫をとっても楽しみにしていたんです！それは、この２つが私の三大好物のうちの２つだから!!ということで、子どもたち以上にこれらの収穫を楽しみにしていたなぁ。大好きなさつまいもととうもろこしを、子どもたちとワイワイしながら食べることができて、本当に幸せでした。自分たちで作ったものを、作った人たちと、太陽の下で食べるとおいしさも倍増する！これまで食べた中でいちばんおいしかったと思うな。本当に本当にいい経験ができました。

副農場長【川端】のエピソード

思い出日記、子どもたちの仕上がりは･･･！

子どもたちにその日の活動の終わりに思い出日記を書いてもらったよね。

記憶が薄れないうちに感動をその場で書きとめるって大切ってことで（＾＾）

青空の下、ブルーシートを下敷き代わりに、その日の活動の印象がそこにドーンと描かれるの。

小さい子も一生懸命書いていたのを思い出すね。

完成したのを見る瞬間って私たちスタッフもワクワク！

スタッフ「みーせーて！」

子どもたち「いいよ！ほら！でっかい虫描けたー！」

そうそう、虫と戯れるのも大事大事！！茂菅の活動は食べ物を育てることそのものの他にも、魅力がいっぱいってことなんだよね。自然の中で、子どもたちは初めての経験に出会い、仲間に出会い、虫にも出会って心を寄せた！

子どもたちの日記から私たちスタッフは色々学んだねぇ。

コメントコーナー

いつもの活動では一歩さがって子どもたちの姿を温かいまなざしで見守っていてくださっているお父さんやお母さんにも、畝作りでは主役となって大活躍してもらったよ！

子どもたちもそんなお父さんお母さんの姿に釘付け！

田植えのときは、子どもたちも自分の力で植えられるよう、ロープにしるしをつけて「せーの」のかけごえに合わせながら植えていったね。

等間隔で真っすぐに植えることができてみんな満足！

さつまいもほりでは、大きなさつまいもが出てくる出てくる！

みんな目を輝かせて、さつまいもを傷つけないように大切に掘り出したよ！あまりの大きさと量に、スタッフもびっくり！

千歯扱きを使っての脱穀体験！順番を待つ待ち時間はもちろん林部さんから頂いた柿やりんごを片手、いや両手に持って食べながら待つ！

中には、食べることの方に夢中になっている子も!?だって、おいしいんだもんね！

平成 18 (2006) 年度　活動紹介

農場長　平林　照世
副農場長
川辺　裕作

1．テーマ・目標

「ありがとう」自然の恵みに、共に汗する仲間に

2．１年間の活動

【第１回　４月９日　（日）】
ジャガイモ植え
【第２回　５月 21 日（日）】
野菜苗植え付け
【第３回　６月３日　（土）】
田植え
【第４回　８月６日　（日）】
ジャガイモ・モロコシ収穫
【第５回　10 月１日（日）】
稲刈り・はぜかけ
【第６回　10 月２日（日）】
脱穀・サツマイモ収穫
【第７回　11 月５日（日）】
収穫祭
【第８回　12 月３日（日）】
落花生収穫・畑起耕

※１月 26 日（金）
茂菅米のマリ共和国への発送式

私たちのオリジナル

落花生作りに挑戦

「落花生の花が咲いて、その花が落ちると、花の落ちた所から子房柄という棒のようなモノが伸びてきて土の中に入っていく。そして、落花生の実は土の中にできるんだよ。」
林部さんのお宅にアップルズでうかがった際、JAながのの大内さんだったでしょうか。どなたからかそんな話をお聞きしました。
「へー！だから落花生っていうんですね！やってみたい!!」
これが落花生作りの始まりでした。

五穀豊穣

「『五穀豊穣』という言葉があるけれど、五穀ってなんだか知っていますか？」土井先生から問われました。米・麦・豆・粟・黍。米や豆は知っているけれど、粟や黍を目にしたことがない私たち。子どもたちだって知らないはず。かつて日本、農村の暮らしを支えていた「五穀」を子どもたちと一緒に学んでみたいと思い挑戦しました。きっと、子どもたちには少し難しかったけれど、彼らの心に残ってくれているでしょうか。

天候で活動が延期になることは当たり前。でも、林部さんやJAながのの方々がどんなことが起こってもすぐに快く協力してくださり、土井先生がいつも見守ってくださっていました。そういう方々から、状況に合わせて対応する心構えの大切さを学び、徐々に度胸もついてきました。そして、参加してくれた子どもたちや、保護者さん、スタッフの仲間との楽しい思い出が、今でもどこかで私を支えてくれています。茂菅で農場長を経験させていただいたこと、心から感謝しています。（平林照世）

正副農場長から一言!!

農業も教育も土台作りが肝心であることを教えてくださった、土井先生。いつも温かく、長野のこと、おもてなしの気持ちを教えてくださった、林部さん。キラキラした顔で活動に参加していた子どもたち。「一生懸命」の大切さを教えてくれた大学の仲間たち。多くのことを教えてくれた茂菅。ありがとうございました！（川辺裕作）

茂菅の活動の中で、本当に貴重な学びを得ることができました。活動の中で、子どもたちが作物を植え、成長を観察し、収穫して食べる過程で、自然が子どもたちに与えるものの大きさを改めて実感しました。

また、一年間の充実した活動の裏には多くの方の支えがありました。感謝の気持ちを忘れずに、学び得たことを胸に、歩んでいきたいです。一年間本当にありがとうございました。

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

まじめ欄～茂菅での活動～

（てる） 茂菅ふるさと農場！何が一番思い出に残ってる？
（べー） 俺は、畦塗りが一番大変だったなあ・・・。
（てる） たしかに、力仕事だよね。みんなに手伝ってもらったなあ。りかは？
（りか） 私は落花生を育てたこと！
落花生がどうやってできるのか、初めて知ったよー！
（てる） 落花生の育ち方をいろんな方法で子どもたちに伝えたよね。
パネルとか。クイズとか。
（べー） 本当に花が落ちて、土にもぐってたよね。
（りか） とれたての落花生をゆでて食べたのも初めてだったよね。
（てる） ゆでた落花生でお酒飲みたいねー！

一番働いていたのは誰だ！？

（べー） ぶっちゃけ、田んぼの水いれ当番は時々忘れちゃうことあったなあ。
（りか） まあ、てると私は忘れてないけどね（笑）
（てる） 川辺だけだな。
（てる） でも、正直、農場へ一番行ってくださってたのは土井先生だったよね。
朝、水入れに行くと、もう一人で草取りしてくださってて恐縮したよ。
（べー） リヤカー押して橋を渡っていた姿が忘れられないなあ。
（りか） ホントありがたかったよね。多くの方の支えがあったからこそ、充実した活動ができたんだね。

あの男は今・・・！？

（りか） 農場でとれたお米をマリ共和国に送ったよね。
（てる） マリの場所を子どもたちに説明するために『飛び出す地図』を作ったよね。
（べー） 数年後・・・まさか、青年海外協力隊で、サトルくんがマリ共和国の隣の国に行くことになるとは・・・。
（りか） 誰も予想してなかったよね。
（てる） そして今、・・・なぜか屋久島にいるからね。
（べー） いいねえ！行きたいなー。農業やってるのかな？

コメントコーナー

作業が終わって一休み。
ゆでたての卵はおいしいな。

田んぼが黄金色になりました。豊作だー！
「し」の字に刈っちゃったぁ。もうすぐつながるぞ。

お米の収穫を終えて。
みんなで記念撮影。はい、チーズ！

大学の調理室で収穫祭したよ。五穀で勉強した小麦でクッキとか…活動を振り返っていろいろなメニューを作りました。

平成 19(2007)年度　活動紹介

農場長　　洞出　直美
副農場長　上田　雄介

1．テーマ・目標

人・生き物・植物が共に支えあって生きているということを、世代を超えた仲間と活動をする中から、虫や作物とふれる中から感じとり、仲間や自然に感謝する心を育てる。

2．1年間の活動

【第1回　4月14日（土）】
じゃがいも植え
【第2回　5月12日（土）】
落花生・サツマイモ・コンニャクイモ・
トウモロコシ・おばけかぼちゃ植え
【第3回　6月9日（土）】
田植え
「どろんこヌルヌル！エンジョイ田植え！」
【第4回　7月21日（土）】
かかし作り
【第5回　8月4日（土）】
もすげの野菜はも～すげ～
草取りしながら虫探し
【第6回　9月30日（日）】
稲刈り・はぜかけ
【第7回　10月20日（土）】
稲の脱穀、サツマイモほり
【第8回　11月17日（土）】
収穫祭
【第9回　12月15日（土）】
落花生収穫

※1月30日（水）
茂菅米のマリ共和国への発送式
（JAながのにて）

＊八代目の オリジナル＊

＊自然の力を感じよう！
どじょうで田んぼをきれいに＊

生き物の力を感じてもらおうと企画しました。どじょうにまつわるクイズを出したり観察したりして放流しました。

＊心も体も元気 もすげ体操＊
1･2 モスモス！2･2 もすもす！

活動内容にあった体の動きを考えて体操をしました。活動開始はどこか緊張気味の子どもたちとスタッフ。この体操を通して笑いが生まれ、心も体もほぐして活動に入ることができました。

＊こんにゃくを作ろう＊

落花生に続いて、こんにゃくって実は芋からできているんだ！ということをみんなで学びたく企画しました。食べるまでにたくさんの手間がかかることも勉強になったこんにゃく作りです。

＊心をひとつに オレンジつなぎ＊

農場に関わっている方はみなさんつなぎ姿。その姿に憧れて８代目オレンジつなぎができました。どこにスタッフがいるか一目でわかります。

＊八代目 農場長･副農場長の一言＊

この活動を通して得られたことは本当に数多く、今子どもたちと楽しく学びながら学校生活を送れるのはここにあると感じます。共に全力投球できた仲間やすべてを温かく見守ってくださる先生、林部さん。茂菅という場に多くの出会いと笑顔がありました。そんな場にいられたことを本当に幸せに思います。そして、今自分の教室が茂菅のように多くの出会いと学びを生み出せる場であるようにと日々学び続けていきます。

農場長　洞出直美

子どもとの接し方、何かを企画しそれを運営するためにすべきことを学ぶことができました。茂菅ふるさと農場での米や野菜を育てたことは現在、社会科での米作りや農業についての学習の際に実体験から話ができます。また、農場に参加したスタッフさんや林部さんとの交流が現在でも続いており、さまざまな考え方や体験を知ることができ、自分自身の視野を広げることができました。

副農場長　上田雄介

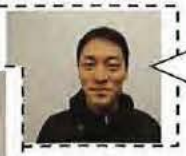
＊モスゲトーーーク！！6年前をふりかえって印象深いこと＊

1・子どもたちとスタッフの名札を深夜まで作ったこと
2・どじょうを捕まえに須坂まで行ったこと
3・駅前で朝までカラオケ・・その時じゃんけんで負けて田んぼの水入れに行ったこと
農場での活動より事前の準備の方が大変で、農場長と副農場長のおかげでできた！「子どもたちのためにここまで頑張れるんや」と感心させられることばっかりでした。　BY にいさん

みんなでオレンジのつなぎを着て汗を流す姿が「The 青春！」その雰囲気がよかった！急な飛び入り参加でも快く活動に参加できたし、林部さんの優しさも素敵でした。とーっても良い思い出です。BY やす

落花生の収穫のとき名前の由来を絵に描いて教えてあげていたことが、体験だけでなく学習も大事にしているいいところだなって、自分たちの代でも受け継いでいきたいって思いました。　BY はるちゃん

あれはほんまに最強やった！こんにゃくがこんなに痛いもんやとは思わんかった・・。



こんにゃくの試食会・・試作会・・忘れられん。ワタパチの最強版やで。めっちゃがんばったのに収穫祭熱で出れんだし・・
BY ともぞー

しいちゃん

なおさんの愛がたっぷりにぎられた Big おにぎり！活動のあとはなおさんの愛でおなかも心も満たされました！！

炊飯器のスイッチ入れ忘れてたときあったよな・・
しかも次は水入れてないのにスイッチ入れててぱらぱらごはんできてたし・・なおは長靴脱げんこともあったし、俺ひとりで草取りしてるときもあったし・・笑　　BY 副農場長

副農場長

茂菅の歌を過去作った人がいるって話から茂菅体操ができたんよな。もすもす言って楽しかったなー。林部さんのりんご作りで「俺はりんごを植えてるんじゃねぇ、夢を植えてるんや」がかっこよくて覚えてるわ。BY 野口くん

ほんまにいろいろありすぎて、それでもってほんまに楽しかった。活動おつかれさま会って名やのに活動参加してないスタッフ結構来てくれて仲良くできたし、おかげで思い出聞きたくて今回メールしたら「実は１回も活動参加してないんです・・。」って返事もあって。
初めて参加してくれるスタッフさんが多かったのも新鮮で楽しかったな。
いろんな人にほんまに支えてもらった活動やった!!ありがとう★

農場長

＊たくさんのありがとう＊

たくさんの方に支えられて
できた活動でした！！

がんばって作った名札はぜんぶで 79 個！
子どもたちはもちろん、参加してくれたスタッフの名札をメンバーが増えるたびに作りました。

事前の準備からたくさんの方に助けていただいていました。
ありがとうございました!!
事前準備の活動も楽しかったです。

副農場長の車ステージア君。スタッフを運ぶだけでなくたくさんの藁や器具を運んでくれました。

茂菅体操！
スタッフの元気よさがあり、子どもたちの明るさがあり、継続することができました。

八代目活動の唯一の雨は稲刈りでした。
けれどカッパを着て一生懸命活動に参加してくれる子どもたちとスタッフでした。

たくさんの参加
　たくさんの自然の恵み
　　本当に感謝でいっぱいです。

土井進先生・林部さんご夫妻・ＪＡながのの方々、本当にありがとうございました。

平成 20 (2008) 年度　活動紹介

農場長　宮川はるな
副農場長　中川茜、原卓也

1．テーマ・目標

五感を使って自然とふれあい、仲間とともに協力して活動に取り組むことによって、喜びや楽しさを全身で感じ、自然との出会いを共有する。

2．１年間の活動

【第１回　4月 19 日（土）】
じゃがいも植え
「じゃがじゃがっち！大きくなぁ～れ♪」

【第２回　5月 10 日（土）】
こんにゃく・さつまいも・とうもろこし植え
「コンニャくん、イモ子もモロ子もすくすくそだ～て」

【第３回　6月７日（土）】
田植え、大豆植え
「だいずくんとおこめちゃん、みんなでわい②たのしくうえよう♪」

【第４回　7月 19 日（土）】
かかし作り、ザリガニ釣り
「わくわく♪かかしづくり　ドキドキ☆ザリガニつり」

【第５回　8月２日（土）】
じゃがいも・とうもろこし収穫

【第６回　9月 28 日（日）】
稲刈り
「さくさくいねかり、どっこらしょ♪」

【第７回　10 月 18 日（土）】
稲の脱穀、さつまいも収穫
「おこめだ☆おいもだ♪あきがきた！！」

【第８回　11 月 15 日（土）】
収穫祭

【第９回　12 月 13 日（土）】
「９年目　信大茂菅ふるさと農場懇親会」

※１月 13 日（火）　茂菅米のマリ共和国への発送式

★私たちのオリジナル★

・もすげ体操９代目バージョン（農作業の動作、みんなで輪になっておどる）
・バンダナでグループ分け（色で分けることによって幼児たちにもわかりやすく）
・三役以外を巻き込んで企画、運営（主体的に活動に参加してもらうため）
・保護者さんにお子さんと違う班で活動してもらう（多様な他者とのふれあい）
・田んぼにザリガニ放流、釣り（ハサミで稲を切らないよう囲いをつくって放流）
・豆腐づくり（豆腐の原料が大豆であることを知らなかった子が多くいた）
・保護者さんと懇親会（一年間の感謝を伝えるため、また次年度への課題を知るため）

ザリガニ釣り

豆腐づくり

懇親会

正副農場長から一言!!

原稿作成にあたり何年かぶりにもすげノートと写真データに目を通し、一年間がむしゃらに突っ走ってきたことを思い出しました。もすげには、私にそうさせてくれる、子どもたちの笑顔があった。みんなの「思い」があった。何より、たのもしい仲間たちの存在があった。閉場しても、思い出は永遠に生き続けます。（宮川はるな）

茂菅はいつでも私の原点です。迷ったときはいつも立ち返りたくなる思い出の場所です。茂菅がなくなることは寂しいけど、あの時の仲間、保護者の方、子どもたちと作り上げた独特のアットホームな世界は、参加者・企画者全員の心に残り続けると思います。茂菅を通して出会えたすべての人に感謝（中川茜）

「協力すること」「仲間の大切さ」「何事にも挑戦」…etc.今も自分の中で生きる多くのことを与えてくれたもすげに感謝!!ありがとう!!（原卓也）

赤裸々Talk♪　～今だから言える裏話～

農場長のエピソード【朝日をおがんだ活動準備】

毎回早め早めの準備を心掛けていたはずなのに、なぜかいつも活動日前日になってあたふた！！「明日はどんな顔で来るかな～」なんて子どもたちのことを話しながら準備していると、いつの間にかカーテンの隙間からほんのり光が…。でも、それがけっこう楽しかったりもして(笑)

子どもたちのことを想い、仲間とともに心ゆくまで時間を使ったあの頃は、一生の宝ですね。(宮川はるな)

副農場長のエピソード【新しい仲間を企画に巻き込むために…】

私たちの代は三役以外を巻き込もう、企画に参加してもらおうが、一つのテーマでした。そこで、４月の頭から寮で出逢う２年生や授業で一緒になった人、なんだかきらめいていると感じる人に、片っ端から「茂菅にこない？」とナンパしまくってました。知らない人にまで声をかけてたという... お陰様？で、たくさんの人たちが九代目茂菅に関わってくれました。

あ、実は、この代の茂菅体操は２年生に全て任せて考えてもらったりしています(笑)

たくさんの仲間に支えられた１年間でした。(中川茜)

副農場長のエピソード【The・ザリガニの巻】

「ザリガニ釣りやろう!!」…って言ったはいいが、「ザリガニども、どうする？」って考え、一人で、友達と、いろんな川に行った。池にも行った。そして時には、落ちた。

しかし、苦労して準備した未知の生物（ザリガニ）と会った子どもたちの顔は、今でも忘れないくらい印象的だった!!

今でも思う、自分にとって大切なこと…「初めてのことへの挑戦」。(原卓也)

私たちのオリジナル

○川遊び　私たちの代のオリジナルな挑戦は活動の中に「川遊び」を取り入れようとしたことだ。川遊びをしながら、収穫した野菜をいただき、魚取りも計画した。しかし、前日の大雨により川が大氾濫。残念ながら、川遊びはできなかったが、今までに無かったものを自分たちで創り上げる楽しさ、そして厳しさを知るよい機会となった。また、次の代で私たちの夢を実現にしてくれるという嬉しい結果となった。

○草木染め

じゃがいもの収穫に併せ、じゃがいもの葉を使って草木染めを行った。色はうっすらとつく程度であったが、身近なものを使って染色できることに感動した。

○わら細工

お米を収穫した時にできるわらで遊ぶ活動を行った。みんなで作った縄を長くつなげ、外で「電車ごっこ」をして遊んだ。みんなで作って、みんなで遊ぶという楽しい活動となった。

正副農場長から一言!!

農業の良さをなんとなく感じていたものの、あまり農業をすることなく大学生になった私。先輩にあこがれ、茂菅で笑顔をこぼしている子どもにひかれ、茂菅やりたい！と。大変なこともたくさんあったけど、農業の良さを実感でき、さらに最強の仲間を作ることができ、茂菅は私の人生で本当に大切な場所になりました。ありがとうございました！

飯島理沙

鈴木祐香

４月に農場に集まってきた子どもたちとおうちの方と地域の方と学生とで一緒になって種を植え、みんなで一緒になって収穫を喜んだ茂菅での１年間。「みんなで一緒に」私が今、教室の中で一番大切にしていることです。

当時を振り返ると、積極的で行動力のある農場長と副農場長がいなければできなかったことばかりだった、このメンバーで 10 代目の活動をすることができたことを心から良かったと思うし誇りに思う。また、活動を支えてくれた仲間や林部さん、土井先生、本当にありがとうございました。茂菅での経験を、思い出を胸に頑張っていきます。

藤田裕介

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

	飯島理沙　@ささ 4月の1回目の活動の時、祐香熱出したのは、本当にびっくりしたなぁ。最初で緊張してた上に、どうしよう！！って。
	藤田裕介　@かじ でもさ、ゆかちんのすごいところは、熱出てても活動来ちゃうところだよね(*^^)v マスクでふらふらしながら登場したよね。(笑)
	飯島理沙　@ささ ね！それはほんとすごい。心配だったけど…。 祐香は 8 月にも熱出したよね。こっちもすごく焦ったよ～(･.･;)
	鈴木祐香　@ゆかちん いや～ごめんごめん。自分でもびっくりだったよ。普段そんなに熱出さないから。そういえばかじは 8 月の活動のときに衝撃の一言理沙に言われたんだよね？
	藤田裕介　@かじ そうそう。「かじ使えない！」って。今でもよく覚えてるよ。
	鈴木祐香　@ゆかちん かじ、8 月の活動の前日徹夜してたんでしょ～？(^^) なんか、ね、いいことあったんだよね♪
	飯島理沙　@ささ かじにそんなこと言ったっけなぁ。ごめんね。8 月は川遊びが前日にできなくなって急遽計画変えて、余裕なかったんだよね。当日も祐香は風邪でフラフラ、かじは徹夜明けでぼーっとしてて。 あとからかじの徹夜のわけを知って…さらにもー！ってなったり(笑)。
	藤田裕介　@かじ ごめんね。前日のことはいろいろ言うなやぁ照れるから！ でも、俺も夜中にもすげに通ったぐらいもすげ Love なんだよ？
	鈴木祐香　@ゆかちん 夜中にもすげ行って…なにしてたの？デート？(笑) かじが夜中に行ってたって、この原稿作り始めて初めて知ったんだけど！
	藤田裕介　@かじ ちがうわ！さつまいもの苗がビニールシートに当たって枯れないように木を挟みに行ってたんだよ。
	飯島理沙　@ささ まじ！？知らなかった…。ありがとう。さすがかじ(^^♪ でもさ～こんなうちらも 7 月の活動付近でギクシャクしてたよね。
	鈴木祐香　@ゆかちん そうそう。スタッフの集め方とか…それで、3人で飲もう！って提案して、うちで飲んだよね。お互いの意見をぶつけあって、無事ギクシャク解消！できたよね。
	藤田裕介　@かじ やっぱり思ってることを言い合うって大事やな～って思った日だったな。
	鈴木祐香　@ゆかちん こうやって仲間の絆が強くなってくんだもんね。改めて実感したよ。この3人の絆は一生ものでしょ！？
	飯島理沙　@ささ うん！この3人でもすげができて…本当に良かった。これからもよろしくね♪

コメントコーナー

田んぼをスズメから守ってくれるかかし作り

大雨で川遊びは中止だったけど、念願のスイカわり

10周年の記念祝賀会♪大事な年でした

はぜかけ！たくましい姿がたまらなかったね

自分たちで育てた大豆できなこ作り♪

育てたもち米でおもちつき！よいしょ～！

平成22(2010)年度　活動紹介

農場長　　三石　梨沙
副農場長　　土屋　克明　　松井　遥

1．テーマ・目標

茂菅での農業や自然との関わりを通して、それぞれの季節ならではのものや、生命の尊さに触れる。

2．１年間の活動

【第1回　4月17日（土）
⇒4月24日（土）】
じゃがいも植え、看板作り

【第2回　5月15日（土）】
さつまいも・とうもろこし・トマト・ピーマン・枝豆・ひょうたん植え

【第3回　6月5日（土）】
田植え、大豆、枝豆植え

【第4回　7月17日（土）
⇒7月24日（土）】
じゃがいも収穫パーティー、かかし作り

【第5回　8月7日（土）】
川遊び

【第6回　9月25日（土）
⇒9月23日（木）】
稲刈り、はぜかけ

【第7回　10月16日（土）】
稲の脱穀、さつまいも掘り、焼き芋

【第8回　11月13日（土）
⇒11月27日（土）】
ひょうたんキーホルダー作り、ポップコーン作り
（活動後の午後、保護者の方と学生とで懇親会）

【第9回　12月11日（土）】
おもちつき

虹の懸け橋賞
平成22年11月9日、第63回JA長野県大会において，JA 功労者顕彰，優良組合組織表彰が行われました。

私たちのオリジナル

●川遊び

●ひょうたん

「今年の目玉をつくろう」ということで、林部さん、小池さんと相談し、小さいひょうたんを作りました。へちまと同じように、水を入れたタルの中で腐らせるのですが、それが中々凄いにおいでした。また、乾燥させる前にひょうたんに小さな穴をあけて種を出すのですが、種を雑に引っ張り出すとひょうたんが割れてしまうのでとても大変でした（相変わらずにおいもします）。

しかし活動の際には、子どもたちは色をつけたり、絵を描いたり、ヒートンを付けたり…とても楽しそうに活動をしてくれました！

正副農場長から一言!!

子どもたちのために茂菅の長をやらせていただいて、実際に一番ためになったのは私自身だと思っています。農業の知識はもちろん、人と関わることの大切さ、仲間と協力すること、長としての在り方など…。裏方をやって、大変なこともたくさんありましたが、笑いあり、涙あり、本当に幸せで、濃い一年間でした。茂菅はいつまでも、私の心のふるさとです。11代茂菅に関わって下さったみなさん、ありがとうございました。（三石梨沙）

「子どものために頑張る」、当たり前のようなことかもしれませんが、茂菅の活動を通して強く心に残りました。今も教師として働いているわけですが、その大切さを実感しています。また、茂菅の農場に関わる中で、人のつながりの大切さを感じました。これからは茂菅での学びを生かし、誰かを本当の意味で支え、支えてくれている人の想いを感じ応えられる人になりたいです！（土屋克明）

子どもの笑顔とたくさんの人に支えられて1年間活動できました。子どもたちが、楽しみながら何を学べるのかを真剣に考え企画すること、活動では、人との関わりを素直に楽しむことが大切だということを実感しました。（松井遥）

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

ベスト3

ポンプ当番の初日 土屋寝坊事件！！

（三石）まさか初日から忘れるとは思わなかったよ･･･。
（松井）大学生の行動時間じゃなかったもんね(笑)
（土屋）いやほんとにやばいと思ったから。だって20分くらい遅れちゃって。あの坂下ったら、そこには、腕を組んで仁王立ちで御怒りの農家の方がいてね…。すっごいへこんだな…。
（三石）･･･。長くない？
（土屋）めっちゃ大きな声で、「何時だと思ってるんだ！！」って怒られました…。田んぼの水入れは、農家の方々の信頼関係がとても大切で、時間通りにやらないってことはみんなが心配して、信頼を裏切ることになるんだぞ！！と教えていただきました。
（松井）（あ、スペースが終わった･･･。）

虹の懸け橋賞！

（三石）賞金5万円！！！！
（松井）今まで代々引き継がれてきた茂菅の活動が認められたんだね。
（土屋）すごいたくさんの人の前でプレゼンテーションしたよね。
（三石）新聞に何回も取り上げてもらったけど、茂菅の良さが認められたっていう感じだったね！
（松井）うん！代表で表彰席に出席できてちょっとうれしかった！
11年間活動を続けてこれたのも、先代の先輩方や林部さんをはじめ、多くの人のおかげだし、本当に感謝だね。
（土屋）あらためて茂菅の農場が積み上げてきた歴史を感じたなぁ。たくさんの人に支えられて続いていく活動って本当にすごいと思う。
（三石）ありがとう！！

土屋脱退の危機！！！

（三石）ナンバー1といえばやっぱりこれでしょう！土屋脱退の危機(笑)。
様々なことに手を出した土屋がショートしてしまうという事件ね。
（松井）バラバラになっちゃって。生協で話し合いしたね。これからどうしようかって。
（土屋）他のキャンプの企画にも追われて、完全に死んでた時期だった･･･。「なんで茂菅の活動やっているのか、よくわからない」的な爆弾発言していたしね(汗)。
（三石）フラれた彼女みたいだった(笑)。でもちゃんと話し合ってよかった！！私も長としてのあり方学んだよ！
（松井）そこから残りの活動にも力入れ始めて。やっぱ子どもの笑顔みると元気が出たよね！
（土屋）3人で話し合って、ちゃんと自分の気持ちに整理つけて本当に良かった。子どもたちの笑顔のために頑張って、ちゃんと意見交し合って計画しないと、本当のやりがいは得られないってわかったし。ありがとう茂菅！！

コメントコーナー

初回の活動で，今日のまとめを作成中…。個性あふれる絵日記風レポートができました！

看板づくり

田植え。パンツまで濡れちゃったけど，沢山稲を植えることができました。

はぜかけはみんなで協力してやりました！高い所に登って…はやくお米が食べたい！！

千歯こきで脱穀☆穂を落とすために力いっぱい引っ張りました！

快晴に恵まれいも掘り！誰にも負けない大きなさつまいもを掘るぞ！

My ひょうたんの色つけ中・・・。オリジナリティあふれる作品が沢山！

平成23(2011)年度　活動紹介

農場長　井出愛香
副農場長　菊池智香　澗口歩美

1．テーマ・目標

茂菅農場の自然や茂菅に関わる人たちに触れる中で、新しい発見や挑戦をしたり、新しい仲間を作ったりして、子どもが笑顔になる。

2．１年間の活動

【第１回　４月16日】
　じゃがいも植え
【第２回　５月21日】
　夏野菜を植えよう・看板作り
【第３回　６月11日】
　田植え・枝豆植え
【第４回　７月16日】
　フナの放流・じゃがいもの収穫・
　そば植え・花火
【第５回　８月６日】
　夏野菜の収穫・スイカ割り
【第６回　９月23日】
　ひょうたん、へちまの収穫・
　稲刈り・はぜかけ
【第７回　10月15日】
　焼き芋・落花生の収穫
【第８回　11月12日】
　ひょうたんペイント・
　マリ共和国への絵
【第９回　12月10日】
　おもちつき
【第10回　１月21日】
　おはぎ・そばクレープ
【第11回　２月11日】
　お面作り・豆まき

私たちのオリジナル

○おそば
○夕方からの活動（花火）
○１、２月の活動を追加
・なんで12月で活動が終わるんだろうという疑問からやってみました。
保護者の方から「冬は外で遊べないから嬉しい」と言っていただけました♪
子どもも学生も楽しく活動できました!!!

１月にはおはぎとそばクレープを作ったよ。

１年間の茂菅での活動で私が１番学んだことは、仲間の大切さでした。特に、歩美と智香がいてくれたおかげで活動ができたと思います。教師になっても他の先生、保護者の方と一緒に子どもを教育していきたいと思います。（あいか）

何かひとつ方法を決めると「これしかない！」と考えてしまうことが多かった私が、年齢層の広い方々と接していく中で柔軟な発想ができるようになりました。今後の生活では茂菅で身につけた力を発揮していきたいです。（ちか）

多くの人に支えられていることを学びました。茂菅に関わっている誰かが欠けると、活動は成り立ちません。たくさんの方々の協力によって活動ができたと感じています。また、長期で関わることで見ることができた、子どもたちの成長がありました。（あゆみ）

正副農場長から一言!!

平成 24(2012)年度　活動紹介

農場長　手塚亮介
副農場長　井上甲斐　遠山芽衣　長田侑里子

1. テーマ・目標

茂菅で命を育て、作物としていただく活動を通して、土、光、風に触れ、感謝の心を育て、そして楽しむ。英語体験、及び活動を通した交流の中で、子どもが様々な人と関わっていけるような能力を育む。

2. 1年間の活動

【第1回　4月21日】
じゃがいも、人参植え
【第2回　5月19日】
夏野菜植え
【第3回　6月9日】
田植え、大豆植え
【第4回　7月21日】
じゃがいも、人参収穫
【第5回　8月11日】
夏野菜の収穫、カレー作り
【第6回　9月22日】
稲刈り、はぜかけ
【第7回　10月13日】
脱穀、焼き芋
【第8回　11月10日】
おでん作り、ひょうたんペイント
【第9回　12月15日】
もちつき
【第10回　1月19日】
野菜ケーキ作り
【第11回　2月16日】
豆まき、恵方巻き作り

私たちのオリジナル

【英語活動】はじめました！

第13代目の茂菅では，活動の中に英語体験を取り入れ，プラザ名も「信大茂菅 Farming Village」という名前へ変身しました。英語活動は，“Good morning!”の挨拶から始まり，ダルトン先生とともに作物の名前を英語で発音してみたり，英語を使ったゲームを行ったりしました。英語活動を通して子どもも学生も，様々な人とつながることの楽しさを感じてくれたらいいな，という願いを持って活動してきました。

1年間大変でしたけど、1年間ずっと茂菅に関われたってだけで、率直にすごく楽しかったと思えました。普段の茂菅の「楽しい」って、その分の努力があってこそ成り立つのだな、ということを実感でき、良い学習ができた気がします。

井上甲斐

茂菅での活動をさせていただいて、たくさんの方にお世話になり、関わることで私自身が成長させていただいたと思います。茂菅があったから今の私があるのだと思います。

手塚亮介

茂菅の活動を通して，「茂菅農場」がなければ出会えなかったであろう様々な方とかかわることができました。その中で，自分がいろんな方のおかげで活動ができたのだなということをしみじみと実感しています。茂菅で得たつながりは，ずっと私のことを支えてくれると思います！

遠山芽衣

正副農場長から一言!!

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

実はさあ、バイトの食い切れなかったまかない(酢飯)を茂菅の地中に埋めてたんだよね。

かい君、しょっぱなから飛ばすね。

大量のシャリ(10合くらい)を一気にもらうんだけど、いつも食い切れなくて…いや、俺はただ、米で米を育てたかったんだ！！

あ！あの魔女スープに浮いてた白いものって、もしかして…(遠い目)

…ところでさ、俺らの代はリフレクションの後にダジャレやってたよね。

…そそ、そうだよー！いつも締めの時にぼそっと言うんだよね！

そうそう！みたらしだんごを食べてみたらしい、とか…

休日はいもホリデイ☆とかね

…て、手ごわい…んんん…ﾊｯ!…**石が落ちた、ストーン!!**

そんなの言ってないでしょー!!**かいさん、改竄だよ**それ…ふふ

もうやってらんないよ！もう**解散**！

コメントコーナー

雨の中での田植え、泥んこになってはしゃいだよ～！農作業の後に食べるおにぎりの味は格別ですなぁ。

心を込めて田植えをしました!!

鍬で畑を耕しまくるぞー!!
暑い中だったけど、みんなでやると楽しいね！
林部さんや小池さんに教えてもらって、

鍬に詳しくなりました!!

夏野菜を収穫してカレーにして食べたよ。みんなで育てた野菜の味は、いつもより何倍も美味しく感じました。

ただ、カレーはやっぱり辛ぇ…。今日も農作業おつかれーさまでした！

平成25(2013)年度　活動紹介

農場長　永原正裕
副農場長　飯島香純　那須絢太郎

1. テーマ・目標

自然の中に身を投じ、農業・工作・料理などにより自然の恵みを体感することを通して、自然を身近に感じ、子どもたちの生活がより豊かになる。また、普段何気なく口にする食べ物の生産から販売までの食の流通について知り、食べ物についての見識を改める。さらに、異文化との交流を通して、子どもたちの好奇心の幅を広げる。

2. 1年間の活動

【第1回　4月20日（土）】
じゃがいも植え、障害物リレーin茂菅農場
【第2回　5月18日（土）】
夏野菜植え（さつまいも、とうもろこし、ヤーコン）
【第3回　6月8日（土）】
田植え（古代米で「モスゲ」の文字を描いた）
大豆・小豆植え
【第4回　7月20日（土）】
じゃがいも収穫、かぼちゃ植え
【第5回　8月11日（日）】
とうもろこし収穫、大根種蒔き
【第6回　9月21日（土）】
稲刈り、はぜかけ、白菜種蒔き
【第7回　10月13日（日）】
脱穀、さつま芋収穫、焼き芋、閉場式
【第8回　11月10日（日）】
ハロウィン（かぼちゃのランタン作り、自然物を使った仮装）
【まほろば祭　11月30日（土）～12月1日（日）】
収穫したさつま芋を焼き芋にして販売
【第9回　12月21日（土）】
もちつき、いも判作り
【第10回　1月11日（土）】
餃子作り
【第11回　2月15日（土）】
豆まき

私たちのオリジナル

○古代米で「モスゲ」の文字

現代米とは色の違う古代米「しなの深紅」を使って、「モスゲ」の文字を浮かび上がらせよう、という試みをしました。稲刈りの活動の際は、直前の台嵐で周りの稲が倒れてしまって文字は分かりにくくなってしまいましたが、一時期は写真のように、しっかりと「モスゲ」と浮かび上がっていました。古代米は、お赤飯にして美味しくいただきました！

○さつまいも販売

茂菅農場で穫れたさつまいもを、焼き芋にしてまほろば祭で売りました。得た収益で、子どもたちへのプレゼントを買い、最後の活動で渡しました。「自分たちで作ったものが、回り回ってこんなものになるんだ！」という、ちょっとした経済活動の一端を体験出来たらいいなと思い、企画しました。値引きをしてみたり、屋台から離れて売り歩きをしてみたり、看板を工夫してみたりというセールス活動の結果、計約 300 個を売り上げました！写真は、全て売りきった時に最後のお客さんと一緒に撮ったものです。

正副農場長から一言!!

自然の中で元気いっぱい、目を輝かせて活動する子どもたち。そんな茂菅の風景に、惚れ込みました。茂菅の魅力を沢山の学生に伝えたい。そう思い、農場長を志願しました。辛い事は沢山ありましたが、多くの人の助けを借りつつ、ここまで来れました。心から、自分は幸せ者だと思います。　永原正裕

茂菅に始まり、茂菅に終わる。そんな１年になりました。昨年４月に、副農場長の役についてから私の大学生活はいつも茂菅と共に在ったといっても過言ではありません。JA ながのの小池さん、りんご農家の林部ご夫妻、土井先生やたくさんの仲間に支えられ、子どもたちと自然と思い切り触れ合うことができ、私は幸せ者です。　飯島香純

茂菅農場は、自然と共生することの厳しさを私に教えてくれました。日々変化する環境に順応し、野生生物と知恵比べをし、立派な作物を育て上げる。そのために大切なことは、何事も謙虚に受け入れること。これは、教育にも繋がることだと思います。本当に貴重な１年を過ごさせていただきました。お世話になった多くの方に感謝の気持ちでいっぱいです。　那須絢太郎

赤裸々Talk～今だから言える裏話～

古代米で「モスゲ」の文字描いたよね！
あれ、準備大変だったよな～・・。

どれが古代米の苗かわからなくなりそうだったよねー！

そうだった。ただでさえ餅米とうるち米で見分けがつきにくいのにね。

思ってたより古代米の稲が紫にならなくて、ちょっと焦った・・。
「モスゲ」の文字もあんまり見えなかったしね・・・。

私が実習中に見に行った時は。きれいに見えたんだよ！
その感動をみんなで味わいたかったなー。

でも、香純から送られた写真を見て、実習の疲れが吹き飛んだわ（笑）

確かに！写真に「モスゲ」の文字がはっきり見えて、すごく感動した！
それが台風のせいで稲が倒れて、文字が見えなくなっちゃったんだよな～・・・。

みんなで坂を登って上から文字を見た時も、子どもたちは微妙な反応だったよね（笑）。自然を相手にすると人間って無力だね（ちょっとかっこいい）。

植える時は、文字の大きさの計算とかどこまでを子どもに任せるかとか、どのくらいの量の古代米が必要かとか、考えるのが大変だった・・。

そこは、数学専攻の僕が活躍するべきだったけど、まぁ無力だったね！
代わりに、数学が得意な僕の友だちが大活躍してくれた。

まぁいろいろあったけど、意外と古代米美味しかったし良かったじゃん♪

うん、食べちゃえばみんな同じ！

コメントコーナー

田植え前の田んぼを使って
障害物リレーをしました！

急げ～！
ボールが落ちそう・・

くわ重いけど、
いっぱい耕すぞぉ！

自然のものを使って、
こんなワイルドな仮装
ができたよ！

すごーい!!

大きいさつまいも、
穫ったどー！

ドキドキ！

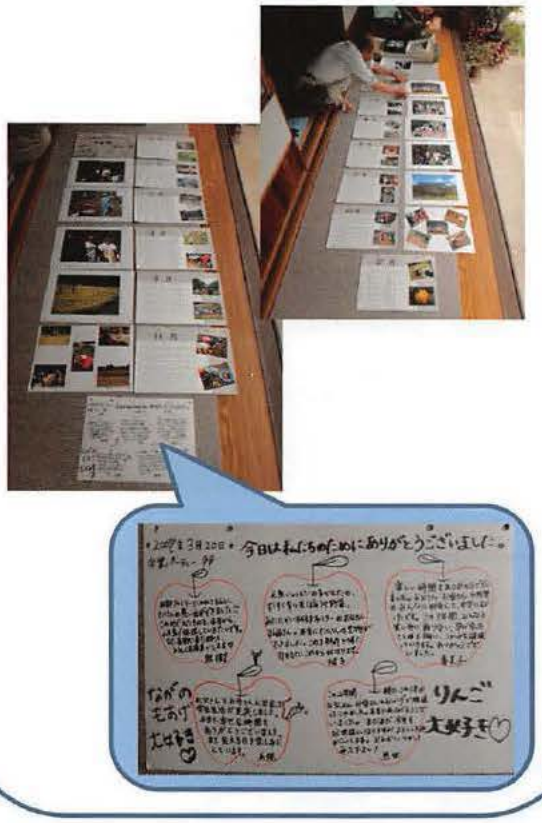
まほろば祭で、焼き芋いっ
ぱい売りました！

林部ご夫妻への贈り物

☆学生から感謝の気持ちを込めて、林部ご夫妻に贈られたプレゼント☆
♪どれも手作りで、今でも林部ご夫妻の宝物です♪

クッション

カレンダー



掛け軸

感謝状

メッセージカード

のれん

林部お母さんの料理集

茂菅学生スタッフの樹

「信大茂菅ふるさと農場」の活動は、正副農場長以外にも、多くの学生スタッフ（1～4年生、他学部生、他大学生、大学院生、留学生）によって支えられてきました。農場で子どもたちと過ごした体験や思い出は、卒業後も様々なかたちで生かされています。

名前
富山　裕子

当時のあだ名
ゆうこ

卒業年
平成15年

もすげの思い出
農場に足繁く通う私たちに、「作物は足音を聞いて育つ」と言ってくれた林部さんの言葉が忘れられません。「愛情深く育てれば、立派に育つ」農業も教育も通じるところがあるんだと気づかされました。たくさんの学生と子どもたちを育ててくれた農場、林部夫妻、土井先生に感謝！

名前
町田　竜太

当時のあだ名
りゅうた

卒業年
平成15年

もすげの思い出
茂菅農場での思い出　BEST3
第1位　ヒルに吸い付かれ足が血だらけ
第2位　早朝（朝5時から）に土井先生と草刈り
第3位　林部さんの家で食べたおにぎり
自分が経験したことしか子どもたちに伝えられないので、本当に貴重な時間でした。

名前
岡部　桂子

当時のあだ名
くろすけ

卒業年
平成15年

もすげの思い出
都会育ちの私の、初めての農作業体験でした。田植えのぬるぬるした泥の感触、自分の分担の畑でとれたホウレンソウの甘さ、林部さんのお宅での楽しいひと時、貴重な経験がいっぱいです。小学校で、子どもたちとさつまいもやトマトを育てる時も、経験がとても役に立ちました。土井先生、林部さん、JAの皆様、本当にありがとうございました。

名前
小黒　あかり

もすげネーム
ピッピ

卒業年
平成16年

もすげの思い出
ジャージを着て、みんなで自転車をこいだ畑までの道。夜中までみんなでたまった梅・竹の部屋。いえいえ、遊んでいただけじゃありません！子どもたちの顔を思い浮かべてあーでもない、こーでもない…とても大切な時間デシタ☆

名前
西川　澄

当時のあだ名
すみちゃん

卒業年
平成16年

もすげの思い出
もすげの農場・・・というよりは、学生時代に林部さんに大変お世話になりました。子どもたちと一緒にリンゴの作業を教えていただいたこと、林部さんを通じてたくさんの人に出会えたことは一生の宝となっています。

名前
比嘉　頼子

当時のあだ名

卒業年
平成17年

もすげの思い出
比較的都会（？）育ちの私にとって、茂菅の一番の思い出は、子どもたちとの触れ合いよりも、単純に大自然に囲まれて泥まみれになる楽しさや解放感です。卒業してもう十年近く経ち今は故郷に帰っていますが、あの絶景は今でも鮮明に脳裏に焼き付いて離れません（笑）

名前
藤田　優子

当時のあだ名
ゆうこ

卒業年
平成17年

もすげの思い出
茂菅に来る親子は農場での活動をとても楽しみにしているように見えました。親子で共感しあえる活動だと思いました。そして、りんごの花には感動！！ひとつひとつ心を込めて育てられたりんごだからおいしのだと感じました。

名前
原　絵里

当時のあだ名
ハラエリ

卒業年
平成18年

もすげの思い出
茂菅の活動で子どもたちが自然と関わる楽しさ、作物を管理する大変さ、地域の方と関わる素晴らしさを体験することができ、小学校での生活科や総合的な学習の時間で子どもたちと学ぶべきヒントをたくさん得ることができました。

名前
渡辺　彩

当時のあだ名
あやちん

卒業年
平成18年

もすげの思い出
田植えの際のぬめっとした土の感覚、稲刈りの際のザクっという感触、そしてカエルを追いかける子どもたちの笑い声、今でも昨日のことのように思い出されます。あの時の経験一つひとつこそが教員としての私を形づくり、資質を高めてくれたのだと確信しています。

名前
松澤　栄美

もすげネーム
えみんこ

卒業年
平成18年

もすげの思い出
私の一番の思い出は、収穫祭の劇でもちつきの『もち』の役をやったことです。はじめは「恥ずかしいな…」と思っていたけれど、白いシーツをかぶって練習するうちにどんどん楽しくなってきたのを覚えています。本番では、見ていた子どもたちが「わあ、もちが出てきた！」「もちがのびたー」と笑ってくれて本当に嬉しかったです。

名前
岸上隆文

当時のあだ名
がみ

卒業年
平成19年

もすげの思い出
モスゲでの子どもたちとの触れ合い、一緒に食べたおにぎりの味は忘れられません(笑)
子どもたちと一緒に何かを成し遂げる貴重な機会、素敵な経験でした。

名前
川端智子

もすげネーム
ともぴー

卒業年
平成19年

もすげの思い出
モスゲの活動に初めて参加した時の第一印象は‥とにかく温かくて楽しい♪自然の中に子どもと学生が共に集って畑をするだけで、こんなに温かい雰囲気で楽しいなんて素敵だなぁって。教員になってからも、畑でサツマイモやスイカ、ブロッコリーなどを子どもたちと育てました。「何でも挑戦して育ててみよう」と思えたのは、モスゲの経験が糧になっているからだと思います！

名前
赤羽　雄仁

当時のあだ名
ゆーじ

卒業年
平成21年

もすげの思い出
正直、もすげには数える程しか参加していません。しかし、その数回の活動がきっかけで、林部さんをモデルケースにした卒論も書くことができ、かけがえのない友人もできました。もすげ出身というには恐れ多いことですが、関われたことにとても感謝しています。

名前
阿部　由季

当時のあだ名
ぺぺちゃん

卒業年
平成23年

もすげの思い出
子どもたち、保護者の方々、学生スタッフと様々な世代の人とコミュニケーションをとれる場所が茂菅農場でした。いつも楽しく、あたたかい場所でした。農場に来ていた人たちの笑顔は今でも心に残っています。

名前
島崎　涼子

当時のあだ名
しま

卒業年
平成23年

もすげの思い出
もすげでの子どもたちとの活動は、とても楽しかったです。田植えや稲刈りを協力して、どろんこになりながらやったこと、子どもたちのやり遂げたっていう満足げな顔、今でも覚えています。もすげでの活動が、人との強い絆や、温かさを感じさせてくれました。

名前
布山　朋和

当時のあだ名
ふっくん

卒業年
平成23年

もすげの思い出
ゆった～りとした空気
林部さんとのお話＆おいしい手料理
林部さんちに田んぼの網張りにも行ったなぁ
かかしづくり・すいか割り
汗だくの子ども、キュウリにむさぼりつく子ども
農場長・副農場長の、もすげLOVE♡
大人・子ども関係なくキラキラしてました

名前
高見澤　誠

当時のあだ名
たかみー

卒業年
平成24年

もすげの思い出
餅つきや植え付けの活動に出ましたが、裏方作業の手伝いが多く、子どもと写っている写真が年間通して1，2枚しかなかったなー。しかし、茂菅でついたお餅がめちゃめちゃおいしかった。あの味は未だに忘れません。

名前
大井　このみ

当時のあだ名
このみん

卒業年
平成24年

もすげの思い出
青く晴れた空の下、たくさんのかわいい子どもたちの笑顔が思い出されます。子どもたちと触れ合えたこと、仲間の学生の頑張りを近くで見て刺激をもらえたこと、地域の方と関わりを持てたこと、そして自然を感じられたこと。貴重な経験をさせていただき感謝しています！

名前
田澤　岳哉

当時のあだ名
石の人　byお父さん

卒業年
平成24年

もすげの思い出
私の必殺技・・・「餅つきの最初のしごき」「しめ縄」「赤鬼役」「虫取りに付き合う」「林部家の庭を眺める」「うねづくり」「橋の下駐車場の誘導」「石の判別」
すべての技を使っても、もすげの子どもたちは倒せませんでした(笑)
もすげの自然と、仲間に感謝。

名前
服部　直幸

当時のあだ名
なお

卒業年
平成24年

もすげの思い出
年齢の低い子どもたちもいる茂菅は、私自身も昔に戻って思い切り遊ばせてもらっていました。「土づくりは人づくり」。農具を使って土を耕す父親の姿を、子どもがじっと見つめている場面で、心が温かくなったことを今でも覚えています。

名前
高坂泉

当時のあだ名
いづみ

卒業年
平成25年

もすげの思い出
茂菅に行くと、かわいい子どもたちはもちろん、とてもあたたかく見守ってくださる保護者さんたちにも会える。学生同士の準備や交流、小池さんや林部さんの協力ご指導のもと行う活動。いつもあたたかい雰囲気。そんな場所が大好きでした。作って食べる活動では子どもに負けないくらいの元気さだったと思います！

名前
北沢　瑞樹

もすげネーム
みずき

卒業年
平成25年

もすげの思い出
茂菅での活動で印象に残っているのは、子どもと関われたことだけでなく、保護者の方とどんなふうに関わっていけばよいか少しでも分かったことです。最初は何を話せばいいかわかりませんでしたが、子どもの育ちを一緒に話させてもらいながら親の気持ちを考えることができました。いつでも温かく迎えてくれる茂菅で、農業体験をしながら子どもたちと保護者の方々と触れ合えたことが何よりも今の自分の糧になっていると感じます。大変だと思いますが、がんばってください。

名前
加々美　理沙

もすげネーム
さりー

卒業年
平成26年

もすげの思い出
もすげの子どもたちの笑顔と成長は私にとって宝物でした。種まきや田植えの時の期待に満ちた子どもの表情、収穫や稲刈りの時の喜びに満ちた表情はずっと忘れません。収穫したものを使って作ったカレー、おはぎ、ケーキなどは本当においしく、自分たちで汗を流して作った達成感や喜び、感謝の気持ちなどをみんなで分かち合うことができました。お世話になった地域の方、保護者の方には本当に感謝しています。

名前
榊原　典子

もすげネーム
のりぴー

卒業年
平成26年

もすげの思い出
もすげに3年間参加させていただきました。どの活動も子どもと思いっきり走って、笑っていたことばかりだったなあ、と振り返ってみて思います。私は大学生になるまで、あまり自然と関わることの楽しさが分からなかったのですが、もすげに参加するようになって、多くの自然とふれあうことの楽しさを初めて体験したような気がしました。子どもとの関わりだけでなく、保護者の方や地域の方とも関われるのも、もすげの一つの魅力だと思います。

名前
小松　一成

もすげネーム
かず

卒業年
平成26年

もすげの思い出
茂菅ふるさと農場は、いつ活動に行ってもとても楽しく、安心して活動ができる場所だと思います。沢山の自然に囲まれて思いっ切り走り回り、ただその場所にいるだけで楽しめるプラザは他には無いと思います。子どもたちの「遊び」の原点が茂菅にはあり、そんな活動に参加することができてとても嬉しい気持ちでいっぱいです。この活動で学んだことを、これからの生活の中で生かしていきたいです。

名前
田口　詩織

もすげネーム
しおり

卒業年
平成26年

もすげの思い出
ある活動で、自分の焼き芋を半分にして私にくれた子どもの姿を見た時、自分の幸せを相手に分け与えることのよさ、嬉しさを改めて感じました。そして、3年間活動に参加して、茂菅の子どもたちからたくさんのものをもらいました。子どもたちみんなの楽しんでいる姿、笑っている顔、声などすべてが温かい気持ちにさせてくれました。茂菅はかけがえのないものとして、私のこれからを支えてくれると思います。

名前
山本　健登

もすげネーム
けんと

卒業年
平成26年

もすげの思い出
この活動では、サツマイモ堀りが一番印象深いです。初めはシブっていた子どもたちも、活動が始まるとイモ堀りの楽しさに夢中になっているのを見て、体験活動の良さを実感しました。
あと、普段関わることのない人たちと交流ができるのも楽しいです。

名前
横田　克己

もすげネーム
かつみ

卒業年
平成27年

もすげの思い出
茂菅の活動に参加したときに、後悔しました。子どもたちの笑顔に溢れるこの活動に、もっと早く参加したかったと思ったからです。雄大な自然に囲まれ、ゆったりした雰囲気の流れる茂菅で、作物を作ったり、かけっこをしたりしました。茂菅での思い出は数えきれませんが、特に印象に残っているのは、子どもたちの稲刈りをするときの真剣できらきらした眼差しです。この素晴らしい活動の裏には歴代の先輩方と現正副ヴィレッジ長の努力があると思います。楽しい活動をありがとうございました。

名前
黒岩　裕未

もすげネーム
ゆみ

卒業年
平成27年

もすげの思い出
1つ目の思い出は、さつまいも掘りと脱穀です。大きなさつまいもが掘れたことと、脱穀したお米をむいてみると、白いお米と透明なお米があったことを子どもと発見して驚きました。
2つ目の思い出は、ハロウィンパーティです。全員のランタンを並べて部屋を消した時は子どもたちと一緒になって感動しました！自然の物を使った仮装もいろんな発想に出会えてとっても楽しかったです。

名前
松川　泰央

もすげネーム
まっちゃん

卒業年
平成27年

もすげの思い出
ハロウィンパーティーが印象に残っています。室内での活動でしたが、自分たちが育てたカボチャをくりぬいたり、彫刻刀を使って掘っていたりしてランタンを作っていました。その後は、葉っぱや木の枝で服を作っていました。室内の活動という制限された中で、試行錯誤を重ね、できるだけ沢山自然とふれあえるような内容になっていました。子どもたちも満面の笑みを浮かべており、最高の活動だと思いました。

名前
太田 咲

もすげネーム
さき

卒業年
平成27年

もすげの思い出
茂菅はYOU遊の中で私が初めて来たプラザでした。子どもたちとふれあう時間は普通あまりとれないので、私の中でとても楽しかった思い出であり、また自分自身が関わることができたことだと考えます。茂菅との出会いから、子どもとの関わり方を学び、考え、視野を広げることもできました。子どもたちと充実した時を送ることができた茂菅は、最高の思い出です！！

名前
池田 隼人

もすげネーム
はやと

卒業年
平成27年

もすげの思い出
もすげ農場での活動で一番印象に残っていることは、炎天下で子どもと遊んだことです。汗だくになって農場を走り回ったり、火をおこしたり、川で遊んだり、時にはテントでぐったりしながら話をしたり、とにかくたくさん遊び、笑い合いました。今思い返すと、よく熱中症などにならずにすんだなと思っています（笑）

名前
木田 達也

もすげネーム
たつや

卒業年
平成27年

もすげの思い出
大自然と出会い成長する子どもたちの姿がもう見られなくなると思うとさびしいですね。どこにでもあるような土や植物は、茂菅の子どもたちにとっては大切な遊び友だちだったように思います。僕自身も茂菅の子どもたちに連れまわされながら、自然を身近に感じる茂菅の活動の中で多くのことを経験し、学ばせていただきました。これからも茂菅で育った子どもたちが自然と友達であり続けるとうれしいですね。ありがとう茂菅！

名前
土屋 孝将

もすげネーム
つっちー

卒業年
平成27年

もすげの思い出
もすげで運動会をしたことが思い出です。私自身あまり自然の中で走り回ったりしたことがなかったので、自分の中でも貴重な経験になりました。また、子どもが伸び伸びとして活発に動いている姿があったり、協力し合う姿があったりと、「子ども」を学ぶことができる場面が多くありました。子どもがやりたいようにやるという茂菅の方針はとても好きでした。

名前
北村 隼一

もすげネーム
しゅんち

卒業年
平成27年

もすげの思い出
茂菅農場の活動に参加して3年、豊かな自然の中でたくさんの思い出をつくることができました。中でも毎年参加したじゃがいもの収穫は強く心に残っています。子どもたちが大きなじゃがいもを掘り出した時のうれしそうな笑顔はすごく輝いてました。
僕のYOU遊の出発点も、元気な子どもたちと成長していくことができたのもこの茂菅農場。茂菅の最高の環境に感謝しています。ありがとう(^_^)

名前
堀本 泰寛

もすげネーム
ホーリー

卒業年
平成27年

もすげの思い出
私自身にとって初めてYOU遊に参加したのがこの茂菅です。数々の活動の中でも、私はいも掘りが一番印象的でした。子どもたち一人一人が、まるで宝物を探すかのようにさつまいもを掘っていました。服や靴を泥で汚しながらも精一杯探す様子は、農業に携わるからこそできることなのかと感じています。そのような姿が沢山みられる茂菅で活動できてとても楽しかったです。茂菅農場、ありがとう！

名前
中村 速斗

もすげネーム
はやはや

卒業年
平成27年

もすげの思い出
工学部ながら11月で6回目の活動参加になりました。普段、子どもたちと一緒に活動することはないので、毎回毎回がとても新鮮でした。みんなで楽しく遊びながら野菜の種を植え、そして収穫し、食のありがたみと喜びを感じることができる素晴らしい活動だと思います。

名前
宇治 貢

もすげネーム
みっつ

卒業年
平成27年

もすげの思い出
もすげはとても自由な活動だなあと思いました。子どもたちがやりたいことを行うということで、最初はとまどう部分がありましたが、慣れてくると、活動の良さを味わえるようになりました。田植え、さつまいも掘り、大豆などたくさんの作物にふれられる活動に4回しか自分は行けなかったのでとても残念でした。農場での活動は、自分にとって忘れられないYOU遊の活動になりました。ありがとうございました。

名前
上野 暁

もすげネーム
あかつき

卒業年
平成28年

もすげの思い出
最初の頃は右も左も分からず、子どもに対して何をすれば良いのか分からず、あたふたしていたのですが、先輩方がサポートしてくれて、だんだんと茂菅の活動が楽しくなりました。自分が教員になろうと思えたのが茂菅で見てきた子どもたちの笑顔でした。この素晴らしい活動ができたのも、土井先生をはじめ、林部さんや茂菅の活動を支えてきた多くの方々のおかげです。ありがとうございました。

名前
太田 宏平

もすげネーム
おおたけ

卒業年
平成28年

もすげの思い出
YOU遊のもすげの活動は、先輩に声をかけていただいたため、一年生の時から参加していました。他のプラザと比べると、小さい子どもが多く、積極的に畑仕事に取り組む姿や、親子の関わりをよく見ることができるのが、茂菅のもすげの魅力なのかなと思います。僕自身畑仕事は今までにしたことがほとんどなかったので、常に新鮮味のあるとても楽しい活動でした。

名前
上原 瑛美

もすげネーム
えみ

卒業年
平成28年

もすげの思い出
茂菅の活動には三回ほど参加させてもらいました。一番印象に残っているのは、田植えをしたことです。幼い頃にやったのを思い出すこともできたし、何より、汚くて嫌だ！と言っていた子ども達が徐々に田植えを楽しんでいる姿を見ることができて、自然に触れることの大切さを実感することができました。また、初めて参加したYou遊の活動が茂菅の活動なので、すごく印象的です！ありがとうございました。

名前
関口 美桜

もすげネーム
みお

卒業年
平成28年

もすげの思い出
茂菅農場の活動で一番印象に残っている活動は田植えです。最初は田んぼに入るのが気持ち悪いと言っていた子どもたちも、田植えが始まると泥まみれになりながらもとても楽しそうにしていた姿が強く心に残っています。

名前
金沢 優花

もすげネーム
ゆか

卒業年
平成28年

もすげの思い出
私が初めてYOU遊の活動に参加したのが茂菅での活動でした。茂菅の農場で子どもたちとのびのびと過ごす半日が、すごく充実したもので楽しかったです。私が行った中で一番大きな行事は田植えでした。子どもたちも自分もどろどろになりながらも一生懸命やり、早く育つといいと笑顔で話す子どもたちが印象的でした。茂菅での活動は、とても有意義で、自然を通して人と触れ合うことの素晴らしさを実感することができました。

名前
塩崎 健介

もすげネーム
しおけん

卒業年
平成28年

もすげの思い出
大学に入って初めて本格的に子どもたちと関わる活動がこの茂菅農場での活動でした。子どもたちと一緒に田植えや稲刈りをするのは、とても新鮮なことでしたし、とてもすばらしい体験ができました。一番の思い出は、田植えのときに子どもたちと田んぼに入って、泥まみれになったことです。

名前
鷲澤 栞里

もすげネーム
しおり

卒業年
平成29年

もすげの思い出
子どもたちはいつでもすごく元気で明るくて、自分に元気をくれて活動のあとは、子どもたちが恋しくなりました。多くは参加できませんでしたが、子どもとたくさんふれあいながら多くの体験ができて、自分にとってすごく大切な経験になりました。

名前
松元 可南子

もすげネーム
かなこ

卒業年
平成29年

もすげの思い出
茂菅での活動は子どもたちとの交流を通して毎回たくさんのことを学ぶことができます。子どもたちとの農場活動や遊びの中からだけではなく、保護者や先輩方からもいろんな考えや工夫など様々なことを吸収させてもらっています。ハロウィンのカボチャのランタン作りでロウソクの火が灯った時の子どもたちの嬉しそうな顔を見て、私までとても嬉しい気持ちになりました。これからも、いろんな活動に参加していきたいです。

茂菅農場に参加された
子どもたち、保護者さん、ありがとう

大地の恵みの素晴らしさを感じて欲しいと思い、小2から小6まで参加しました。物を作ったり、作物を育てたりすることが好きになりました。自然が好きになり、野菜も大好きになりました。もちつきの時は、杵を持つ姿が様になってきて、みたらしあん作りがとても上手に出来て、びっくりしました。

自然の中で、色々な事を感じることが出来たと思います。信大のお兄さん・お姉さんにもかわいがって戴き、本当にありがとうございました。

大日方佐江子、将人

参加年度：H20～24

印象に残っている活動は、田植えです。素足で入った時の、泥の感触が気持ち良かったです。稲刈りのあと、しめ縄作りをしました。すぐにコツをつかみ、上手く出来るようになりました。「ざくっ」という切った時の感覚が気持ち良かったです。

学校の授業で鍬で土を起こす時、「鍬を使う前に水に浸けるのはどうしてか」と先生に聞かれたので、「木の部分に水を浸けると、木がふやけて外れづらくなるから。」と答えました。周りの友達が知らないことでも、茂菅でやったからこそ、答えられることが何度もありました。

普段接する機会が少ない異年齢の人たちと楽しく過ごす場は、安心で居心地が良い場になると思います。茂菅に参加して 4 年目になりますが、初めは田んぼに入ろうとしなかった長男が「オレ絶対に田植えやりたい！」「稲刈りも行く！」と言うようになりました。

また、大きくなってきた子どもたちには、月一回の活動を陰で支えてくれている人の存在も、伝えていきたいと思います。

稲刈りが印象に残っています。ちょうど人が少なくて、一人でいっぱい刈りました。でも、すぐに終わらせることが出来ました。田植えも面白かったです。泥に入った時の感触が気持ち良かったです。

じゃがいも掘りも、「どのくらい沢山あるかな？」って見つけたりするのが面白かったです。昨年（H24 年度）は 17 個くらい獲れたのを今でも覚えています。

茅野理恵、

真穂（まなほ）、玄穂（はるほ）、奏穂（かなほ）

参加年度：H22～25

スイカ割りが印象に残っています。割れたスイカを子どもたちが競争のように何個もかぶりついていました。茂菅で獲れた作物を美味しそうに食べる子どもの顔を見るのは嬉しいし、自分も大勢の方と食べるのは楽しいです。

学校の先生とは違う、また授業とも違う、大人も子どもも伸び伸びと笑顔になれる“もすげながらの雰囲気”を作っていただいて、感謝しております。

安茂里の方で川遊びしたのが印象に残っています。学生と一緒に、バッタやカネチョロ、カエルなどを捕まえて遊んだのが楽しかったです。サツマイモの苗を植えて、それを収穫してやきいもをおいしく食べたり、その時に焚火で遊んだりするのも楽しかったです。

学生が用水路の水を汲んできてくれて、それで遊ぶのも楽しかったです。

牧 晴美、佐玖哉

参加年度：～H25

イモ掘りの最中に青大将が出てきたり、はぜかけをしている時に大きなカエルが出てきたり。田んぼにフナを放した時は、広いところでフナが泳いでいるのを見たのは初めてで、とても新鮮でした。

じゃがいも掘りの時は、大きなイモを掘った時に千翔に自慢できたのが嬉しかったです。学生と一緒にモグラの穴を探したり、網で捕まえたマムシを裾花川に逃がしたりもしました。

カレー、焼きいも、おでん、おもちなど、何かを料理したり、食べたりする活動が好きでした。カネチョロ（トカゲ）を獲ったり、カマキリを獲ったりしました。フナを田んぼに放した時は、途中死んじゃったのがいてかわいそうでした。あのあとどうなったのか気になります。

学生さんはみんな優しくしてくれて、一緒に用水路で水遊びをしたり、虫を捕まえたり、雪合戦したのも楽しかったです。

加藤のり子、
大貴（たいき）・千翔（かずと）・優弥（ゆみ）・丈陽（ともや）
参加年度：～H25

自然体験の中で、親の手を離れても色々な年代の人と関わって欲しいと思い、この活動に参加しました。

学生さんが、自由奔放な子どもたち相手にいつも笑顔で接し、他の場所では「ダメ」で済まされてしまう多少危ない行動も見守って下さるお陰で、子どもたちは本当に伸び伸びと活動しています。

子どもたちが今後、何かに躓いても、ふと思い出して自信を取り戻せるような、そんな“ふるさと”として、茂菅をいつまでも心の中にとどめておけたらと思います。

坂田裕美子、心
参加年度：～H25

田植えが印象に残っています。保育園でもバケツに植えて育てることはしましたが、素足になり田んぼに入ることができた体験は、彼女にとってもとても大きかったと思います。

始めのうちは大人に対して人見知りがあり、学生のそばにも寄って行きませんでした。しかし、沢山の学生さんと接する中で、本人の方から学生の方に行くようになり、大人への人見知りは無くなったように思います。

私自身が都会育ちなので、子どもたちには、長野にいるからこそできる自然体験をしながら育って欲しいと思い、参加しました。自然の美味しい空気を吸って、土をいじり、ものを作る、最高の活動だと思います。

最初はカエルを触ることさえ出来なかった子どもたちでしたが、自然が大好きになって、積極的に触るようになってきました。また、さすが教育学部の学生さん、子どもたちとの接し方が上手で、子どもたちも安心して楽しく活動できていると思います。普段接する機会が無い大学生のお兄さん・お姉さんが、大好きになりました。

田中　勇任・翔大
参加年度：～H25

学生をはじめとした異年齢との触れ合いや、四季を感じた農業体験が出来ることを期待し、活動に参加してきました。

活動の中で、自然にもとても興味を持つようになりましたし、昨年度から始まった外国語活動によって、英語や外国の方に興味を持つことが出来ました。

山浦　智秀・一智

参加年度：～H25

農場からの帰り道にヨモギをつんでお団子にして食べました。初めての体験でしたし、とても楽しかったです。私の手の甲に、私と学生さんの似顔絵を描いてもらったことがありました。それが、本当にうれしくて、その日は手を洗えなかったことを覚えています。

今、私は信州大学教育学部に入学して茂菅の活動に参加しています。小さい頃に学生の皆さんに楽しませてもらった茂菅の活動を、今度は自分がスタッフとして活動させてもらうことになって、とてもうれしいです。子どもたちとの触れ合い方など、当時の経験がとても役に立っています。

鷲澤栞里

参加年度：H13

米作りがとても印象に残っています。田植えでは、泥の中に素足で入るという普段なかなかしないことをやらせてもらったのが、何だかいたずらをしているような気分で、楽しかったのを覚えています。昔ながらの脱穀機を使った脱穀も初めての経験でしたが、学生から色んな注意を受け、安全にやることができました。もちつきをしたあとに丸めて食べました。とっても美味しかったです。

信州大学教育学部３年　鈴木愛里

【収穫したじゃがいもを、子どもと一緒に食べている保護者の皆さん】

「信大 YOU 遊興譲館」
農場の活動に参加した中学生の声

1．興譲館とは？

「興譲」とは、「奪うに益なく譲るに益あり、譲る心こそ一国をも興隆させゆく根本精神である」という意味である。中国の古典『大学』にある「一家仁なれば、一国仁に興る。一家譲なれば一国譲に興る」に由来する。江戸時代、上杉鷹山の米沢藩藩校「興譲館」が最も知られているが、この他に全国に５つの「興譲館」があった。「信大 YOU 遊興譲館」（以下「興譲館」と略す）は史上７番目の「興譲館」となる。

今日教育現場では、「不登校」問題の解決が大きな課題となっている。「興譲館」精神に立脚して何とかこの問題に立ち向かいたいという学生が集まり、「不登校」の子どもの居場所を大学キャンパス内の北西校舎（旧附属長野小学校）の「松」の部屋に開設した。「興譲館」の活動は、平成 14 年～15 年の２年間実践され、約 20 人の中学生が参加し、学生と様々な活動を行った。その活動の中で中学生は人への思いやりの心や譲る心など、今日の社会に必要な精神性を育んでいった。

2．主な活動内容

＜「興譲館」の位置づけ・テーマ＞

序盤：子どもの心を癒すエネルギー充電期間

中盤～：上記テーマ＋α（社会に出たときに必要な学びを与える場所）

【4 月～9 月】

中学生の様子を理解しようとする、“子ども理解の時期”だった。また、学生と中学生の接し方、対応の仕方について迷い、シェアした時期でもあった。

【10 月～1 月】

中学生と学生は随分と打ち解け合い、ただ集まって遊ぶだけでなく、学習活動についての意識が高まってきた時期だった。個々の中学生に必要な教材について議論を重ね、“教材についての考察の時期”だったといえる。また、12 月になると、その場限りの学習ではなく、学習の継続性について考えるようになった。

＜「興譲館」の運営体制＞

開設時間：水木金　9:00－19:00

開設場所：北西校舎（旧附属小学校）「松」の部屋　　昼食：お弁当か生協食堂

＜活動内容＞

【教科の学習の一部】

→『論語』の音読、漢字練習、書き取り、読書、百マス計算、英語、数学、地理、図工、美術、体育、理科、その他受験勉強など

【体験活動】

→調理実習、畑作業、竹細工、写生、裁縫、塩の結晶、アクセサリーの製作、ランランの製作、歌の練習、ベルを使っての合奏、書初め、農家の林部さん宅でのりんごの葉摘みとりんご狩り

【スポーツ、遊び】

→サッカー、百人一首、ジャック・オー、卓球、バスケットボール、ドッチボール、コマ遊び、折り紙、縄跳び

【その他】

→ポットラックパーティーへの参加、雑談

4 月当初、中学生の 1 日の活動は、中学生自身が自分なりのスケジュールを立て、それを実行した。異なる子どものスケジュールに対しては、学生スタッフが臨機応変に対応するシステムとした。

以上の活動に加え、10 月からは 1 時間を 40 分に区切り、6 時間分の学習カリキュラムを実行させた。そのうち、昼休みの一部を掃除、水木の 2 時間目を漢字練習、金の 2 時間目を体育、お昼～4 時間目を調理実習とした。

＜卒業式＞

2002年12月20日、クリスマスパーティーが開かれた後、卒業式が行われた。「興譲館」を卒業し、それぞれの道へ頑張る決心をした中学生に対し、学生スタッフ、「興譲館」に残る中学生から一言ずつ贈る言葉を言い、卒業生からも皆にメッセージが伝えられ、涙、涙の卒業式となった。

3．活動時から10年が経った今だから言える赤裸々トーク

「興譲館」に参加した当時の大学生や中学生は、「興譲館」が閉館した後も交流を続けている。その一つが、毎年林部さんのお宅で行われている新年会である。

平成25年1月5日（土）に、例年通り「興譲館」のメンバーが林部宅に集結した。そこで、当時の活動を振り返り、あれから10年経った今だから言えるエピソードを、赤裸々に語り合った。

【当時の中学生】　　【当時の大学生】

当時の学生で印象に残っていることはある？

僕はずっと竹とんぼを作っていたな。自分用のきりとか金槌とかを持ってきていたのを覚えている。一緒に活動に参加していた小さい子たちに折り紙とかを教えて遊んだりもした。

林部さんの農作業のお手伝いをしたこともあったけど、途中からは昆虫と遊ぶのに夢中になって、あまり戦力になってなかったな～（笑）。

あの活動は、私が林部さんとりんごの作業をしていた時に、顔面虫にさされて、その時にりんごを育てるのって、こんなに大変なんだと感じたんだよね。それで、ぜひ「興譲館」の子どもたちにも体験してほしいと・・。

それって何か違う意図を感じるな～！！僕たちをしどろもどろにさせようという意図を感じる（笑）。

いや～、その当時の活動のねらいとしては、一つのりんごを育てるにも、こんなに苦労があるんだということを知ってほしかったんだよ。その辺りは皆さんどうだった？

間違いなくいい経験になったね。りんごの手伝いをした経験は、僕たちのいい思い出になっている。経験を共有しているのは大きいな。その時は、基本的に一人でいて閉塞してるような感じだったから、「興譲館」のような場で同じ会話をみんなとできるようになったのはいいなと思う。

僕たちのような、一人でいる時間が大幅に長い連中が、同じ思い出をもっていることは中々ないからね。

色んな年齢の人と交流がもてたのも良かったよね。普通に学校に行ってるだけでは、同じ学年と教師にしか出会わないし。それに、生徒と教師の差は大きいけど、「興譲館」には大人との差はなかった。色んな年代の人と関わり合えて、協調性が育まれたよね。学校よりも濃密な集団生活を送る中で、すごく成長できたし、高校を卒業した後も、普通に人と接することができたし、そういう心を育むことができた。

確かに、濃密な時間を過ごせたよね。

高校に行った時に、心にすごく余裕ができた。それは、「興譲館」で授業以外の色んなことをさせてもらって、それが経験値になっているから、高校でみんなが知らないのに、僕は既に知っていることがよくあった。

僕は、教育現場に入って約10年が経つんだけど、ふと「興譲館」のことを思い出すと、当時の活動は意味があったのかと疑問に思うことがある。正直、当時の活動は、子ども達がいる所に行って、遊んで、帰るといった内容で、決して高尚なことはしてなかった。中学生がどういう経緯で「興譲館」に来たのかも知らなかったし。

僕たちは、その方が楽だった。先入観があるのも嫌だったし。他の人達とフラットな関係で過ごせたのが、「興譲館」の魅力だったな。

僕は今教師をしていて、不登校の生徒がいる。当時と違って、今は教師という立場だから、学生の時と比べて生徒との距離を感じるけど、「興譲館」で活動していた時のようにお兄さんとして生徒と接することはできない。だから、「興譲館」の経験が今の自分に生かされているのか疑問に感じていた。でも、みんなの話を聞くと、フラットな関係で過ごせる環境があることが、不登校の子にとってすごく大切なことが分かったから、「興譲館の活動は意味があったんだと思う。

10年経った今だからこそ言える話といえば、当時は教科学習を活動に取り入れるかどうかで、随分ともめたよね。当時の僕は、子ども達といて楽しい世界を作ればいいと思っていた。だから、学習を活動に取り入れる意味が正直理解できなかったな。学習活動の導入に対して賛成派と反対派で一時期は派閥ができていたよね。

やっぱりそうだったんだ！その空気は、僕たちも気づいていたよ。大丈夫かなって思ってた（笑）。

本当に今だから話せる話だよね（笑）。

でも、10年経った今なら、対立していた側の気持ちも理解できたりする。ただ楽しいだけじゃダメだったんだっていう意見も、今なら受け入れることができるよ。将来を見据えて活動をすることも、とても大切なんだよね。そのことに気付くのに、卒業してから6年ぐらいかかったかな。

今だから言えるけど、僕は学習障害もあったから、その時に勉強をさせられるのは、すごく嫌だった。

確かに、１日の学習計画をたてて、なるべく学校に近づけるような形で学生が仕向けようとした時に、すごく反抗する子もいたよね。『いやだ～』って言って。でも、なぜか金曜の調理実習だけは受け入れられた（笑）。

当時、学校に行けなかった自分としては、勉強に拒否反応があったんだと思う。

でも、受験勉強は楽だったな。大学生がよく教えてくれたし。やろうと思ったら、すぐに教えてくれる環境は、すごくありがたかったね。

僕は、勉強をする時間と、息抜きの時間をしっかり分けることを教わった。そのおかげで、息抜きと勉強のオンとオフを切り替えることができるようになった。それは、専門学校や資格の勉強をする時にも役立ったな。

生活のやり方というか、リズムとかを学ぶ場所だったよね。

僕は、大学に入った時に「興譲館」のようなものがあればいいのになあっていう考えが脳裏にあって、だったら発足しょうと思って教授に相談しました。それは結局却下されちゃったけど、地域交流サークルみたいなのを作って、お年寄りと料理教室をするような活動をしました。

それはすごいね！その活動のメンバーは、自分で集めたの？

はい。チラシを配って声をかけました。

よく頑張ったな～。興譲館パワーを発揮したわけだ！

僕も人と話すのを好きになった。小学校の時、先生恐怖症になって先生から逃げて隠れていたけど、「興譲館」に来て、精神的に成長したと思う。大人の人と接したり、横や縦の繋がりだとか、自分を客観的に見ることは、間違いなく「興譲館」で学んだことだし、それは為になったと僕は思う。

私は、子どもを型にはめようとする先生の存在がとても嫌だったんだけど、興譲館に来て、先生の卵の人たちと接する中で、こういう考えをもって自分に接してくれるんだと分かった。そして、これだけ打ち解けられるんだということが分かって、それがすごく大きかったです。それで、専門学校を無事に卒業して、今は社会人になりました。

すばらしい！！

なんか、土井先生に似てきたよね（笑）。

4.「興譲館」の活動を振り返った感想

～当時の中学生たち～

＜「興譲館」に行く前と後で変わったこと＞

私は行く前はとても人が怖かったです。なぜかというと、中学時代から激しいいじめにあい人間不信に陥っていました。その中で同じ境遇の人とは接することができ、そういう私たちと接してきた経験がある先生のおかげで少しずつ治ってきました。当時の先生に興譲館のことを聞き、当時最初に行くときは緊張し、怖かった経験があります。しかし、行ってみると土井先生や大学生の方が明るく出迎えてくれてよかったと思っていました。

その後、私は中学３年生だったので、１年弱しか行っていませんが最初の頃はどうしても心を閉ざし気味ですが、同じ境遇や大学生と仲良くしていくうちに少しずつ、少しずつ人間不信も治り、気持ち的に元気になりました。沢山の方と接することにより、仲間ができ居場所ができました。これの経験により現在は高校→専門→就職と出来ました。

＜林部さん家を振り返って＞

10 年以上前に行った私たちを覚えていてもらい本当にうれしかったです。元大学生の話を聞いて、当時の私たちの事を考えてくれていたんだなと感じました。こうして話してみるとお互い深いことを考えていると思います。ただ、こうした話もいい思い出となっているんだと実感しました。

土井先生が「興譲館」を再興したいと言われた話ですが、夢として魅力はとてもあります、実際に私自身がそうでしたから。ただ現実問題としてはとても難しいと思います。必要なものではあると感じました。

W. H

＜「興譲館」へ来て変わった事＞

「興譲館」で様々な年齢や考え方を持つ人たちと触れ合う事で通常の学生生活では出来ない貴重な経験ができたと思います。イジメや病気で不登校だった事は良い事だとは思いませんが、「興譲館」で様々な人たちとの活動を通じて、人を思いやる事や自分を客観的に見る等の社会性が身に付いたと感じます。そして、不登校や病気などのマイノリティを自分で受け入れられた事は、学校に拒絶された私を受け入れてくれた「興譲館」のみんなのお陰だと思います。

Y. H

＜「興譲館」に行くきっかけ＞

「興譲館」に行くきっかけは私が中学１年の時に障害があるというだけでいじめにあった事で学校に行かなくなったが、担任の先生が毎日学校に来るようにと誘いにきたのですが、その頃の私はクラス恐怖症になっていたので学校に行きませんでした。母と担任の先生が相談して「興譲館」があるという事で行くようになりました。「興譲館」では学生と仲良くなれたし、空いている体育館やグランドが使えるので、勉強に行くというよりは遊びに行っている記憶があります。

＜今でも役に立っている事＞

新しい事に挑戦する力を身につけたと思います。私が大学生になり１年から４年まで地域に関わる研究サークルを立ち上げ、大学では後輩が今でもその研究を引継いでくれています。

＜世代を越えた絆＞

「興譲館」で皆と知り合う事ができて今でも感謝しています。当時中学生だった私たちと学生が年に２回から３回会うということはまず無いと思う。

O. S

＜「興譲館」を振り返って＞

私が教室へ行かれなくなったのは友人・教師との人間関係が崩れてしまったりして上手く修復できなかった事、その一件で教師嫌いになった事が原因だった。当時は校内の別教室に通っており、その教室に通っていたＡ先輩とＢ先生に教えてもらったことがきっかけで「興譲館」を知った。不登校になってしまった原因が原因だったので人間関係を構築するのが苦手だと認識しており、どんな人がい

るのかとても心配だった事を覚えているが、すぐに打ち解ける事ができ、その心配は解消した。「興譲館」では一日中勉強をする訳ではなく、遊ぶときには遊び、勉強するときには勉強するといったスタンスだった。学校の勉強を教えてもらう事もあったが、外に出て体験をしたりする課外授業のような時間も多くあった。それが面白くもあり、時に面倒だと感じながらするときもあり…基本的には「興譲館」に勉強をしに行くというより、メンバーやスタッフに会うのが楽しみで行っていた。

10年という歳月を経た今だから言える事は、私にとって「興譲館」は自分を認めてくれる場所であり、学校では教えてくれない事を体験できた場所だった。

教師の卵として頑張っている大学生と触れ合った事で教師に対する感情が変化した事、気持ちの余裕が出来た事が私にとって“ エネルギーの充電期間”だったように思う。教師は皆上から目線で決めつけてくる人しかいないと思ってきたが、 自分自身が殻に籠ってしまった為、自分本位でしか物事を考えられなかったからそう感じていたのだ。導こうと差し伸べてくれた手を取らなかったのは自分だった…と今だから言える。

メンバー・スタッフともに10年経っても当時の思い出を共有できたし、壁を感じていてもすぐに打ち解けられた。年月を経ても打ち解けられるような関係を構築できた環境＝「興譲館」であったのは間違いない。人間関係の構築や当時と変化した考え方というのは、意識はせずとも経験として今に活かされていると思っている。

U. K

＜ 参加する前と後の心の変化＞

参加する前の感覚が思い起こせないので、後の変化の話になるが自分と似たような立場の相手がいることへの共感と、相手の気持ちを尊重するような心構えが生まれた。

＜学生との交流で感じたこと＞

当時の信大生との交流では学校の所謂「先生」と違い、こちらと同じ目線にいようとする姿勢と、踏み込まずに受け入れようとする姿勢、それに教育に対する熱意のようなものを感じた。それでいて仲が深まった時もある一定の距離感を保つようにしてくれたことで、「興譲館」という場に来る事の拒否感がなくなり、安心感が生まれました。

＜活動を終えて、今の生活に活きていること＞

中学校に行かず大学に行き、同年代と語らず上の学生や農業体験での保護者たちと話をしてきたことで、多様な価値観と物事において余裕が得られたということがある。様々な世代の事柄に対する姿勢を見たり、考え方を聞いたり話たりする中で、自分のアイデンティティの確立がなされ、自分の居場所が確かに有ったという安心感から、進学し社会に出てからも、他の人からのプレッシャーや悪意に対しても過度なストレスを受けることはなくなった。これは「興譲館」に参加したからこそ得られたものだと思う。

K. S

～当時の大学生～

西澤俊輔

「興譲館」のみんなに久しぶりに出会って真っ先に感じたことは、10年という時間の大きさ。当時、小学生や中学生だったみんなが立派に成人し、それぞれの道をしっかり歩いている姿に感動すら覚えた。みんなと活動していた大学生だった自分と同じくらいの年になり、しかもあの頃に語っていた夢を叶えた姿を見ると、少し不思議な感覚にもなるが。

参加してくれたみんなに対して、当時の自分は「学習をどうこう考えるよりも、せっかく来てくれているのだから、ここでしかできないことをやり、みんなで楽しく過ごしたらよいではないか。」という思いでいた。農作業やプレーパークでの体験を通してみんなの笑顔が見られ、それでよかったと思っていた。しかし、教師として 10 年という経験をしてみると、やはりそれだけでは不十分だということ、その先を見据えることの大切さも感じる。ただ、目標としていることは人によって様々なので、一人ひとりの現状をしっかり把握し、そのうえで個々にあった活動、手立てを考えていくことが大切だ

と思う。当たり前のことなのだが、それがとても難しい。個々に合わせすぎればバラバラでまとまりの無い活動になるし、かといってすべてが同じでは一人ひとりの成長は望めない。あの当時はそんなことすら気づかずにいた。

それでも当時の活動を振り返った参加者のみんなが、「あの活動があってよかった」と感じてくれていることがわかり、「とにかくやってよかった」そんな感想を持つことができた。あの当時から今まで、同じように集まって話をし、酒を酌み交わせるようになっているすべての仲間たちに感謝である。

原山美樹

10年ぶりに林部さんや土井先生と再会することとなった平成25年新春。彼らは10年前をどのように振り返るか楽しみであった。私が一番気になっていたのは、10年前彼らとしていた活動が、本当にあれで良かったのかということであった。そう、当時は、こんなのやりたくないと言われていたことも多くあったからだ。10年たった今、H君からは、「確かに当時は勉強が苦手であったから、最初は嫌だったけど、今になってみると、それが経験値にもなったし、良かった」。W君からは、「体験活動は、内容は何であれ、今も共通の話題で盛り上がれる友だちの存在が貴重」という言葉が聞かれた。この言葉を聞いたとき、とてもホッとした…何か10年間迷っていたことに答えが出た気がしたからだ。そして、改めて「教育は一日にして成らず」の言葉が思い浮かんだ。彼らは10年間、様々な逆風に合いながらも、自立し立派な人間になっている。この自立の始まりに「興譲館」で友だちと励んだ思い出があることを本当に嬉しく思った。

今教育に対する批判が報道されない日はない。世間の目は厳しい。もちろん体罰のように児童、生徒の心を傷つける行為は断じて許されない。しかし、それとは全く別で、信頼関係がある上での1人の人間の自立を期待しての温かいなかにも厳しい指導は、その時には分からなくても何年か後には、その子の胸に響いてくるんだということを改めて感じた。目の前のことに一喜一憂せず、長い目で見ることの大切さを忘れずにいたい。

小川敦嗣

大学3年生の時、「興譲館」の立ち上げに参加し、子どもたちと貴重な時間を過ごさせて頂きました。当時のことで忘れられないことがあります。「興譲館」の活動についての話し合いでNさんが、どんどん学習の時間を入れていくべきだという意見を出しました。ただ子どもと関わって楽しいとしか思っていなかった自分にとって、その意見は、なかなか受け入れ難いものでした。子どもたちは、気持ちが沈んでいるんだ、そんな子たちに勉強をさせるなんて酷いとすら思っていました。Nさんの意見とそれに同意できない何人かの学生とで大分白熱した話し合いが行われました。そうした中で、朝の音読や計算練習など1日のスケジュールが少しずつ決まっていきました。

2013年1月。「興譲館」の子どもたち（もう立派に成人していますが）と久しぶりに再会することができました。実は実際に会うまでは不安で仕方ありませんでした。それは、自分が当時、中学生に何もしてあげられていなかったことを、教員になって初めて実感したからです。今になって考えれば、やはり学習支援も必要だったと思います。サッカーをしてただただ楽しいだけという関わりは、向き合っている中学生の進路を真剣に考えていたとは言えないでしょう。しかし、子どもたちからは、当時関わってくれたことに対する感謝の言葉がたくさん聞かれました。「自分たちは、「興譲館」がなければ、1人だった。今、こうして同世代の仲間で集まれるのも「興譲館」での日々があってこそ」というような言葉を聞いたとき、ああ本当にあの活動をして良かったなと思いました。

「興譲館」で学んだこと、「興譲館」のみんなに教わったことは、おそらく自分が教師を続ける以上、「教師」としての核になるような体験だったのだと実感しています。この先も、様々な原因で学校に通えなくなった生徒と出会うと思いますが、一人の人として、向き合っていかれればと思っています。

「JAながの」の皆様、ありがとう

1．営農指導員の皆様、大変お世話になりました！

1代目　北村典子さん

1．茂菅の活動の思い出、印象に残っていることを聞かせて下さい。

何もかも手作りでつくりあげたことです。遊休農地を子どもたちと開墾から行い、機械じゃない原始的な方法で行いました。子どもと地域の方と先生の卵である学生と一緒に、泥だらけになりながら必死になって作業したことが印象に残っています。

また、田んぼで獲れたお米をアフリカへ贈ったこともよく覚えています。

2．茂菅での活動が参加した子どもにどう生きていくとお考えですか。

消費者の一人である子どもたちがどうやって作物ができているのかを、一年の流れを実際に体験しながら学べたことが大きいと思います。

暑さや大変さの中で、食べ物をつくる農家の苦労を知り、収穫の喜びを味わうこと。子どもの時に感じたことが、大人になってからも生かされるのだと思います。

3．茂菅での活動に関して、今だから言えることは何ですか。

お金がない中でどうやっていくのかを、当時の学生スタッフと悩みました。

例えば、畑でトイレはどうするのか。ぼっとんトイレをつくるという話まででました。

種、機械など、どうしても必要なお金はすべてボランティアというわけにはいきません。農協のバックアップや当時の関係者の方には多大なご理解と支援をしていただきました。

水利権、土地の所有の問題、近所の迷惑の問題など多くの課題がありましたが、林部さんをはじめとする地域の方々のご協力があってこそ、このような地域に根ざした活動が成り立ったのだと思います。

最初は作物のつくり方も分からず、松本まで説明を聞きに行ったり、林部さんに教えていただいたりしながら、試行錯誤の中で進めていきました。

また、子どもとの交流の中で、先生でも親でもないお兄さんやお姉さんと愛称で呼び合い、とても楽しく活動できました。打ち合わせの際には、大学の学生食堂を利用させていただき、貴重な体験でした。

4．最後に、北村さんにとって茂菅とは何ですか。

「信大と地元と農協のコミュニティーの輪」です。

子どもに農業を教えたいという目的のために、信大と地元と農協の関わりが生まれました。信大があり、地元があり、農協があり、人に恵まれていたからこそ実現できたと思います。

今までになかったものをつくりあげるという体験は、必ず社会に出て役立つと思います。

2代目～7代目　大内清さん

1．茂菅の活動の思い出、印象に残っていることを聞かせて下さい。

新年早々、林部さん宅にお邪魔して、土井先生、正副農場長、林部さん、私で新年の年間構想を練る。この構想に基づいて、毎回の行動計画を農場スタッフが知恵を絞って編成する。そして、実践し反省して次回に積み上げる、このような学生さんたちの輪の中に参加させていただき、思い出が一杯です。

各年度ごとに特徴的印象や思い出を記してみます。

２代では、最終作業終了後、参加者全員で旭山と田んぼに向かって大声で「田んぼさん、本当に有難う」と言って感謝したこと。

３代目では、田植えの後に放流したフナが、秋収穫時水がない状態で足跡の泥水で生き抜いていたこと。生き抜く生命力を皆で感じたこと。

４代目では障害児が多数して田植えをした後、創意ある茂菅踊りが披露され楽しんだこと。

５代目では地域と連携して用水路当番まで経験したこと。

６代目では、初めてジャンボカボチャの栽培、大きく実ったサツマイモで焼き芋をして、なごやかに皆で食べたこと。

７代目では五穀豊穣の意味を児童から学生まで実践し、考えたこと

等、目的に沿った活動が多くあり、これらの取り組みに接し、各代の学生スタッフの皆さんは、明る

く、朗らか、チャレンジ精神旺盛、人間味豊かで、素晴らしい先生になれると確信したものです。
また、収穫祭のことや大学キャンパスの教室で「食の安全」についてお話させていただいたことなど、数多い思い出が出来た茂菅農場との関わりでした。写真（右下参照）は我が家の宝物です。

2．茂菅での活動が参加した子どもにどう生きていくとお考えですか。
豊かな自然に恵まれた茂菅での体験は、食べ物の大切さ、作る苦労、食べる楽しみ、林部さんより頂いたりんごや柿の丸かじりをみんなでしたこと、動植物との触れ合い、自然への感謝、集団的規律など、学校では学べない「生きる力」「基礎力」等を体験することができ、今後に役立つと思います。

3．最後に、大内さんにとって茂菅とは何ですか。
土井先生、志村先生、学生代表の方より要請を受けお手伝いすることとなり、林部さんと協力しながら6年間お手伝い出来たことは、この上ない喜びであります。山村に生まれ小、中、高、講習所（現県農業大学校）を卒業し、合併前、後の、ながの農協管内、及び県での農業振興、技術の普及、遊休農地活用対策、新規就農者支援など、農業に関わって 40 余年、退職し思うことは茂菅は心の糧であり、人生の自信ともなっています。
関わったことに感謝しています。

↑ 収穫祭の様子と、学生から大内さんに贈られた掛け軸。大内さんの宝物です。

10代目～14代目　小池 健さん

1．茂菅の活動の思い出、印象に残っていることを聞かせて下さい。
茂菅体操や茂菅農場の歌は茂菅らしさが凝縮していると思います。
農場に行くと自然にメロディーが頭をよぎります。また、活動に向けて事前に田んぼや畑を耕したり、鳥や動物除けの網を張ったり、土井先生や林部さん学生とともにみんなで準備をしたこと。そしてとれたての野菜を農場でみんなで食べたことです。

2．茂菅での活動が参加した子どもにどう生きていくとお考えですか？
普段何気なく食べているお米を始めとした農産物がどのように作られているか、実際に農場で体験することで、栽培することの楽しさ、収穫した時の喜び、食べた時の感動を感じてほしい、と思います。学生の皆さんには実際に農場で農業に触れたことが、指導者になった際に農業や食について生きた指導をしてほしいです。

3．茂菅での活動に関して、今だから言えることは何ですか。
子どもたちの田んぼでの泥んこ遊び、用水路での水かけあそびや水浴びは子どもならではの楽しさがあるのかなと思います。大人だと汚れたり、濡れたりするのは嫌ですよね。子どもたちにとっては、いい思い出になるんでしょうね。

4．最後に、小池さんにとって茂菅とは何ですか。
愉快なところ茂菅農場♪　（茂菅農場の歌より）

2．歴代営農指導員の皆様への感謝

歴代の農場長より、お世話になった営農指導員の皆様へのメッセージです。

当時ＪＡにいらした大内清様をはじめ、ＪＡの多くの方々に準備段階から実際の作業にいたるまで丁寧にご指導いただきました。また、昔の農具をお借りするなど、たくさんご迷惑をおかけしました。それでも熱心に関わり、温かく支えていただけたことを本当に幸せに思います。こうした機会がなければ、農業とも関わる機会も、それを楽しさと思える時間も一生涯なかったかもしれません。貴重な経験を支えていただき、本当にありがとうございました。

北川伸尚

茂菅ふるさと農場で、私たちは、仲間と協力する楽しさや、子どもたちとの触れ合い、農業の大変さなど様々な事を経験することが出来ました。このような機会を私たちに提供してくださったこと、大変感謝しております。社会人になって初めて、学生にこのような場を提供していただくことの大変さが分かりました。ここで学んだことは私たちの人生にとって財産になりました。本当にありがとうございました。

神林彩井

営農指導員の大内さんをはじめ、JA ながのの皆様には、本当にたくさんお世話になりました。優しい大内さんに甘え、私たちはついつい無理なこともたくさんお願いしてしまっていました。しかし、大内さんは学生の私たちの無理難題にもいつも嫌な顔ひとつせず「それならば、こうしてみようか！」「やってみよう！」と広い心で受け入れてくださりとても嬉しかったです。この姿こそ、「農業のプロ」であると感じさせられました。私も一教員として、大内さんの前向きでさらに挑戦する心を忘れない人を目指していきたいと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

松井泉樹

大内さん、北沢さん、塚田さん。JA ながのの方々には大変お世話になりました。

農業は「食」⇒「命」を支える大切な仕事です。茂菅の農場で農業を体験し、大学卒業後、中学校で家庭科を４年間担当させていただきました。食の大切さを生徒達と考えながら、どうかこの中から日本の農業を支えてくれる人材が出てほしいと子ども達に熱く語っていました。私は、農業ではなく、教師という職業につきましたが、この職業を通して、農業に目をむけてくれる子を育てていければと思っています。

平林照世

私たちの知らないところで苗を育てておいてくださったり、子どもたちに農機具を見せてあげたいからと快く貸してくださったり、畝づくりや田んぼの網張りにまで足を運んでくださったり…。みなさんのご理解と力強いサポートがあったからこそ、私たちはのびのびと活動することができました。学生時代にみなさんと共に活動を創りあげられたことは私たちの一生の財産です。本当にありがとうございました。

宮川はるな

毎回の活動を精力的に支えてくださった小池さん。無理なお願いでも一緒に考えてくれました。一緒に汗を流してくれました。笑顔で気持ち良く対応してくれる小池さんがいたから、私たちは困ることなく、気持ちよく活動できました。私たちの活動は小池さんを始めJAながのの方の協力がなくてはできませんでした。本当に感謝しています。ありがとうございました。　飯島理沙

小池さん、本当にお世話になりました。何もわからない私たちに畝の作り方、作物の植え方、手入れの仕方、収穫の仕方を一から丁寧に教えてくださいました。お忙しいにもかかわらず活動の日以外にも、何度も農場に足を運んでくださいました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、何度かJAながのにお邪魔したり、何気ない会話をさせていただいたりしたこともとても楽しく、大切な思い出です。いつでも楽しく活動を続けてくることができたのは、いつでも温かく迎え入れてくださる小池さんのおかげです。本当にありがとうございました。　手塚亮介

一年間、農業の大変さ、難しさ、そして面白さを、沢山教えて下さいました。農業初心者の私たちにとって、頼りがいのある存在でした。活動の当日や直接ご指導いただいた時以外でも、日頃から農場のことを気にかけて、農場の様子を見て適時アドバイスして下さったこともたいへんありがたかったです。　今思うと、浅はかだったなぁと思うところ、失敗だったなぁと思うところが沢山あります。すみませんでした。本当に、お世話になりました。ありがとうございました。　永原正裕

「ＪＡながの」より、農具などたくさんの支援をいただきました。

土井先生が語る「信大茂菅ふるさと農場」の歩み

聞き書き：
教育実践科学専攻３年 飯島香純

１.創設秘話

平成 11 年度に信州大学教育学部は、「臨床の知」の理念を核とする新しい教育体制に改組され、学校教育教員養成課程に「総合・生活科教育分野」が新設された。

こうした動きを受けて土井進教授が開講した講義が「自然体験研究特講」と「自然体験研究演習」だった。

この授業は、学生が地域の子どもたちと一緒に農作業を体験することを通して、生活科や総合的な学習の時間の実践力をつけていくことをねらいとしていて、１年間で約 80 名の学生が受講した。ここから始まるのが「茂菅ふるさと農場」である。そして、農作業の特性を考慮し、授業時間は放課後や土曜、日曜日だった。

しかし、この農場の土地は、もともと大学にあったものではなかった。自然体験の講義を行う際に、いくつかの条件を満たす土地を貸していただかなければならなかったのだ。

その条件とは、

① 子どもと共に行う活動になるため、子どもの送迎をしてくださる保護者の方々が車を止めることができるある程度の大きさの駐車場があること

② 作業中でもすぐに用を足すことができるトイレが近くにあること

③ 学生が講義以外でも頻繁に通って農作物の世話ができるように、学校近郊にあること

の３つである。

この条件をもとに、土井教授と当時の学生は、JA 長野中央会を訪れた。平成 11 年８月のことだった。もちろん一筋縄ではいかず、２度３度と相談し熱意を伝え、ようやく翌年、平成 12 年 3 月に現在の「茂菅ふるさと農場」を斡旋していただくことができ、さらに、「JA ながの」の営農指導員の方に営農指導担当についてもらえることになった。

こうして、大学キャンパスから自転車で 10 分ほどのところにある、長野市茂菅地区の水田４アールと畑８アールをお借りすることができたわけだが、まだもう一つ「茂菅ふるさと農場」の完成になくてはならないものがあった。それは、地元の林部信造さんご夫妻のご協力を取り付けることであった。

つまり、農場経営は学生主体で取り組んでいくとはいうものの、農業とは疎遠だった者が多く、何から手を付けてよいのか手も足も出ない状況だった。そのため、農場の近くで見守ってくださる地域の方のご協力が必要だったのだ。その旨を営農指導員の方にお伝えしたところ、紹介されたのが林部ご夫妻だった。早速協力を求めお宅に出向いたが、初めは硬い表情だったようだ。そこで土井教授は、鍬や鎌で耕したりすることはすべて学生がやるということを伝え、ただ地元の農家代表として見守っていただきたいと伝えた。

熱心な気持ちが伝わり、林部ご夫妻の寛大なお心もあって、その日のうちに協力していただけることが決まった。これをもって、「信大茂菅ふるさと農場」がようやく誕生したのだ。

「信大茂菅ふるさと農場」という命名は、杉山雅幸初代農場長と土井教授とが生協で昼食を共にしながら農場を人間形成の道場と捉えて名付けたものだった。それは、この農場での作業に汗を流した学生や子どもにとっては、この場所こそが人間形成の核となる原体験の場所となり、ふるさとになると考えたからであった。

このねらい通り、現在も「茂菅ふるさと農場」では“土づくり”による“人づくり”が行われている。

２.今だから明かせる？存続の危機 !!

「茂菅ふるさと農場」は誕生後、何一つ問題なく平和に営まれてきたわけではなかった。今回、土井進教授が明かした「農場存続の“危機”」について明らかにする。

危機は２回あった。

1 回目の“危機”は、意外にも農場スタートから 3 年目のことだった。この時の原因は、学生たちを主導する土井教授ご自身が「とても忙し過ぎた」ためだと振り返っておられる。土井教授は、当時、上越教育大学での講義をもたれ、信州大学教育学部附属松本小学校の校長を兼務され、全国フレンドシップ関係などにも携わられるなど、多くの役目を兼任されておられた。以下は、「今でもはっきり覚えている」といって話してくださったことである。

> 平成 15 年 12 月 25 日、附属６校園合同の集まりがあり、一杯会に参加した後、いつもどおり自転車で帰宅していた。だが普段は何ともなく軽々渡れる丹波島橋がこの時渡れなかった。疲れているせいだと思い、自転車を押して足早に帰宅して休んだのだが、夜中の２時 15 分に胸が痛くて目を覚ました。翌日、運転免許更新の最終日になっていたので手続きに行き、そのまま近くの医者に寄って症状を話すと、すぐに総合病院に行くように言われ紹介状を渡された。
>
> 家族に連絡する間もなく病院に着くと、すぐに車いすで ICU（集中治療室）に運ばれ、今晩中

に手術することが告げられた。心筋梗塞だった。新年を病院で迎えた。1か月入院し、1か月自宅療養することになった。

その間、大学院生にとてもお世話になったと土井教授は話す。そして、大学の教授という本業でさえままならない自分が農場の運営にまで手を出すのはとても不可能だと考えた土井教授は、この時あふれる思いを手紙にしたため林部宅を訪ねたのだ。その手紙を読み終えた林部信造さんに土井教授は「そういうわけで農場を閉めようと思う」と伝え泪を流した。

するとそのとき、林部信造さんが土井教授に掛けられた言葉は、「農場のことはすべて私と学生に任せて、先生はただ監督をしていればそれでよろしい」という温かい言葉だった。そして、こんな農業の哲学も教えてくれた。「農地は、いったん手放すともう2度と戻らない」、と。土井教授は、このような林部ご夫妻の深い愛情に触れて立ち直ることとなる。

そして1回目の"危機"は免れたのだった。

2回目の"危機"は、農場に通うのが「つらい」と感じた時だ。

またも多忙な日々が続き、人事の仕事が重なり、過労がもとで体調を崩してしまった。「茂菅ふるさと農場」の作物は、基本的に除草剤を使わずに栽培している。農薬も全く使わない完全無農薬の身体に優しい作物であるが、そこで大変なのが農場の作物たちを守るための"草刈り"の仕事だ。植えた作物の成長を妨げる生命力の強い雑草たちがたくさん農場にはいる。そのために、定期的に除草しなければ作物が負けてしまうほどなので、人の力で雑草たちを除くわけだが、これが実に骨の折れる仕事なのだ。しかし、草の生長に負けないためには、人が鎌で草刈りをしてやる以外に道はない。この一見能率が悪そうに見える鎌による草刈りにも、マイナス面ばかりでなく人を癒す働きがあることを土井教授は発見した。旭山から吹き降ろす涼風と裾花川のせせらぎを聞きながら、無心になり汗だくになって草刈りをした。すると、腰を伸ばしてふと後ろを見ると、そこにはきれいに刈り取られた田や畑の畔が生き生きとしていた。自然が蘇える姿に接した時、草刈りをした人間自身の心も体もすっきりとさわやかに癒されているのを土井教授は発見したのだ。こうして草刈りセラピーという大自然に癒される農法によって、土井教授は体調を回復し2回目の"危機"も脱することができたのだ。

以上のことからも分かるとおり、14年間私たちが「茂菅ふるさと農場」を運営できたことはとてもありがたく、貴重なことだったのだ。何かを新たに始めることは、もちろん、とても手のかかる大変なことだが、始めたことを長きにわたって継続していくこともまた、根気のいることなのだ。そして、「茂菅ふるさと農場」は、林部ご夫妻という信州教育を体現された達人の支えがあったからこそ、現在まで運営できているのだと、改めて感じる。

3. 今までを振り返って ー土井教授の思いを綴るー

「信大茂菅ふるさと農場」との出会いがあったおかげで、私は精神的に生き返りました。本当に元気になり、希望が湧いてきました。この農場を斡旋してくださった「JA ながの」営農指導員の北村典子様に心から感謝申し上げます。

北村さんのご紹介で、私は、林部信造様と出会うことができたのです。

私は林部さんに「本当に力のある未来の教育者を育てたいので、根本の"土づくり"から教わりたい」と、強くつよくお願いしました。

この思いを受け止めて下さり、林部さんが農場の応援団長になって下さったことによって、14年間もの長い間、茂菅の活動を続けてくることができたのです。歴代の「JA ながの」の営農指導員の皆さん、そして林部ご夫妻の温かいご協力に感謝申し上げます。

お陰様で、正副農場長をはじめ茂菅スタッフなど、実際に鎌を持ち、鍬を使って、農場での活動を通し"土づくり"の本質を体験的に学んだ学生が500名を超えました。そしてこの学生たちと一緒に農業体験をした子どもたちもまた、500名を超えました。当時茂菅の活動に参加していた子どもが成長し、現在信州大学教育学部で学んでいる学生が何人もいます。また、「JA ながの」の国際協力田の活動として茂菅で育てたお米をアフリカのマリ共和国に贈った体験を通し、自ら安曇野の小学校で同じ試みをしている先生もいます。この500名の方々にとって「茂菅農場は第二の故郷」になったと言っても過言ではないと思うのです。

その証拠に卒業した学生たちが長野に来る機会があった時は林部ホテルに宿泊し、薪炊きのお風呂に入れていただき、奥様の美味しい手料理に舌鼓を打ち、手作りのおもてなしに家庭の温かさを教わるのです。そして、このような温かい家庭を自分たちも築いていきたいと願っている学生や卒業生が全国にいるのです。「YOU—YOU 婚」もこれまでに何組も成立しています。社会形成力が見事に華開いていると言えます。

私は、「生活科指導法」という講義を本務とする教授になり、茂菅の大地で学生たちとともに真の"土づくり"に取り組みました。そして、具体的な活動や体験を通して、様々なことに気づき、自得していくという学び方を選択しましたが、この判断に間違いはなかったと、実感しています。「生活科指導法基礎」を受講した3,000名を超える学生たちのシラバスには、前期は林部さんのりんご畑での摘花作業、後期にはリンゴの葉摘み作業が位置づけられていました。3,000名を超える学生が茂菅農場での

活動とりんご畑での作業に取り組みました。作業の最後にはいつも林部ご夫妻が育てられた美味しいリンゴのおもてなしをいただきました。学生たちはいつも笑顔になってりんご畑を後にしました。

このような体験を通して、学生は地域とのつながりを認識し、地域と生活の重要性に納得し、理解したと思います。教室の中だけの学びではなく、実際にその地に赴きその地で汗水流すことによって、地域とのつながりが得られ、そこから新たな学びが生まれる、このような試みを茂菅で 14 年間続けてくることができましたことに、只々、感謝であります。

私自身、茂菅で汗を流すことで健康も快復し、茂菅大橋へ登る坂道を自転車で登りきることができるほど体力が増進しました。また、閉場式（平成 25 年 10 月 13 日）を終えた農場から、資材置き場として使用していた鉄骨材をリヤカーに乗せて運んでくる坂道も、一度も休むことなく登り切ってくることができるまでに足腰が鍛えられました。

まもなく平成 25 年度一杯で農場を地主さんにお返ししますが、教育学部にとってこの農場が有能な教育者を輩出する上で多大な成果を挙げたことは私の誇りです。

地主の若松さん、小林さん、「JA ながの」営農指導員の皆様、林部さんご夫妻、また、共に汗を流した学生、卒業生の皆さんとの楽しい日々に感謝いたします。

私は平成 26 年 3 月 31 日をもって 22 年間勤めさせていただいた信州大学教育学部を定年退職しますが、茂菅での日々は生涯忘れることはありません。

本当に素晴らしい思い出をたくさんありがとうございました。

皆様の益々の健康とご活躍をお祈りしています。

4. 土井先生ってどんな人 ?!

ここからは普段の土井先生について紹介します！

Q1　土井先生の好きな食べ物・嫌いな食べ物はなんですか？

好きな食べ物はスイカ。嫌いな食べ物はありません。何でも食べられます！

Q2　土井先生が尊敬する人は ？

二宮尊徳さんです。二宮尊徳という人は、幼いころに洪水にあい、両親や田をなくしました。ですが、このような辛い環境にあったにもかかわらず、その境遇に立ち向かっていった。その二宮尊徳さんのことを著したのが『報徳記』（富田高慶著）です。

この書物を通して尊徳さんは体験を通して知恵を自得していくという学び方、すなわち実学を重んじました。尊徳さんのこのような農業哲学に出会って感激した私は、尊徳さんをお手本として、茂菅で“人づくり”の道に挑戦しようと決心したのです。

↑ 愛用の自転車と！毎日この自転車で大学と農場に通います。

着ている雨カッパは、「信大 YOU 遊サタデー」が第 7 期で幕を下ろすことになった時、歴代の YOU サタ実行委員長さんたちが集まって、これから始まる茂菅農場を応援しようとプレゼントしてくれたもの。大切に着ています。

Q3　土井先生の十八番は ？

「まず一献」です。30 年前、合気道佐々木将人師範に教わりました。乾杯の時にはとても役立ちます！それから、北島三郎さんの「山」と「竹」が大好きです。また、私の教育学の師唐澤富太郎先生から古道具屋からの帰り道で教わった「快哉人生」です。この歌を仕事が終わると口づさみながら帰途につくのです。

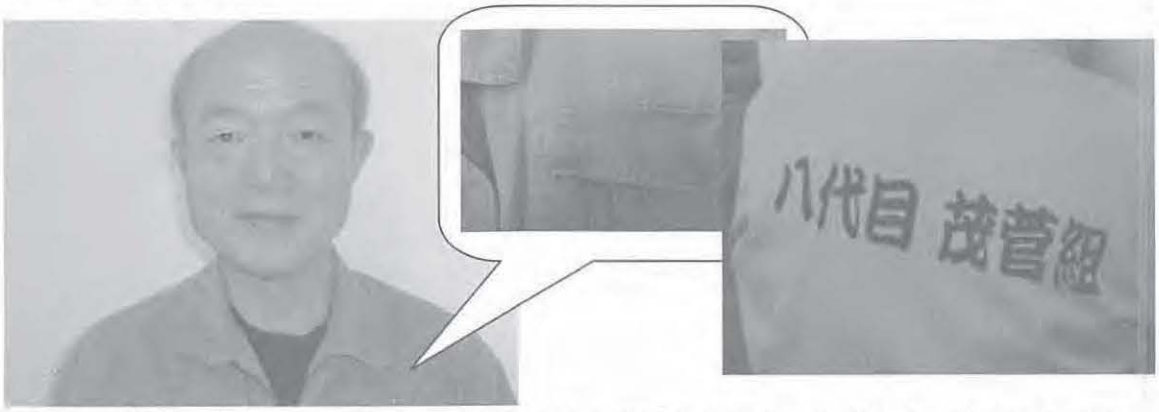
↑ つなぎを着て草取りをしている様子。14 年間続けてきた草刈り、板についています ！

Q4　「まず一献」について、ちょっと教えて下さい。

それはですねぇ、「何かあるのが 人生さ それを 一つまた一つ 解決するは 男だろ 君盃をあげ給え いざ、わが友よ 先ず一献　乾杯！」

Q5　農場に関わることで一番驚いたことは ？

初年度、朝6時に田んぼの水まわりを見に行ったら、田んぼに車が1台止まっていました。何だろうと思って近づいて見みると学生が寝ていたのです。「どうしたのか？」と聞くと、その学生は、「初めての田植えを終え、田が愛おしくなり添い寝していました」とのことでした。私は、とても驚きました。すごい教育的愛情です！



↑左の写真は、7年目の学生たちにカッパと一緒にもらったつなぎです。左胸に名前の刺繍が入っていて、気に入っています！宝物です！
　右の写真は、8代目の学生からもらったつなぎです。背中に「八代目 茂菅組」とプリントされています。

Q6　農場に関わることで一番うれしかったことは ？

学生さんがそこにいてくれることです。1か月入院した時に千羽鶴を折って見舞ってくださいました。また、復帰した私を温かく迎え、「お帰りなさい」と優しい声をかけてくれたのも「YOU遊」の学生の皆さんでした。

そんな「YOU遊」精神に満ちた学生の皆さんのおかげで、信州大学での仕事を何とか定年まで22年間働き続けてくることができました。本当にありがとうございました。

5．教員養成に及ぼした効果

第12代と第13代の副農場長を務めた慶應義塾大学環境情報学部の学生長田侑里子さんは、インターネットでの検索で土井進（2008）「「信大茂菅ふるさと農場」10年目の「人づくり」戦略 ―「信大茂菅農業義塾」の開設―」（『地域ブランド研究』Vol.4）に出会った。これが機縁となって「農場」の活動に参画し、卒業研究として「農場」の活動に参加した学生60人を対象に、2012年12月15日にアンケート調査を実施した。以下は、その調査結果である。

学生60人の性別は、女性37人（61.7%）、男性23人（38.3%）である。

1．まず学生が「農場」に参加する最大の動機は、「子どもと接したいから」である。
回答者60人全員が5段階評価の中で「5」を回答している。
　一方、「地域の人と交流機会を持ちたいから」は「3.5」に留まっている。参加時において、学生の地域交流への動機はそれ程高くないことがわかる。

2．次に「農場」での活動に対する満足度は非常に高いことが分かる。
学生60人中50人（83.3%）が「非常に満足」と答えている。
　活動そのものへの満足度が高いということは、学生の継続的な参加の見込み、すなわち活動の維持にも繋がる。これは地域交流を行う場合において重要な指標と言える。一般的に大学生の活動は活動設立初期においては、自ら立ち上げに加わった学生がほとんどであるため、積極性や満足度も高い。しかし、5年、10年と継続する活動はそれほど多くはないと言われている。まして学生の自発性に基づく活動であれば責任や負担も増す。「農場」が開設から14年目を迎えているということは、学生にいかに高い満足度を与えてきているかということがわかる。

3．学生が「農場」での活動に満足している理由として挙げている次の5項目を、5段階評価の平均値の順に示すと次の通りである。
①「子どもと接することができたから」4.6
②「活動内容が楽しかったから」4.3
③「教員になるために役立つ経験が得られたから」3.8

④「仲の良い友人ができたから」3.7
⑤「地域の人と交流機会を持つことができたから」3.6

4．次に学生が「農場」での活動を通して、近隣地域の協力者、JA ながの営農指導員、そして保護者などの地域住民からどのような学びを得ているのであろうか。

「農場の活動を通して学生が地域住民と交流することは重要だと思うようになりましたか」という質問に対して、46 人（76.6%）が「非常にそう思う」と答えた。続いて、

「地域の協力者と活動する経験は教員になる上で役に立つと思いますか」という質問に対しては、全体の 47 人（78.3%）が「非常にそう思う」と回答している。

また、「どういった点が教員になる上で役に立つと思いますか。」という記述式回答では、大きく分けて 3 つのタイプの回答が得られた。

1 つ目は、「地域の方々とコミュニケーションをとるスキルが身に付く点」、「様々な立場からの関わり方、視点を学ぶことができる。色々な方面からの考え方ができると思う」など、知識や能力の獲得、考え方の変化に関連したもので、18 人がこのタイプであった。

2 つ目は、「保護者との接し方を学べた点」、「地域の声、保護者の声を聞くことができる点」など、保護者との関係に関連したもので、11 人がこのタイプに分類される。

3 つ目は、「地域の方はとても子どもたちを大切にしていて、私たちも責任を持って子どもたちに接しなければならないという気持ちになれるから」、「教育は学校の中だけで行われているのではないと知った。地域の中にも子どもの学びを支援している人はたくさんいる。そういった人たちの力も借りて教育をしていきたいと考えるようになった」

など、学校教育と社会教育に関連したもので 20 人がこのタイプに分類された。

以上の 3 つのタイプを踏まえて、多くの学生は「農場」で地域住民と交流できること自体が、教員になる上で役立つ経験になると捉えていることが分かった。

最後に長田侑里子さんは、研究の成果を次のようにまとめている。

(1) アンケートに回答した学生 60 名全員が、「子どもと接したいから」という動機で「農場」に参加していることが明らかになり、活動から得られた満足感も「子どもと接することができた」ことが最大の要素となっている。

(2) 学生は「農場」の活動を通して地域住民と交流することは、「知識や能力を獲得し、地域の声、保護者の声を聞くことができる重要な場であり、地域住民と交流する経験自体が、教員になる上で役立つ」と考えている。

(3) 保護者が子どもを「農場」に参加させる願いとして、「学校以外の場で大学生のお兄さん、お姉さんとのふれあいを体験してもらいたい、家庭ではできない農作業体験をさせたい」という気持ちがあることがわかった。

(4) 近隣住民林部信造氏は、「農場」に参加する学生や自家農園に手伝いに来てくれる学生たちとの関わりが「自身の日常生活の一部になっており、自分の老後にまさかこんな楽しみがやってこようとは思ってもみなかった。成長していく学生の姿を見るのが本当にうれしい」と、語っている。

(5) 「農場」での様々な自然体験、社会体験が学生の教職志望度を強化する上で大きな効果をもたらしていることが認められる。

――〈お話を聞き、心に残った土井先生のお言葉〉

「信大茂菅ふるさと農場」が、教員養成に大きく貢献できたことは天地自然の恵みのお陰であり、私の生きがいでもあった。「農場」のお陰で生活科の授業づくりが楽しみであった。草刈りの畑セラピーで崩した体調を快復することもできた。14 年間「農場」と苦楽を共にしてくださった皆様に心からの感謝を捧げます。――

林部信造翁の「茂菅農場」観

◆ 初代（平成12年度）　「信大茂菅ふるさと農場」雑感

平成12年に学生の自然体験実習農場として「信大茂菅ふるさと農場」が開設され、学生の皆さんおよび地域の子どもたちと共に自然とのかかわり、人と人とのふれ合い、物を育てるやさしさ等、体験を通じてお互いに豊かな人間性の確立を目ざしたいとのお話がありました。地元であり農場に近い農業従事者ということで信大土井進教授を始めJAながの関係者の皆さんから農場に対する協力の依頼がありました。趣旨には賛成しましたが、私ごとき者が大学生の皆さんの実習に携わることには少なからず抵抗を感じましたが、私の経験が少しでもお役に立つならと協力させていただくことにしました。

さて、実験農場は休耕田として数年間放棄されていたため、雑草、雑木が密集し、一部は土砂の堆積場として使用されていたため、非常に固く、小石も多く復元には相当な労力と時間がかかると思いました。又、できるだけ機械を使わず、地道な土づくりの大切さを知るという主旨のもとに鍬や鎌、ナタ、ノコギリ等で毎日少しずつ黙々と汗を流しながら耕す姿には深く感銘いたしました。

このように皆さんの努力の結集によって立派な水田や畑に復元し、それぞれの作物ができました。土井教授の言われた開拓魂、チャレンジ精神等、机上の理論とは違う尊い経験ができたと思います。現場における協調性、忍耐力、判断力、対応力、メニューにない数々の実体験はやがて教育の現場、社会において役立つ時が来るでしょう。

地域の子どもたちも、このような貴重な場において芋掘り、田植え、稲刈りと泥んこになって今まで経験したことのないものに挑戦し、歓声を上げ友だちや、信大のお兄さん、お姉さんたちと楽しく教わりながら作業をし、又、学生の皆さんの子どもたちの目線で会話し心と心で語り合えた姿が子どもたちの共感を呼び、この体験が今後立派な教育者として慕われるのではないでしょうか。

収穫した米はアフリカに救援米として出荷され、初期の目的が達成されたのではないでしょうか。

私もりんごをつくりながら共に1年間お世話になりましたが、皆さんが体験した野菜づくり・稲作りも私のりんご作りと同じです。

農作物は機械生産と違い同一のものは採れません。同じに植えても必ず強い大きいものと、弱い小さいものが出来ます。植えた場所、着果した場所の違いにより生じます。小さな弱い果実でも愛情を持って手抜きせず育てれば良質の作物ができます。放任したら不良品となり商品価値が極端に低下してしまいます。

子ども社会も同じと思います。それぞれ異なった環境で育ち、感情があり個性があります。画一的な教えでなく、それぞれの人格を尊重し、手抜きせず愛情を持って静から動への教育が全体のレベルアップになり、21世紀をになう子どもたちに必要ではないでしょうか。

土井教授をはじめ大勢の学生の皆さんと年齢差を感じながらも若いエネルギーを吸収し楽しみながら共に農作業することができましたことに心から感謝申しあげます。

◆ 第2代（平成13年度）　「信大ＹＯＵ遊広場（プラザ）」

２年目を迎えた「信大茂菅ふるさと農場」は、内容も更に充実、楽しみながら物を作ること、また育てることを学び、人々とのふれ合う時間も与えてくれました。また国際協力田としての目的も果たし、収穫の喜びを共に味わう事ができました。私も縁あって学生の皆さんと共に農作業をさせていただいたこの一年を振り返り、感想を思うがままに記したいと思います。

「信大YOU遊広場」に参加した子どもたちがジャガイモ、サツマイモ掘など、初めて畑の土に触れ、硬い土、柔らかい土などの感触を味わい、水田においては稲の苗を持ち、一本一本田植えをし、これが大きく成長し毎日食べる米になることを教えてもらい貴重な体験となったことでしょう。この体験は土のみが与えてくれた自然の恵みであり、「信大茂菅ふるさと農場」の大きな贈り物だと思います。人は助け合い、支え合いながら共に人となって成長を続けます。その心を大切にしながら農業を愛し続けましょう。

「しめなわ」作りに参加して　しめなわ作りの経験がありませんでしたので、受講生として初挑戦しました。わらは「信大茂菅ふるさと農場」で作ったものを使い、学生の皆さんと共に講師の先生の教えに従い作っていきますが、なかなか思うようにできません。1週間後に控えたフェスティバル、何としても覚え、自分のものにしたいという学生の皆さんの努力と気迫を感じつつ講習会が終わりました。数時間という短い受講体験からどのような手順で子どもたちに教え、作品を作り上げていくのか大変関心を持っていました。私自身作ることで精一杯、人に教えるという余裕などありませんでしたから。

当日、会場には早くからわら、はさみ、霧吹き等、全て準備されており即実習に入りました。作品を作る手順も細かく書かれ、更にイラストを使い子どもたちが楽しみ、飽きないように配慮された会場の雰囲気、学生の皆さんによる寸劇を交えた実技指導で進められました。殊に「しめ」の縒り合わ

せの状態を子どもたちが一目でわかるよう、三色のテープを使って教えるというアイディア等、発想のすばらしさには感服致しました。

これらの教えにより全員が立派な「しめ」を作ることができ、家に持ち帰り、我が子の作品を飾り、家族揃ってお正月を温かく迎えたことでしょう。フェスティバルが成功裡に終わりましたことを心からお喜び申し上げます。

夜は学生の皆さん、関係者の方々による反省会と食事会が催され、私も家内と共に参加させていただき、大変嬉しく、光栄に存じております。

会食が始まり、和やかな雰囲気の中、学生の皆さんから報告、反省、感想等が次々と発表されました。それは原体験を味わった人のみが語り得る言葉であり、また責任を果たした喜び、信頼と協調による「信大 YOU 遊広場」の目的を果たしたという充実感が人々に感動を与えてくれました。私も久しく味わうことがなかった感動を覚え、感無量でございました。

「信大 YOU 遊広場」が土井進教授の献身的なご指導により、年々拡充強化され、この活動が教えた多くの実体験は、21 世紀の教育の原点だと確信いたします。

私も農業が好きです。若い人たちのエネルギーを吸収させていただき、楽しみながら共に汗を流した一年間、これが皆さんの活動の一助となれば、この上ない幸せです。

◆ 第3代（平成 14 年度）　「信大茂菅ふるさと農場」が与えるもの

新しい農場長が決まり、今年はどのような企画により「信大茂菅ふるさと農場」が管理、運営されるのか大変関心を寄せていました。未経験の皆さんが「人づくり」、「土づくり」を通じて自ら学び、律し、子どもたちとのふれあい方、父母との接し方、地域とのかかわりなど、その目的を具体的にどう取り組むのか期待されるのかで、過去にとらわれず３年目にふさわしい立派な計画が立案されました。

1．代掻きの後の子どもたちとのドロンコ遊び
　① ヌルッとした土の感触、体験
　② お兄さん、お姉さんたちとの土を通じた裸のふれあい、接し方
2．田植え時のフナの放流
　① 無農薬栽培による除草効果と生育の観察
　② 稲刈り時に子どもたちに配り、自然の中で自由に生きた事実を確認
3．千歯こきという古代農具による収穫体験
　① 古代人の農具と近代化された農業機械の実体験
4．玄米、発芽米等、食変化の体験
　① 籾、玄米、白米の違いの実体験
　② 玄米食の試食体験と食に対する感謝

いずれも初めての取り組みとなり、いくつかの課題を乗り越え、新しいものに敢えて挑戦する勇気と積極性に感銘を受けました。無から有を生むロマンを求め、実体験に全力投球出来る学生時代の良き思い出になるよう、その成功を願いました。

脱穀、収穫が終わり一年を振り返った時、今年もまた幾つかの感動を与えてくれました。

★ 稲の栽培行程の中に、中干しと言って（稲全体の健全化を図る目的）田の水を全面的に放出し、7～10 日間水無し状態にします。従って放流したフナを稲刈りの当日、子どもたちに配るためには学生の皆さんが数日にわたり、田んぼから掬いあげ一時的に我が家の池で飼育しました。稲刈りが始まり田んぼにいないはずのフナが数匹生きていたのです、足跡のわずかな窪地の泥水の中に重なり合う姿で。その痛ましい姿から生に対する執念、自然の対応力に感動し、学生の皆さんが温かい手を差しのべてやりました。

★ 今年の集大成として各プラザの活動を通した「YOU 遊フェスティバル」が 12 月 7 日に行われ、私も「こりゃうまい感謝をコメていただくベェー♪」の講座に参加しました。籾から玄米、白米とその試食用の精米にたずさわった関係から関心を持っていました。会場には子どもたちをはじめ 50 人余りが参加し、食に対する関心の深さが感じられました。

先ず、キャプテンの発声で講座のタイトルを全員で大合唱し、実演に入る。新聞紙大の紙を着色し３枚重ねにして籾の模型を作り、先ず一枚剥いで玄米、また一枚剥いで白米になる過程を非常にわかり易く説明し、一人に３粒の籾を配り、１粒はそのまま、２粒は籾を取りこれが玄米だという。更にその１粒を爪で表面を削り白くして、「皆さんが日常食べているお米です」と説明した。この３粒をセロハンテープで押え自宅に持ち帰り、本日の勉強の成果として家族と語り合うことが、絆を一層深めるのではないでしょうか。教科書にない教材を与えるこのすばらしい発想は「ふるさと農場」で活躍したプラザの人たちだけにでき得るすごい業であると思います。

世界には食に飢え、苦しむ多くの子どもたちがいることを忘れてはならない。国際協力田の収穫米も救援米としてマリ共和国に発送されその役割を果たしました。

土井教授の「臨床の知」の基本理念に基づく「人づくり」のための「土づくり」、を自ら実践することができた姿を見るとき人々に与えた影響は大きい。土井教授が教育誌に寄せた授業科目を中心とした人間教育の 10 カ条、社会の実体験を通じ実践的指導力の向上を図る 10 カ条は、いずれも強い意志

と一貫した理念が貫かれており、深い感銘を受けました。毎年プラザに参加している学生の皆さんとのおつき合いの中から、土井教授の理念が立派に伝授され、21 世紀に逞しく活躍する教師像を想像しました。

私は農業が大好きです。健康である限り「信大茂菅ふるさと農場」で、夢多いプラザの皆さんと力を合わせて共に頑張りたいと思います。

◆ 第４代（平成 15 年度）　「ＹＯＵ遊フェスティバル」と学生シンポジウムに参加して

歴史の流れは早いもので 10 年も前から、フレンドシップ事業が全国の大学に先がけて、信大教育学部で行われていたと知り、先覚者のすばらしい英知と決断に対し、深い敬意と感動を覚えました。

私も縁あって平成 12 年から、当事業のルーツである「信大 YOU 遊サタデー」、「信大 YOU 遊広場」に地元の農家ということで、お手伝いさせて頂き、このようなことから今回の記念事業に参加できましたことを、非常に光栄に存じ、心から感謝申し上げます。

10 年目の節目に当たり、事業の一端として開設した「信大茂菅ふるさと農場」の４年間を振り返り、思うまま記したいと思います。

毎年このような立場でシンポジウムに参加させていただき、また学生の皆さんと家族ぐるみで親しくさせていただいているのも、４年前に土井先生との出会いがあったからです。「信大茂菅ふるさと農場」開設に伴う先生の情熱、学生に対する教育理念、先生の人柄などに感銘し、及ばずながら開設のお手伝いを決心した次第です。今こそ、立派な水田に復元していますが、当初は休耕田として数年間放棄され、Ａ地は道路工事現場の土の堆積場のあと地のため、グラウンドのように固く、小石も多く、またＢ地は雑木、雑草が繁茂し、いずれも人力による三つ又、スコップ、のこぎり、ナタなどで抜根し、開墾しました。先生の開拓魂、チャレンジ精神、「人づくり」のための「土づくり」に汗を流し、机上の理論だけでなく、身を挺して感じ得ることの大切さを学び、そこから立派な水田に生まれ変わり、「信大茂菅ふるさと農場」として、歩み始めました。

この水田には人の心があり、数々の課題をかかえながらも、一年にして学生の皆さん、大勢の地域の子どもたち、そして保護者の皆さんと収穫の喜びを味わい、また国際協力田として、その目的を果たし、充実した一年であったと思います。

２年目以降は内容の充実に重点を置いた企画が立案され、各年の農場長のユニークで豊かなアイディアが子どもたちに与えた影響も大きかったのではないでしょうか。

主な行事を列記します。

１．代掻き後の子どもたちとのどろんこ遊び ……土の感触、裸同士のふれあい
２．田植え後、田んぼに「ふなの稚魚」の放流、飼育
……自然の中で自由に生きる小さな生命力の観察
３．千歯こき、トーミ（唐箕）の古代農具の実体験 ……古代人の農具と近代化された機械の違い
４．玄米、発芽米、白米など食の変化 ……玄米食の体験、視覚、味覚の違いを研究
５．国際協力田の役割 …食に飢え、苦しむ子どもたちに愛の救援米、国境を越えた助け合い運動
６．子どもたちのかかし（案山子）作り ……自由な発想によるユニークなかかし作り
７．茂菅ふるさと音頭 ……作業開始前に農場長自作による「ふるさと音頭」に合わせて準備体操

このように米作り未体験の学生の皆さんが、その場面ごとで、いろいろなことを研究、調査されたことを即実行する前向きな姿勢と情熱に感服しました。

また、15 名の基調体験報告は、それぞれ原理、原則を守り、人格と見識、個性豊かな大変すばらしい報告会であり、21 世紀のたくましい教師像として期待させることと確信しました。

私も社会生活の中でいろいろな体験をして参りましたが、年に一度の全員参加による報告会には、それぞれの立場での反省、感想など発表されますが、この場面は毎年、生涯忘れることのできない感動を与えてくれます。不安をかかえながらも一年間無事、目的を果した喜び、お互いにそれぞれの立場をたたえ合える豊かな連帯感、信頼と協調により築きあげた一年間、全員が一つになるこの美しい光景は、深い感動と感涙を与えてくれます。

10 周年記念事業フェスティバルが成功裡に終わりましたことを、心からお祝い申し上げ、「信大茂菅ふるさと農場」が末永く継続されんことを願っております。

【茂菅ふるさと音頭で輪になって】

◆ 第５代（平成 16 年度）　「信大茂菅ふるさと農場」と私

農作業が終り、ひと休みの頃になると編集者から一年間の感想をと原稿の依頼があり、書くという事は年齢とともに大変厳しくなりますが、これも農作業の一部と思っています。

過去５年間、農場のお手伝いをさせていただきましたが、年々代わる学生の皆さんの取り組む姿勢には土井進教授の「臨床の知」に基づく基本理念が継承され、「人づくり」のための「土づくり」、自然を愛し、汗を流すチャレンジ精神、実践力、協調性、忍耐力等、今日求められている未来の教師像であり、輝いているスタッフのみなさんが頼もしく感じます。開設以来「信大茂菅ふるさと農場」で数々の実体験をした大勢の学生の皆さんが、教員となり県内外で活躍されています。

ある人は、「ふるさと農場の経験が教場における糧となり、自信と勇気を与えてくれます」と。又、「教育学部で農業の運営にたずさわったことが今となっては何物にもかえがたい、そして２度と学ぶことのできない貴重な実体験をしたことに誇りを持っている」と云われます。「青田や黄金色の稲穂、りんごの花等を見る時、今迄は何の感動もありませんでしたが、当時のことが思い出され、四季の変化を感じ、心が癒され、とても懐かしく思います」といいます。又、休耕田の利用、校庭の一部を活用して稲作りに挑戦した先生等それぞれの現場で持ち味を生かし、教育者として大きく前進している姿を知る時「信大茂菅ふるさと農場」「国際協力田」の存在の大きさと尊さをひしひしと感じます。

農場も開設以来５年が経過し、ひとつの節目とも思われますが、さらに大きく躍進することを願い、一人でも多くの学生の皆さんが参加し、先輩達が築いた「信大茂菅ふるさと農場」を継承し、身近にある生きた教材として充分に活用してほしいと思っています。

私も５年間「信大茂菅ふるさと農場」で土井教授やスタッフの皆さんのお手伝いをさせていただきました。そして大勢の卒業生の皆さんが県内外で生き生きと活躍していることを知る時、多少なりともお役に立つことができたかと喜びを感じます。

これからも若さと、健康を与えてくれる農と自然を愛し、皆さんと共に頑張りたいと思います。

◆ 第６代（平成 17 年度）　農業に定年はない、終生現役である

平成 17 年度の「YOU 遊フェスティバル」が 12 月 10 日、信大キャンパスで１年間の集大成として盛大に開催されました。また、学生のシンポジウムには助言者として県内外から大勢の OB の皆さんを迎え、成功裡に終わりましたことを心からお喜び申し上げます。（私は残念ながら都合により欠席し、家内が参加させていただき感動の一日であったと申しておりました。）

助言者の皆さんは、「信大茂菅ふるさと農場」で活躍し、実体験を重ね、また我が家のりんご栽培等のお手伝いをしていただいた懐かしい 19 名の方々が、ふるさと長野に集まり、シンポジウムを通して後輩を指導するとともに、苦楽を共にした同志の皆さんが連帯しあっている姿が、「信大茂菅ふるさと農場」を支えてきた大きな力だと思います。

“継続は力なり”と申しますが、「信大茂菅ふるさと農場」は開墾時、10 年間継続いう夢と目標をたてて進めてまいりました。５年が終わり、今年は折り返し点の６年目となります。この「信大茂菅ふるさと農場」は歴代学生の皆さんの自主的な活動の場として、自ら運営、管理、実体験を通してお互いの人格の形成を計り、社会学を学ぶ貴重な実践農場である。それが故にかかわる人には精神的にも肉体的にも強靭さが求められますが、これらを乗り越えてきた先輩たち、またこれから必ず乗り越えられる後輩が後に続き、「土づくり、人づくり」の原点が守られると信じています。

農にたずさわる人には定年とか、何年という定まった年月はない。終生現役である。年は老いても土に親しみ、作物を愛し、土と共に生き続けるのが農業従事者である。

我が家の古いりんごの木も風雪に耐え忍んだ 50 数年の老木と継続を夢みて補植した、２～15 年生のりんごの木が混植されている。老木は年と共に主枝の一部に空洞化が進み、それでも木は養分を吸収し（形成層）花も実もつける。花や実は決して幼木、成木に劣らず、むしろ年輪を重ねた味と香りを漂わせてくれます。

私も体力に順応した対応を続け、終生現役でありたいと願っています。

◆ 第７代（平成 18 年度）　「信大茂菅ふるさと農場」での出会い

「信大茂菅ふるさと農場」を開設して７年、この間にたずさわった大勢の学生の皆さんが社会人として、県内外で活躍されています。今年もこの実践農場で体験を重ねた学生の皆さんが、大きな夢と希望を持ち先輩方の後に続きます。私も定年後、土井教授とこの「信大茂菅ふるさと農場」で出会い、以来７年、この農場から毎年いろいろなことを体験させていただき、今なおこの出会いのすばらしさを実感しています。

人は出会いにより変わると言われています。良い出会いを大切にすることにより人は実に大きく育つと云われます。従来この「信大茂菅ふるさと農場」で出会った人たちは皆、心の豊かさと明るさを備えています。物事を明るく積極的にとらえ固定観念にとらわれず、幅広い知識と探究心が旺盛であり、労を惜しまず、自ら実体験を求め、汗を流す人たちであり夢があります。農場はあくまでも学生の皆さんの自主的な力で企画、立案、実践し、責任を持って運営し実体験を重ね、出会いのすばらし

さと感動を味わわせてくれます。教科を超え、先輩、後輩との出会い、苦楽を共に味わう農場での仲間、個性豊かな子どもたちとの出会い、子どもの成長を願う父母の皆さんとの交流、自然界に生息する生物、植物とのふれ合い、農作物を育てる楽しみ、収穫のよろこびと感動、そして国際協力田として飢餓に苦しむマリ共和国への援助米、食の大切さを知る喜び等、幅広い活動の場を提供してくれます。

このように「信大茂菅ふるさと農場」は、人と自然との出会いを教え、教育学部ならではの農場として今日まで発展して参りました。ここでの出会いは必ずや自分の糧となります。私も農場での出会いを大切に、今なお交流を続けている大勢の皆さんに感謝すると共に、来年度も若い皆さんにエネルギーをいただきながら「信大茂菅ふるさと農場」のお手伝いをさせていただき、また我が家のりんご作り、米作りに頑張っていきたいと思います。

◆ 第8代（平成19年度）　「信大茂菅ふるさと農場」の実体験に学ぶ

「信大茂菅ふるさと農場」も開設以来8年目を迎えました。本年も農場長をはじめ、スタッフの皆さん、農場に関わった方々の協力により、無事に初期の目的が達成されました。また、集大成として「YOU遊フェスティバル」が12月8日、9日、志を共にする県内外の大勢の大学生の皆さんと共に盛大に開催され、多くの感動を与えてくれました。私も家内と共に参加させていただき光栄に存じ、感謝すると共に心から御礼申し上げます。

この「信大茂菅ふるさと農場」は学生の皆さんが自ら企画、立案し、自ら実践し、運営、管理する実体験道場です。

日頃、接触することの少ない自然との関わり、土との出会い、作物をつくる、育てる喜び、個性豊かな子どもたちとの接し方、教え方、お父さん、お母さん方に対する会話等、将来、教育者としての夢をかなえてくれる教材が数多く存在しています。毎年、この農場に関わる学生の皆さんは農場に対する体験を求め、意欲に満ちた人たちだから夢があり、新しいものに挑戦する勇気と気概を持ち、自ら求めた夢の達成のためには努力を惜しみません。人は夢が叶えられた時、初めて良い思い出として心に残り、大きく成長していくものです。

また、国際協力田としては、飢餓に苦しむアフリカのマリ共和国にJAの協力を得て、「信大茂菅ふるさと農場」で収穫されたお米を救援米として贈り、その目的を果たしました。

課外活動を通じて「信大茂菅ふるさと農場」に参加された人たちは1年が終わって、初めて自分が果たした役割と達成感を味わい、そして、かけがえのない多くの仲間に出会った喜び、一人では出来ない多くのことを学び、何事にも一生懸命努力をすれば必ず誰かが「共鳴」し、協力してくれることを知り実りの多い年であったと思います。

来年も、後輩の皆さんに一人でも多くの参加者を呼びかけ、「臨床の知」の基本理念に基づく土井教授の「土づくり」による「人づくり」をいつまでも継承されることを願っています。

私も学生の皆さんの若いエネルギーをいただきながら、「信大茂菅ふるさと農場」やりんご作り、米作りに働く楽しさを味わい、健康に努めて参りたいと思います。

スタッフの皆さん大変ご苦労さまでした。

【農作業の合間の一服】

◆ 第9代（平成20年度）　「信大茂菅ふるさと農場」の実体験と人間形成

第7回「YOU遊フェスティバル」が信大教育学部において、11月30日、一年間の集大成として、15の講座が一同に会し、盛大に開催されました。小学生を始め保護者の皆さん、志を共にする県内外の大学生の皆さん、地域の人たち等860余名の参加を得て成功裡に終わりました。参加した人たちはそれぞれ希望する講座で楽しい一日を過ごし、子どもたちは自由にのびのびと活動し、歓声を上げ、皆明るい笑顔を振りまいていました。

このように多くの講座が合同で開催され、準備、運営に携わった各実行委員の皆さんは肉体的にも、精神的にも大変だったと思います。本当にご苦労さまでした。

今回のフェスティバルの成功の原点は、各プラザで一年間、それぞれの分野で活躍した皆さんの努力と養われた実体験がもたらした成果だと思います。人が組織をつくり、組織が人を動かし、和と智の行動により個ではなし得ない大きな力が発揮されることを体験され、今後もリーダーとしての活躍

が期待されます。
私たちも例年通りフェスティバルに参加させていただき、今回も深い感動と喜びを味わい、楽しい1日となりました。「信大茂菅ふるさと農場」も9年を迎え、新しい農場長をはじめ、スタッフの皆さんが誕生し、私たちも共に1年間お手伝いをさせていただきました。
毎年感じることは、参加する子どもたち、保護者、学生の皆さんは皆明るく、何事にも前向きに考え、目的を持って立ち向かう人たちの集まりであると力強く感じられます。農場では農場長の挨拶で始まり、作業内容も図画による視覚教材で幼児にもわかり易く、学生考案による「もすげ音頭」の準備体操から全員手をつなぎ、輪になって廻り、連帯感を深め「働く」「作る」「育てる」を確認して作業を始める。
稲作については、耕起、あぜぬり、代かき、田植え、収穫と続きますが、田植えはすべて手植えで参加者全員が田に入り、ドロ水の感触を肌で感じ、足を取られ転がる子ども、衣服や顔がドロンコになりながらも笑顔で田植えを続ける子どもたちの目の輝き、また、素裸で田植えをする子どもの側でお母さんが笑えみながらいっしょに田植えを続ける姿は、親子の絆と愛情の深さを感じ、ほほえましく、日々、見ることのできない「信大茂菅ふるさと農場」ならではの光景で、自然とのふれあいのすばらしさを教えてくれました。立派に田植えができたのも土井進教授をはじめ農場長を中心としたスタッフの皆さんの気くばり、綿密なサポートがあったからだと思います。
「信大茂菅ふるさと農場」は、ただ農作物を作るということではなく、伝統的に土井教授の「人づくり」のための「土づくり」を基本理念として誕生し、学生の皆さんが自主的に運営、管理、活動する実体験農場として今日までその精神が引継がれ、物の作り方、育て方等あらゆる面での学び得る農場だと思います。農場は自然界との共生であり、計画通りに進まないのが農業であります。机上の計画では知る事のできない数々の課題（気象の変化）が生じ、それがため対応力、応用動作、判断力、決断による実践力等が求められます。これらは、自然界から学ぶ貴重な体験です。
自ら育て、収穫し、農場で皆で食する喜び、食の新鮮な味をかみしめ語り合う笑顔は美しい。収穫した米の一部は例年通り救援米としてマリ共和国に発送し、世界の人々との連帯感を深め、「信大茂菅ふるさと農場」は無事その目的を果たしました。
「信大茂菅ふるさと農場」も10周年目を迎える節目に当り、更に躍進を計るため、「信大茂菅農業義塾」として新たに開設し、学生、児童、保護者、高齢者の4世代の皆さんが一同に会し、交流を深め、農に親しみ、自然の中で語り合う絆を深め、逞しく「生きる力」をこの農場から学び、一歩一歩前進することを願っています。
私たち家族も及ばずながら皆さんとの交流を楽しみ、知識とパワーをいただきながら健康に努め、一年でも長くお手伝いでき、また、我が家のりんごづくり、米づくりに夢を託し頑張りたいと思います。

◆ 第10代（平成21年度）　「信大茂菅ふるさと農場」10周年に思う

1．はじめに

10周年を迎えた「信大茂菅ふるさと農場」の記念事業として、講演会、祝賀会が土井進教授をはじめ、実行委員の皆さんの企画により、平成21年10月10日、信大教育学部において盛大に開催されました。会場には信大教育学部長先生をはじめ、JAながの、地主さん等、大勢の皆さんが参加されました。特に歴代農場にたずさわり、開墾から稲作り、野菜作りに汗を流し、現在教員として、社会人として、県内外で活躍されている大勢の先輩の皆さんの、ご出席をいただき、それぞれ久しぶりの再会に談笑が続く。私たちも、当時をしのびながら、今は社会人として、それぞれの風格を持ち、立派になられた姿に接し、大変うれしく頼もしく感じられました。これも土井教授のご指導のもと、「信大茂菅ふるさと農場」で培った大きな力であると思います。また結婚し、お子様と同席された同志の皆さんの参加は、この農場ならではのほほえましい姿であり、10周年にふさわしい記念事業となり心からお喜び申しあげます。
私も稀くも80歳の傘寿と重なり、家内ともどもお招きいただき、身に余るお言葉と記念品を賜り心から感謝申し上げ、厚く御礼申し上げます。
10年間元気に「信大茂菅ふるさと農場」に携わることができたのも、土井教授をはじめ、学生の皆さん、JAながののご指導や参加された大勢の子どもたちとの楽しい出会いと交流があり、共に作る育てる楽しさを味わい、たくさんのパワーをいただいたおかげと思います。
これからも「信大茂菅ふるさと農場」の「土づくりは人づくり」の理念を守り、記念事業として開設した「信大茂菅農業義塾」も共に一歩一歩確実に前進することを願っています。

2．農場との出会い

職場も定年退職し、第2の職場も65歳で退任、町の公職も70歳で総て終わり、後は残された余生を気楽に好きな事に生き甲斐を求め、楽しみをあれこれと計画をしていた折りの平成12年、信大の土井教授、JAながのの北村さん（営農技術員）、学生の杉山さんがお見えになり、茂菅に教育学部の学生の皆さんによる実体験農場を開設したいとのこと、地元農家としての協力依頼がありましたが、高齢、大学生との交流、我が家の農作業、更なる過重労働、農業に対する知識には自信が無いことを考えて、ご辞退いたしました。お話が進む中で、

（イ）学生の皆さんには学問は知識だけでなく身体で覚え、知ることが大切であり、体験農場として開設したい。
（ロ）学生の皆さんの自主的な共同の活動の場として、企画、立案、実践はすべて行う。
（ハ）休耕田、耕作廃棄地を復元することにより、開拓魂を養い、労働の尊さを学び、人間形成を計る。
（ニ）自然とふれ合い、土にふれ合い、作物を育てることを体験し、良い教師、社会人として成長することを願っている。

以上のようなお話から、及ばずながら協力の約束をして今日に至りました。

今、私が元気でいられるのは、すばらしい出会いと、学生の皆さんからいただいたパワーのお陰と感謝しています。

3．「信大茂菅ふるさと農場」の特徴

この農場は、学生の皆さんの課外活動として自主的に運営管理され、実践を通じて自ら学び育てる体験農場です。また、子どもたちへの農業体験を受け入れ、食と農の理解を深める実践農場でもあります。農場長は立候補制で民主的に運営、管理され、農場に携わる教育学部のスタッフの皆さんが農という未知の世界に飛び込み、苦を伴う肉体労働に挑戦し、汗を流し、土に親しむ。これらによって培われる強い忍耐力と情熱が、農場の伝統として10年間引き継がれてきた由縁ではないでしょうか。

教職を目指す学生の皆さんには、良い教場であり、育てるということは人も植物も同じです。手抜きせず愛をもって育てれば総て豊作となり、人もまた、感性豊かな人となる。学生の皆さんの一人でも多くの参加を望みます。

4．りんご作りと交流

りんご園には、現在、50年以上の老木と更新による3年～7年の幼木が混植されています。その中で労働の配分上、中世種の秋映、陽光、シナノゴールド（9月下旬～10月下旬収穫）と晩生種のサンふじ（10月下旬～11月下旬収穫）の4種類を15アール栽培し、それぞれの嗅覚を持ち、順次収穫されます。これに伴う農作業も順次始まり、1月の剪定から消毒、花つみ、受粉、摘果、葉つみ、玉まわし、主柱立て、収穫へと進みます。色づいたりんごを1個1個取る喜びは、格別です。

また、「信大茂菅ふるさと農場」の出会いから交流が始まり、学生の皆さんの好意により、「あっぷるず」が誕生し、学生の皆さんが都合できる日程、時間帯でお手伝いをしていただいています。心から感謝とお礼を申し上げます。

これからも「信大茂菅ふるさと農場」を通して、若い皆さんのエネルギーをいただきながら健康に留意し、終生現役であることを願っています。

【はぜで2週間自然乾燥させた稲の脱穀作業】

◆ 第11代（平成22年度）　人は組織をつくり、組織は人をつくる

今年も11月21日、「YOU遊フェスティバル」が信大教育学部のキャンパスにおいて、一年間の集大成として大勢の皆さんが参加され盛大に開催されました。心からお喜び申しあげます。また、私たちも家内共々毎年お招きいただき、元気に参加させていただきました。誠に光栄に存じ、ありがたく厚く御礼申しあげます。

フェスティバルには関係する県内外の学生のみなさん200数十名の方が参加され、熱意あふれる中での開催となり、実行委員長の感動的な挨拶から始まりました。ここに参加された皆さんは、それぞれのプラザで自ら計画、実践されました。この一年間、同志の皆さんと苦楽を共に組織を創り、育てながらやり通した達成感と連帯感は、学生時代の良き思い出となるでしょう。

一人で何かをやろうと思ってもなかなかできない。志を同じにする仲間を集め大きな活動をするの

には組織が必要となる。その組織は目的と説明を明確にし、全員参加による組織として育て創らなければならないのです。

人は一人では生きられない。大勢の力が支えあって強く生きられる。「人」という字の一画は直立ではなく斜線である。二画もまた斜線で支えている。支えあった字が「人」である。最低２人の助け合いが必要である。家庭も最低２人が助け合って家庭となる。３人、４人と大勢重なる（協力）と「人」の字は太く強い字となる。各プラザの活動も総て人の支えから始まっています。ここでの良き出逢いをいつまでも大切にしたいものです。

夢中になれるもの、懸命になれるものをどれだけ持っているか、ということが人生の豊かさを左右するといわれます。自ら主体的に判断して体験を積み重ねる努力こそ、次なる成功へと続きます。何か夢中になれるものを求めたい。

昨年は「信大茂菅ふるさと農場」開設10周年を迎え、式典が盛大に開催されました。また、今年は学生による「信大茂菅ふるさと農場」の実践活動が高く評価され、平成22年11月９日、JAながの県ビル・アクティーホールに於いて、第63回JA長野県大会の席上、「虹の懸け橋賞」の大賞が授与されました。県下における優良組合員組織として１年１組織が受賞の対象となり、本年は当農場が受賞しました。誠におめでとうございます。

この大賞に多少なりとも協力できたことに感謝すると共に光栄に存じます。これからも健康に努め、リンゴ。米づくり「信大茂菅ふるさと農場」のお手伝い等、農を楽しみながらバランスのとれた生活を目指し終生現役を願っています。

◆ 第12代（平成23年度）　絆を深め「農」と「ふるさと」を大切に

先輩たちが築いた「信大茂菅ふるさと農場」も早12年となりました。毎年、１年の集大成として実践記録が発刊されます。その原稿依頼が例年どおりありました。私には12回目の投稿となり、表題や作文にはプレッシャーを感じるこの頃です。毎年「信大茂菅ふるさと農場」の新しいスタッフの皆さんとの交流を深め、農を愛し、知人、友人として語り合うことが、私のマンネリ化防止の一助となり、活力と勇気を与えられています。皆さんに支えられて過ごした１年間を、思うがまゝに書かせていただきます。

昨年、平成23年３月11日に起きた東日本大震災、福島第一原子力発電所の破壊事故、県内では飯山、栄村を襲った大地震等により、家族を失い、土地、財産、職場、故郷、更に生命までも一瞬のうちに奪われ、甚大な被害を受けた被災地の皆さんを思うとき、またこれらをわが身に置きかえ想像すると、身のけのよだつ思いと、心の痛みを感じます。殊に原発事故の被害は甚大で、計り知れない怖さがあります。世界で唯一の原発被害国が自国の原発で加害者となり、再度被害を受けた国は日本だけであり、広島、長崎の被爆が忘れ去られたのか、反省があったのか誠に残念であります。高度経済成長を最優先に考え、電化による文明国を目ざし、日本列島至る所に原発が設置されており、地震国日本ではいつ、どこで何が起こるか心配です。このように将来にわたって汚染などの元凶をかかえながらの不安な生活には、どこに安住の地があるというのでしょうか。緑があり、四季があり、故郷があり、人々が互いに助け合い、絆を深め、働く喜びと夢のある生活を求める中、核に頼らない汚染されない代替エネルギーの早期開発が望まれます。

「信大茂菅ふるさと農場」には幸い今回の地震、原発事故による被害もなく、計画通りに、米作り（その一部はアフリカのマリ共和国に救援米として今年は１月13日に発送しました）、野菜作り、各野菜収穫祭、餅つき大会、節分の豆まき等、通年11回の活動がスタッフの皆さんの努力により無事終了しました。責任を果たした安堵感と達成感は、実体験者のみが味わえる最高の感動であります。

緑に囲まれた自然の中で「信大茂菅ふるさと農場」が今日まで継続されていることは、土井進教授をはじめ、学生スタッフの皆さん、子どもや保護者、そしてJAながのの皆さんが一丸となった努力の賜と思います。また農を楽しむという共通の認識があり、絆を深め、この体験はやがてそれぞれの人たちの良き糧となることでしょう。これからも私は、ふるさとを愛し、土からいただく豊かな生活と健康の保持に努めて参りたいと思います。

◆ 第13代（平成24年度）　「信大茂菅 Farming Village」に思う

今年もまた、「信大茂菅ふるさと農場」にかかわった体験による感想、思い出等について、執筆の依頼をいただきました。思えば13回目の投稿となりますが、年々書く事の課題や、内容の難しさに思い悩みますが、健康で楽しみながら農場に携わってきた１年間に感謝し、思うがままに筆を執らせていただきます。

平成24年12月９日に開催されました「YOU遊フェスティバル」に今年もまた、家内共々お招きいただき、２人で参加させていただきましたことを厚くお礼申しあげます。参加させていただく度に深い感動を味わえます。それは、県内外からの200数十名の大学生の皆さんが一同に会して、２日間にわたり子どもたちと過ごした活動の成果と反省を議論し、更なる発展を期し、同志の絆を深め合う姿から、私たち２人にもそのパワーが伝わって参ります。このフェスティバルが、一年でも長く続く

ことを念じてやみません。
さて、「信大茂菅ふるさと農場」のこの１年を振り返りますと、本年は活動内容が大きく変化しました、そして、更なる発展が期待されます。この「農場」には、スタッフが毎年変わる中で、従来先輩たちがやらなかったことなどをふまえ、この「農場」にふさわしい何か新しい活動を毎年１つ追加し、その年の特色ある活動として実践してきた歴史があります。
一例をあげますと、
１．畑作では、落花生、コンニャク芋、ゴーヤ、五穀、ヘチマ、瓢箪、メロン等を栽培し、
２．水田では、泥んこ遊び、フナ、ドジョウ、ザリガニ、カブトエビ等を放流して、その生態などを学ぶ、等々です。
このように、「信大茂菅ふるさと農場」ならではの活動を伝統的に継承してきました。このような事から、今年は何を年間計画に取り入れるかと楽しみにしていましたところ、全く新しい角度から農場の運営企画の立案が示されました。それは、農作業の中に英語を取り入れた活動を実施するとの事でした。私はこの農場に数十年来たずさわってきましたが、予想もつかない提案にしばらく考え込みました。しかし、これは時代の変遷にふさわしい活動計画であり、やがてこの年代の人たちが国際社会で活躍できる第一歩の活動であると思って、感服しました。そして活動の内容を検討し、理解を深め、土井進教授、ダルトン先生のご指導をいただき、「農作業の中に英語を取り入れる」ことを、本年のテーマとして実践することになりました。
１．新たに、農場へ「信大茂菅 Farming Village」の看板を立てる。
２．昨年から小学５年生、６年生への英語活動の導入に対応する。
３．農業も英語も、実践を通して楽しく学び、楽しむ。
４．園児や低学年生には絵を画くなどして、分かり易く表現し、また、ゲーム等を取り入れることにより学生の皆さんとも楽しさを共有する。
これらのことから、「信大茂菅ふるさと農場」は新しい学び舎「信大茂菅 Farming Village」としてスタートしました。
開会式では、農場長をはじめ役員の英語による自己紹介があり、続いて土井教授、小池技術員、私と、順次、紹介となりました。私がこの年齢で、大勢参加されている皆さんの前で、「グッドモーニング、マイネーム、イズ、ハヤシベ」と述べる発声は大変きびしく、終わってホッと致しました。
１年間の活動も無事に終わり、特に英語を含めた活動も回を重ねるごとに関心が高まり、子どもたちの学ぶ姿からは、対応力の柔軟性が感じられました。
これからも時代とともに歩み続ける「信大茂菅 Farming Village」の発展を、心から願っています。

◆ 第 14 代（平成 25 年度） 閉場に伴う 14 年間の思い

「信大茂菅ふるさと農場」も土井進教授の定年退職と共に、平成 25 年度を以て閉場になることを土井教授からお聞きした時には、やはりそういう時が来たかと何か淋しさを感じました。想えば 10 年間の継続を夢見て始めたこの農場は 14 年も続き、思い出多い楽しい農場であったと思います。
14 年間の長きにわたり継続出来たのも、土井教授の教育に対する情熱、学生に対する教育理念、農場を通しての実体験、開拓魂の教え、心豊かな人格形成等、共に学ぶことができましたことは大変光栄に存じ感謝申し上げます。
また、学生の皆さんとの交流を深め、その年の農作業の打ち合わせ、課題、対応等、新しい事業を１つ取り入れて実践してきました。これらのことを年代別の写真により、思い出していますが、農場に携わった人たちは、皆さん明るく、楽しく、健康的で何事にも前向きの姿勢で事に当たり、心豊かな人たちであり、語り合うのがすごく楽しみでした。お陰様でパワーをいただき、今日まで若さと健康を保つことが出来ましたことに感謝致します。今後も農業と自然を愛し、終生現役で過ごしたいと願っています。
卒業された大勢の皆さんは社会人となり、教職に就いて立派にご活躍されています。これも農場で培われた強い精神力と豊かな心で更なる飛躍が期待されます。
子どもたちも学生の皆さんをお兄さん、お姉さんと慕い、楽しく接する姿を見る時、何とも微笑ましい光景でありました。又、農作業を通じて自然の豊かさの中で土に親しみ、お父さん、お母さんと共に農作業をする姿を見る時、親子の絆の深さを感じました。
トイレ休憩の時、軽トラに乗り、我が家のトイレに行く時の子ども達の明るい顔、賑やかな声が響き、これも楽しみの一つではなかったかと思います。また、自由作品のお絵描きの時の真剣な姿を見る時、何とも愛らしい素直な子どもたちであり、成長が楽しみです。
アップルズの活動については、大変お忙しい中、水田、りんご作りとお手伝いをしていただき、今日まで継続できましたことについて厚く御礼申し上げます。また、年間恒例のりんごのお花見会、秋祭り、秋のレクリエーション、新年会、送別会等、楽しい思い出が数多く我が脳裏に刻まれています。
最後の農場長を努めた永原君、副農場長の那須君、飯島さんには、通常の農作業の他に「信大茂菅ふるさと農場」の記念誌の編集作業、古代米による「モスゲ」という字の浮上げに成功し、更に最終行事として脱穀後、斉藤神主による農場への感謝の神事が行われました。この神事には、永松裕樹信大副学部長、JA ながの役員、地主、用水組合、地域の農家、学生の OB・OG、子ども、父母等、150

名の参加により、厳粛の中にも盛大に行われました。最後に看板を取りはずし総ての神事が滞りなく終えることができました。昼食には古代米を加えた赤飯、焼きさつま芋が全員に配られおいしくいただきました。

役員の皆さん、そして関わったスタッフの皆さん、本当にご苦労様でした。

14年間お世話になった農場との無事の別れには感無量のものがあり、唯々「ありがとう」と申しあげる次第です。

ゲストティーチャー林部信造翁による特別講演

平成14年1月27日

信州大学教育学部 N301 講義室

「信大茂菅ふるさと農場」の活動が始まって2年目の冬、林部信造さんは信州大学教育学部の「生活科指導法基礎」のゲストティーチャーとして招待され、受講学生のために「りんご作り」に関する特別講演をされました。

演題「りんご作りについて」

一、りんごの品種と収穫時期
二、りんごの適地
三、肥料
四、りんごの栽植・栽培区分
五、剪定作業
六、消毒
七、人工交配
八、摘花
九、摘果
十、灌水
十一、敷わら
十二、霜害
十三、葉つみ
十四、玉廻し
十五、主柱立て
十六、鳥外対策
十七、収穫
十八、選別
十九、結び

＜結びの言葉＞

りんご作りも、人づくりも、同じだと思います。りんごの木は無語と思いましたが、語りかけ、求めて来ます。それに応え、即決断、実行しないで手抜きをすると、商品価値のない不良果となって、木は答を出します。教育学部ということで、子どもと合わせてみました。

子ども社会も同じだと思います。それぞれ異なった環境で育ち、感情が有り、個性がありますが、その人格を尊重し、手抜きせず、愛情をもって多く接すれば、必ず明るい、たくましい人格が形成されます。

「信大茂菅ふるさと農場」 10周年　記念講演会

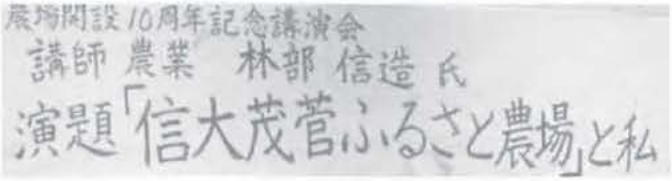
平成21年10月10日
信州大学教育学部 E504 講義室

「信大茂菅ふるさと農場」の活動が10年目を迎えた秋、信州大学教育学部にて「信大茂菅ふるさと農場10周年記念式典」が行われました。

その席上、林部信造翁はこれまでの10年間を振り返り、「信大茂菅ふるさと農場と私」という演題で記念講演をされました。

演題「信大茂菅ふるさと農場と私」

一、はじめに
二、土井先生との出会い
三、協力をお引き受けする
四、ふるさと農場十年の実体験から
【田における活動】
・ふな放流
・どろんこ遊び
・稲穂から学ぶ食の大切さ
・五穀豊穣
・しめ縄作り
・田植えと親子の絆
・生体の研究
【畑における活動】
・農に生きる　敵地適作
・勤め人　適材適所
【茂菅農場の全体像として】
・準備体操
・青空教室
・五年目の折り返し点
・シンポジウムの感動
五、私が「ふるさと農場」や学生の皆さんから学んだもの、頂いたもの
六、りんご栽培から学ぶ
七、新しい活動　更に十年
八、最後に「信大茂菅ふるさと農場」十周年継続の御礼



「信大茂菅ふるさと農場」で過ごした14年間の総括

― 林部ご夫妻が最後に伝えたいこと―

14年間継続した「信大茂菅ふるさと農場」が、土井進教授の定年退職に伴い、平成25年度をもって閉場となりますが、誠に残念であり淋しい思いであります。これも時代の流れであり歴史の終息かと痛感しております。

振り返れば、平成12年に信大教育学部の土井進教授始め、大学生の杉山さん、JAながの営農技術員の北村さんが農場に対する協力依頼に初めて我が家にお越しいただきました。土井教授の学生に対する農業を通じての教育理念、社会力の育成による人格形成、そして「人づくりのための土づくり」等々、農の原点と思われるお話をされ、深い感動を覚えると共に先生の人柄に接し、大学生の皆さんに多少なりともお役に立つことができたらと協力をさせていただくことに致しましたことを思い出しました。

以来14年間、毎年替わる学生の皆さんの自主的な活動から農業に対する疑問、課題、難題等、数多くの相談を受ける反面、私自身も勉強し、知識を深めながら携わった数々の思い出を、毎年発刊される実践記録に留めることができました。これは一重に「信大茂菅ふるさと農場」での出会いを大切にし、若いパワーをいただき、健康で継続できたことへの証であり、私にとっては何よりも温かい贈り物であるとお心から感謝し、光栄に存じております。

「信大茂菅ふるさと農場」での実体験から作る、育てる、楽しさを学び、苦楽を共にした同志の皆さんとの交流、農場から培われた強靭な精神力と行動力をもった立派な人たちであります。これからも健康に留意しながらご活躍ください。

土井進教授と14年間、家内共々「信大茂菅ふるさと農場」で活動できましたことは、私たちにとって最高の幸せであり光栄に存じております。今後ともよろしくお願い致します。

最後に「アップルズ」の活動に対する、りんご作り、米作りのお手伝い、ありがとうございました。コーヒーや食事をはさんで家内共々語り合ったことは、今は懐かしく思い、夢のような楽しい生活でありました。これからも皆様方と末長く交流が出来れば幸いと存じます。いつでも皆さんのお越しを心からお待ちしております。

林部 信造・幸子

編集後記

（土井）編集委員長！２年間にわたる取材、執筆、編集作業、本当にご苦労さま。立派な農場記念誌ができあがり、おめでとう！　（那須）ありがとうございます。編集作業の過程で多くの卒業生、JA ながのの皆様、地主さん、地元用水組合の皆様と語り合うことができ、とても勉強になりました。

（土井）このような本を刊行する費用は「YOU 遊」には１銭もないのですが、資金繰りはどうされましたか？　（那須）林部さんと一緒にながの農業協同組合代表理事組合長さんをお訪ねしお願いしたところ、多額の資金を拠出して下さいました。また、林部さんご自身も多額の資金を拠出して下さいました。

（土井）誠にありがとうございます。茂菅農場の始終は地域社会の皆様の絶大なるご理解とご協力の賜物であったことを、今改めて実感します。大変困難な編集委員長の重責を果たされた今の想いを語っていただけませんか。　（那須）今の想いを一言で表すと、ホッとしています。この記念誌の原稿執筆には、120 名の方にご協力をいただきました。そして、頂いた原稿はどれも茂菅農場や、お世話になった方々への感謝の想いがつまっていました。この皆さんの 14 年分の感謝の想いを１つの記念誌にまとめることが、私に果たしてできるのか、とても不安でした。しかし、私自身が副農場長として１年間茂菅農場の活動に携わる中で、本当に多くの方々の支えによって、茂菅農場の活動が成り立っていることを実感しました。そして、皆さんを代表して茂菅農場記念誌の編集をさせていただくことに誇りをもち、必ず記念誌を完成させる決心を抱くことができました。この記念誌は、茂菅農場を通して生まれた皆さんの「感謝」を形にしたものです。ですので、皆さんの感謝のふるさとである茂菅農場を思い出したくなった時、この記念誌が少しでもお役に立てれば幸いです。最後に、取材やら原稿執筆にご協力をいただいた全ての皆様に、心から御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。　平成 25（2013）年 12 月 15 日

＜茂菅農場記念誌編集委員会＞（◎委員長　○副委員長）
◎那須絢太郎 ○高坂 泉 ○手塚亮介 ○井上甲斐
○遠山芽衣　井出愛香　菊池智香　澗口歩美
町田香帆　北村隼一　永原正裕　飯島香純
JA=小池　健　農業=林部信造　書家=林部幸子
教員=土井　進

茂菅農場記念誌

信大茂菅ふるさと農場　―“人づくり”への挑戦―

2014（平成 26）年２月１日印刷 ©
2014（平成 26）年２月４日発行

編　集　茂菅農場記念誌編集委員会
発行人　土　井　　進
E-Mail:doisusm@shinshu-u.ac.jp
発　行　信州大学　教育学部　教師教育学研究室
〒380-8544　長野市西長野６－ロ
TEL　026-238-4260　　FAX　026-238-4260
制　作　オフィス春日
E-Mail:xmbxp210@ybb.ne.jp